

史 跡

上 之 国 館 跡 II

—平成20年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書—

2009・3

上ノ国町教育委員会

序

勝山館跡は、昭和52年に花沢館跡と共に国の史跡に指定され、昭和62年に夷王山墳墓群を含めた一部が追加指定されました。さらに、平成18年3月には洲崎館跡が国の史跡に指定されたのを受け、これら三館を総称し「史跡上之国館跡」と名称が変更されました。

勝山館跡の整備を伴う発掘調査は昭和54年9月から始まり、国庫補助整備事業のうち一般整備事業、史跡等活用特別事業等により勝山館跡主郭（第二平坦面）を中心に整備を進めて参りました。その間、文化庁、北海道教育委員会、史跡整備検討委員会をはじめとする各関係機関の皆様にご助言をいただきながら、館神八幡宮跡、クラ・コヤ跡、客殿跡周辺部、さらには土塁・柵列、中央通路、櫓門跡を復元することができました。

このような館跡の様子をご来場された皆様により深く理解していただくために、平成15年3月には「勝山館跡ガイダンス施設」も建設されました。

また、勝山館跡直下には「重要文化財旧笹浪家住宅」、「町指定文化財上ノ国八幡宮本殿」、「重要文化財上ノ国寺本堂」といった北海道で現存する民家、社寺建築としてそれぞれ最も古いとされる建物が情緒豊かに風情を保ちながら建ち並んでおります。それらのうち「重要文化財上ノ国寺本堂」では、平成20年12月より文化庁の補助をいただき保存修理工事に着手いたしております。

近年、これら二つのゾーンを繋ぐ通路の重要性が高まり、文化庁、北海道教育委員会そして、史跡整備検討委員会委員各位のご快諾を得まして平成19年度より整備を前提とした遺構確認調査をさせていただくことになりました。昨年度は中央通路の延長線上にあたる第一平坦面（旧道跡）の調査を行い、今年度は引き続き調査結果を踏まえ、旧道跡と荒神堂跡を実施したところであります。

調査結果につきましては、勝山館跡の今までの調査で想定されていなかった新たな発見があり、来年度以降の調査に一層の期待を寄せているところであります。

事業推進にあたり文化庁、北海道教育委員会、上ノ国町史跡整備検討委員会委員の皆さまをはじめとする各関係機関の多くの方々に多大なご協力を賜りましたことを衷心より感謝申し上げますところであり、今後におきましてもより一層のご教導をお願い申し上げます。

平成21年3月

北海道上ノ国町教育委員会教育長 金子 廣

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版

例言／引用参考文献

I 上之国館跡の調査	1
1. 調査にいたる経緯	1
2. 調査位置・目的	1
3. 調査方法	1
4. 調査経過	2
5. 基本層序	2
II 遺構確認調査の概要	6
1. 検出遺構	6
2. 出土遺物	18
III 絵図・文献史料から見た荒神堂跡	59
1. 絵図から見た荒神堂跡	59
2. 文献史料から見た荒神堂跡	59
IV 小括	62
V まとめ	64

挿図目次

第1図 調査区位置図	3
第2図 年次別調査範囲図	5
第3図 '07年度調査区 トレンチ1～3 遺構配置図	7
第4図 トレンチ4～10 荒神堂跡 遺構配置図	9
第5図 トレンチ1 遺構平面図他	27
第6図 トレンチ2 遺構平面図他	28
第7図 トレンチ3 平面図	29
第8図 トレンチ3 土壌3 平面図他	31
第9図 トレンチ4 遺構平面図他	33
第10図 トレンチ4 土壌4・7 平面図他	35
第11図 トレンチ5 平面図他	37
第12図 トレンチ6・7 遺構平面図他	39
第13図 トレンチ8～10 荒神堂跡 遺構平面図	41
第14図 トレンチ9・10 荒神堂跡 セクション図他	43

第15図 土壌9・11・13・14・17、溝10、炭範囲3 遺構平面図他	46
第16図 荒神堂跡(I層) 礎分布状況	47
第17図 荒神堂跡(II・III層) 遺構平面図他	48
第18図 出土遺物(青磁、白磁、染付、赤絵)	49
第19図 出土遺物(瀬戸・美濃、鉄釉、灰釉、志野、唐津、かわらけ、珠洲、越前、近世陶磁器)	50
第20図 出土遺物(鉄製品)	51
第21図 出土遺物(鉄製品、銅製品、銭貨)	52
第22図 出土遺物(銭貨)	53
第23図 出土遺物(銭貨、骨角器、土製品、石製品、縄文土器・石器)	54

表目次

表1 トレンチ1 南北セクション東壁土層観察表(A～A'')	20
表2 トレンチ1 南北セクション東壁土層観察表(B～B'')	20
表3 トレンチ3 東西セクション北壁土層観察表(A～A''''')	21
表4 トレンチ3 南北セクション西壁土層観察表(B～B''''')	21
表5 トレンチ3 東西セクション南壁土層観察表(C～C'')	22
表6 トレンチ3 東西セクション南壁土層観察表(D～D'')	22
表7 トレンチ3 南北セクション東壁土層観察表(E～E'')	23
表8 トレンチ3 南北セクション西壁土層観察表(F～F'')	23
表9 トレンチ4 南北セクション東壁土層観察表(A～A''''')	24
表10 トレンチ4 溝5・礫範囲土層観察表(B～B')	24
表11 トレンチ5 南北セクション西壁土層観察表(A～A''''')	24
表12 トレンチ5 炭範囲土層観察表(B～B')	25
表13 トレンチ6 南北セクション東壁土層観察表(A～A')	25
表14 トレンチ7 南北セクション東壁土層観察表(A～A'')	26
表15 トレンチ7 東西セクション南壁土層観察表(B～B')	26

表16	トレンチ8 東西セクション北壁土層観察表 (A ~ A'')	26	P L. 11	遺構検出状況
表17	トレンチ9・10・荒神堂東西セクション 北壁土層観察表(B ~ B''')	36	P L. 12	遺構検出状況
表18	荒神堂南北セクション西壁土層観察表 (D ~ D'')	45	P L. 13	トレンチ1 ~ 3 遺構検出状況
表19	土壇2土層観察表	45	P L. 14	トレンチ3・4 遺構検出状況
表20	土壇4土層観察表	45	P L. 15	トレンチ5・7 遺構検出状況
表21	土壇6土層観察表	45	P L. 16	トレンチ8・荒神堂跡 遺構検出状況
表22	土壇9土層観察表	45	P L. 17	トレンチ9・10 遺構検出状況
表23	土壇12土層観察表	45	P L. 18	出土遺物 (青磁、白磁、染付、朝鮮、 瀬戸・美濃、志野、唐津)
表24	土壇13土層観察表	45	P L. 19	出土遺物 (珠洲、越前、かわらけ、 近世陶磁器、鉄製品)
表25	土壇14土層観察表	45	P L. 20	出土遺物 (銅製品、銭貨)
表26	土壇15土層観察表	45	P L. 21	出土遺物 (鍛冶関連遺物、土製品、 骨角器、石製品、縄文土器・石器)
表27	トレンチ2南北セクション西壁土層観察表 (A ~ A''')	28	P L. 22	上ノ国絵図・過年度調査遺構
表28	トレンチ2東西セクション南壁土層観察表 (B ~ B')	28		
表29	トレンチ9南北セクション西壁土層観察表 (C ~ C')	43		
表30	荒神堂礎石跡土層観察表 (E ~ E')	43		
表31	荒神堂柵跡土層観察表 (F ~ F')	43		
表32	荒神堂盛土土層観察表 (G ~ G')	43		
表33	勝山館跡 出土遺物観察表	55		
表34	勝山館跡 出土遺物集計表	58		
表35	中世土器・陶磁器 種類器種別組成表	58		
表36	青磁 器種・分類別組成表	58		
表37	白磁 器種・分類別組成表	58		
表38	染付 器種・分類別組成表	58		
表39	荒神堂跡の発掘調査・ 文献史料・絵図の整合関係	63		

写真図版

P L. 1	遺構検出状況
P L. 2	遺構検出状況
P L. 3	遺構検出状況
P L. 4	出土遺物・古記録
P L. 5	調査前風景
P L. 6	遺構検出状況
P L. 7	遺構検出状況
P L. 8	遺構検出状況
P L. 9	遺構検出状況
P L. 10	遺構検出状況

例 言

1. 本書は史跡上之国館跡勝山館跡の史跡等・登録記念物保存修理事業に伴う平成20年度の発掘調査・整備事業の報告をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

指導 史跡上之国勝山館跡調査研究専門員

朝尾直弘 京都橘女子大学教授

榎森 進 東北学院大学教授

仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授

上ノ国町史跡整備検討委員会

仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森 進 東北学院大学教授

鈴木 亘 元鶴見大学講師

田中哲雄 東北芸術工科大学教授

宮本長二郎 元東北芸術工科大学教授

渡辺定夫 東京大学名誉教授

松崎水穂 函館市埋蔵文化財事業団

上ノ国町文化財保護審議会 特別委員

羽深久夫 専修大学

主管 上ノ国町教育委員会事務局

局長 渡部孝之

参事 八木橋 彰

生涯学習・文化財グループ

主幹 小林 真

主査・学芸員 斎藤邦典 (担当者)

主査 竹内 宏 (~3月)

主事 湊田俊一郎 (4月~)

学芸員 塚田直哉

(担当者・調査員)

文化財アドバイザー 久末久義

作業員 池田泰子 井越祥子 勝田百香

川口泰子 鈴木千春 星野由紀子

目黒加奈子 森しのぶ 森美奈子

3. 本書の編集・執筆は、塚田が行った。遺構・遺物の実測図及び図版等の作成は、作業員が行なった。

4. 本書に掲載した写真の撮影は、塚田が行なった。写真の撮影は、35mmカラーリバーサル、カラー

ネガの2種類のフィルムを使用した。

5. 挿図の縮尺は、各図にスケールを付して示した。写真の縮尺は不統一である。

6. 遺物の点数については、現場での取り上げ点数を表す。

7. 過年度調査の遺構表記は、その遺構が検出された調査年度を遺構番号の前に付し、'98土壙4、'07竪穴1のようにした。

8. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」(農林水産技術会議事務局1993)を使用した。

9. 陶磁器の分類は、肥前系陶磁器が大橋編年(九州近世陶磁学会2000)、瀬戸・美濃が藤澤編年(藤澤2002)、珠洲が吉岡編年(吉岡1994)、越前が朝倉氏遺跡資料館報告書の分類表記(朝倉氏遺跡資料館1983)、白磁が森田編年(森田1982)、染付が小野編年(小野1982)、青磁が横田・森田編年・上田編年(上田1982)をもとに作成された国立歴史民俗博物館の分類表記(国立歴史民俗博物館1994)を用いた。

縄文土器の分類は、北海道埋蔵文化財センター報告書の分類表記(北海道埋蔵文化財センター2006)を参考にして行った。

10. 本書に掲載した文献史料の解説文は、『笹浪氏諸留』を上ノ国町教育委員会事務局局長渡部孝之氏、『當御上様御通行之節手継扣』を江差町教育委員会宮原浩氏・渡部孝之氏が解説したものを塚田が編集をした。それらに誤り等がある場合はすべて塚田の責任である。

11. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。

12. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。

記して感謝申し上げたい(敬称略)。

文化庁記念物課 市原富士夫 山下信一郎

美術学芸課 原田昌幸 北海道教育庁文化・スポーツ課 種市幸生 千葉英一 高橋和樹 田

才雅彦 長沼孝 田中哲郎 中田由香 札幌医科大学 松村博文 北海学園大学 澤井玄 函

館工業高等専門学校 中村和之 弘前大学 関根達人 東北芸術工科大学 福田正宏 早稲田

大学 谷川章雄 筑波大学 鈴間智子 千葉商

科大学 朽木量 奈良大学 千田嘉博 平取町
教育委員会 長田佳宏 洞爺湖町教育委員会
角田隆志 函館市教育委員会 野村祐一 北斗
市教育委員会 森靖裕 江差町教育委員会 宮
原浩 厚沢部町教育委員会 石井淳平 五所川
原市教育委員会 榊原滋高 盛岡市教育委員会
室野秀文 水戸市教育委員会 関口慶久 北海
道埋蔵文化財センター 村田大 越田賢一郎

田口尚 瀬戸市埋蔵文化財センター 河合君近
北海道ウタリ協会 佐藤幸雄 函館市埋蔵文化
財事業団 佐藤一夫 文化財建造物保存技術協
会 小幡長治 北海道開拓記念館 右代啓視
山田悟郎 富良野市博物館 澤田健 函館市北
方民族資料館 小林貢 松前城資料館 久保泰
国立歴史民俗博物館 西本豊弘 小島道裕

引用参考文献

- 朝倉氏遺跡資料館 1983『県道鯖江・美山線改良
工事に伴う発掘調査報告書』
- 網野善彦・石井進編 2001「上之国勝山館跡と夷
王山墳墓群から見えるもの」『北から見直
す日本史』大和書房
- 石井 進 2002「中世のかたち」『日本の中世1』
中央公論新社
- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類につ
いて」『貿易陶磁研究』第2号
- 宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴
史民俗博物館研究報告書』第40集
- 小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類
とその年代」『貿易陶磁研究』第2号
- 上ノ国町教育委員会 1980～2005『史跡上之国勝
山館跡Ⅰ～ⅩⅩⅥ』
2006・2007『史跡上之国館跡整備事業
報告書Ⅰ～Ⅱ』
2008『史跡上之国館跡Ⅰ』
- 国立歴史民俗博物館 1994『日本出土の貿易陶磁
東日本編1』国立歴史民俗博物館資料調
査報告書5
- 永井久美男 1998『近世の出土銭Ⅱ－分類図版
篇－』兵庫埋蔵銭調査会
- 永井久美男 2002『新版 中世出土銭の分類図版』
兵庫埋蔵銭調査会
- 藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」
『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 研究
紀要 第10輯』
- 北海道庁 1916『北海道史』
- 北海道庁 1969「新羅之記録」『新北海道史』第七
卷 史料一
- 松崎岩穂 1956『上ノ国村史』上ノ国村
- 松崎岩穂 1962『続上ノ国村史』上ノ国村
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と
編年」『貿易陶磁研究』第2号
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

I. 上之国館跡の調査

1. 調査にいたる経緯

15世紀中頃に築城された花沢館跡・洲崎館跡・勝山館跡は、松山郡上ノ国町を流れる天ノ川河口周辺に所在している。

これらの三跡は、昭和52年4月に花沢館跡と勝山館跡が国の史跡に指定され、さらに平成18年3月に洲崎館跡が国の史跡に指定され、「上之国館跡

花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡」と名称が変更されている。

そのうち勝山館跡は、昭和54年から約30年にわたり発掘調査が実施され、掘立柱建物の遺構や中国や本州産の陶磁器、アイヌが使用した骨角器など約7万点（自然遺物を除く）を超える遺物が出土している。

平成20年7月には、その勝山館跡から出土した遺物の921点が国の重要文化財に指定されている。

勝山館跡の直下には、国指定重要文化財の上國寺本堂・旧笹浪家住宅、町指定文化財の上ノ國八幡宮本殿が直線距離で約80mの範囲内に建ち並ぶ。これらの建物は、それぞれ現存する道内の社寺及び民家建築で最も古いとされ、非常に狭い地域に多くの文化財が集中する景観を有している。

現在、勝山館跡の整備事業計画では、上國寺と上ノ國八幡宮の間の登り口から館へ至る旧道跡の整備を予定しており、今年度も整備に伴う発掘調査が実施された。

2. 調査位置・目的

今年度の調査は、勝山館跡大手に広がる第一平坦面北東側から荒神堂跡までの旧道跡が想定される箇所に調査区を設定した。

調査の目的は、勝山館跡の旧道及び荒神堂跡の確認である。

勝山館跡に至る現在の通路は、自然研究路（探勝路）として昭和45年に整備されたものである。

それ以前にもこの通路は、畑へ行く道として利用されていた。

さらに、この通路は勝山館廃絶後の江戸時代に松前藩主が家督を継ぐと必ず1度、上ノ国三社（砂館神社、上ノ国八幡宮、夷王山神社）へ参拝する上ノ国祖廟詣や、毎年正月に家臣が藩主の代わりに上ノ

国三社へ奉幣する上ノ国三社代参といった行事の際に往来する道であったため、参道や御代参道路と呼ばれていた。

但し、いつ頃からこのような行事が行われたかは明確でないが、記録等で6代藩主矩広の頃から代々上ノ国への参詣をみることができる。

勝山館跡の旧道の調査は、昨年度も実施され、主郭から縦貫して延びる中央通路と虎口とされる部分でカーブする通路の2つが検出されている。その他では、先に挙げた江戸時代の旧道跡も確認されている。

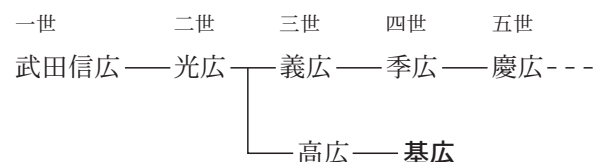
今年度の旧道跡の調査では、昨年度確認された2つの旧道跡の延長部分について遺構確認を行った。

荒神堂跡は、大永元(1521)年父高広に代わり勝山館城代を務めた蠣崎基広が、天文17年(1548)4世季広に対する謀叛の罪により殺され、翌年の天文18年(1549)に鎮魂のため堂を建てたことが記録される（『新羅之記録』所収）。

現在では、その堂を建てた場所が荒神堂跡として伝えられ、石が一辺約170cmの正方形に積まれている。

荒神堂跡の調査は、発掘調査の他に絵図と文献史料を参考にしている。それらの詳細については、「Ⅲ 絵図・文献史料から見た荒神跡」の項に掲載しているのでそちらを参照されたいが、文献史料の記述から後世に荒神堂跡が造替えられていることが予想された。

松前氏略系図



3. 調査方法

調査は、昭和55年度に設定した勝山館跡のグリッドを使用した。

勝山館跡のグリッドは、20×20mの大グリッドとそれをさらに25分割した4×4mの中グリッドで構成されている。

大グリッドは、北西から南東方向にアルファベツ

トを付し、それに直交する北東から南西方向に数字を付し、8L、15Kなどと表記した。

中グリッドは、北西から南東方向に1～5、その南西方向に順に6～10と付し、大グリッドと中グリッドを組み合わせて8L14、15K3などと表記した。

調査は、中世面まで掘り下げて勝山館時代の遺構を検出した。

中世の遺構は、土壌を半截、トレンチ内の溝を完掘、柱穴については段下げをして確認を行った。

近世の遺構は、原則として中世のものと同じく扱ったが、近世の遺構の下位に中世の遺構が確認された場合は完掘を行っている。

実測図は、平面図・セクション図を1/20、人骨などの微細図等は1/10の縮尺を用いた。

遺構番号は、種類別で検出された順に遺構の番号を付した。

遺物の取り上げは、平板で行った。中世の包含層・遺構から出土した遺物は、出土地点、標高値を記録し、層位ごとに取り上げを行なった。

近世以降（I層、II層）の遺物については、グリッド・層位ごとに取り上げた。

4. 調査経過

5月 機材等の搬入を行ない、調査区の設定をした。人力で表土剥ぎを行い、トレンチ1で竪穴建物跡（竪穴109）、トレンチ3で空壕（空壕C）を検出した。

昨年度検出された江戸時代の旧道跡と思われる溝跡2本の延長を確認した。

6月 トレンチ3の空壕C北側で削り出しの土塁状の高まりを検出した。荒神堂跡の表土層除去後の礫の実測図を作成した。

7月 トレンチ3の土壌5で検出された人骨を発泡ウレタンで周囲を固定して取り上げを行った。トレンチ5の斜面下から東頭位の伸展葬の土葬墓（土壌10）を検出した。

江戸時代の旧道跡（溝3）を完掘した。

8月 荒神堂跡の調査で天保11年に改修されたと思われる玉垣跡（柵1）や石積範囲（土壌8）を確認した。

さらに、天保11年の改修より古い、布掘りの柵（柵2）を確認した。

9月 荒神堂跡で鳥居（門）跡と考えられる柱

穴を検出した。また、荒神堂跡西側に平坦地を造成した盛土範囲を確認した。

10月 函館市埋蔵文化財事業団の佐藤一夫理事長に来町して頂き、土壌3・7・9・10人骨の取り上げを行った。

調査区周辺を100分の1スケールで地形測量を実施した。

11月 調査区の清掃をして、調査終了の写真を撮影した。

調査区の埋め戻しを行い、斜面部分には土嚢を積み養生をした。なお、次年度再調査部分には、浅く埋め戻しを行いシートした。

埋め戻し後に機材の撤去をして調査を終了した。

5. 基本層序

I層：近現代に相当する堆積層である。

II層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年代降灰のKo-d（駒ヶ岳d）火山灰の層を含む。この火山灰層は上層を近世面、下層を中世面と区別するために目安としている層である。

III層：中世（15～16世紀）に相当する整地層である。

IV層：縄文～擦文時代に相当する堆積層で、3層に細分される。

IV a層：黒色の腐植土層で、擦文時代に相当する層である。

IV b層：IV a層の下層に堆積する10世紀中葉以降の降灰のB-Tm（白頭山－苦小牧）火山灰層である。

IV c層：IV b層の下層に堆積する黒色の腐植土層で、縄文時代に相当する層である。

V層：無遺物層で2層に細分される。

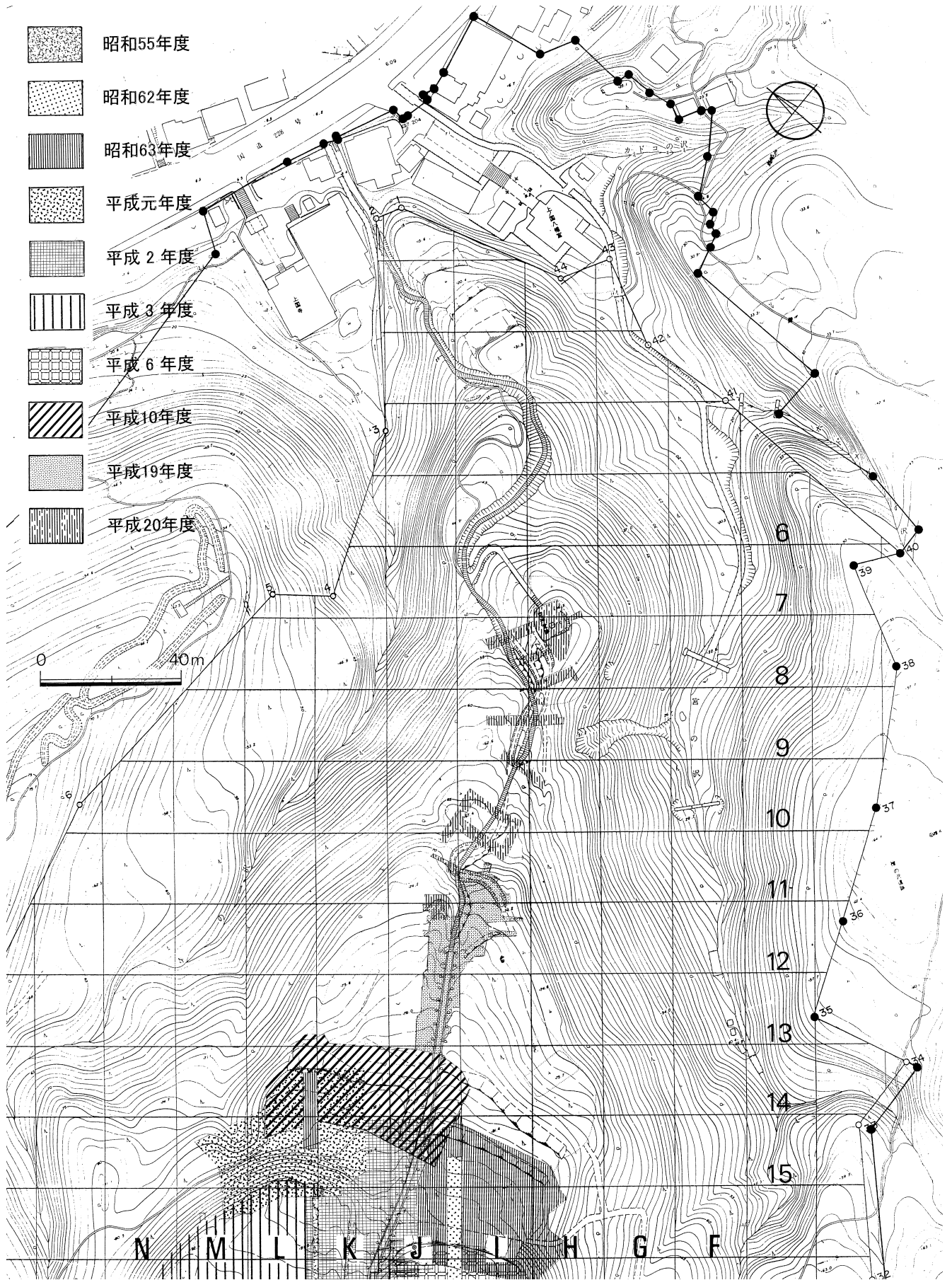
V a層：ソフトローム層である。

V b層：ハードローム層である。

VI層：無遺物層で礫及び礫粒を多量に含む礫層である。

折込 第1図

折込うら (白)



第2図 年次別調査範囲図

II. 遺構確認調査の概要

1. 検出遺構（3～17図、PL1～3・4～17）

本調査では、勝山館と勝山館廃絶後の江戸時代の遺構が検出された。

勝山館の遺構は、中央通路・側溝、空壕（空壕C）、土塁、竪穴建物跡2棟（竪穴109～110）、土壇9基（土壇1・2・4・6・7・10～12・15）、溝12条（溝1・2・5～8・12～16・19）、炭化物範囲4基（炭範囲1～4）、柱穴等を検出した。

江戸時代の遺構は、道路跡と思われる溝5条（溝3・4・9・11・17）、土壇8基（土壇3・5・8・9・13・14・16・17）、柵2条（柵1・2）、鳥居（門）跡、柱穴等を検出した。その他、時期不明の遺構として溝10・18を検出した。

以下、トレンチ毎に検出された遺構の概要を述べる。

トレンチ1

（5図、PL1-1・2、5-1、6-1～3、13-1・2）
〔位置〕トレンチ1は、第一平坦面北東側の現代の通路西側の11J23～25、12J3～5グリッドに設定した。

〔検出遺構〕中央通路と側溝（溝1）、竪穴建物跡1棟（竪穴109）、土壇1基（土壇1）、溝1条（溝2）、柱穴が検出された。

中央通路・側溝（5図、PL1-1、6-1・2）

〔位置〕トレンチ1の11J24・25、12J4・5グリッドに位置する。

昨年度の調査では、勝山館跡の主郭とされる第二平坦面から延びる中央通路及び側溝（'07溝5・6）を確認した。これら側溝と考えられた'07溝5・6は、いずれも江戸時代以降の削平などで壊され、12J13～15以降の行き先が不明となった。その後、昨年度のトレンチ5・7・10で'07溝5の延長と考えられる溝が確認されたため、中央通路がほぼ真っ直ぐに延びていることが想定された。但し、このルートは、その先が急な斜面になるため、往来するには困難が伴う。そのため、もう一方のルートとして中央通路が'07溝21のあたりに延びることも想定されている。

今年度検出した中央通路西側の側溝である溝1は、昨年度検出した'07溝5に延長するものである。〔形態・規模〕調査では、中央通路東側の道路面が

江戸時代以降の整地等で削平されているため、道路幅の計測はできなかった。中央通路西側の側溝とした溝1は、北東方向に延び幅約80cm、深さ約30cmを測る。

〔堆積土〕中央通路と考えた箇所は、ローム質の土に2～3cmの玉砂利が混入した硬化面が確認された。溝1は2層に分層され、暗褐色土が堆積している。〔新旧関係〕溝1は、近世以降の削平により壊されている。

〔出土遺物〕溝1では、瀬戸・美濃灰釉丸碗A（大1）1点、不明皿（大1・2）1点、骨角器（中柄・鏃?）4点が出土している。

竪穴109（5図、PL1-2）

〔位置〕トレンチ1の11J23～25、12J3～5グリッドに位置する。調査は、約50cm幅のトレンチを入れて確認を行った。

〔形態・規模〕北東方向を長軸にして、長軸365cm、短軸165cmの長方形で深さ42cmを測る。入口と思われる張り出しは確認されなかった。

〔堆積土〕ロームブロックを多く含み、人為的に埋め戻されている。

〔新旧関係〕Pit9より新しい。

〔出土遺物〕染付皿（B1群）1点、瀬戸・美濃灰釉端反皿（大1）1点・不明皿（大1・2）1点、越前播鉢2点（群不明）、鉄製品釘4点・小札1点が出土している。

土壇1（5図、PL6-3）

〔位置〕トレンチ1の12J4グリッドに位置する。調査は、平面形を検出したのみである。

〔形態・規模〕調査区外へ延びるため不明である。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

溝2（6図、PL1-4）

〔位置〕トレンチ1の11J24グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北東～南西方向に長軸をとり、幅32cm、深さ20cmを測る。

〔堆積土〕3層に分層され、暗褐色を呈する。

〔新旧関係〕Pit1～3より古い。

〔出土遺物〕瀬戸・美濃灰釉丸碗A（大1）1点、不明溶解物1点、剥片石器2点が出土している。

トレンチ2（6図、PL1-3・4、5-2・6-4・5、13-3）

〔位置〕トレンチ2は、第一平坦面北東側斜面の現

折込 第3図

折込うら (白)

折込 第4図

折込うら (白)

代の通路の西側の11J9・10・14・15、11I11グリッドに設定した。

〔検出遺構〕溝3条(溝3、溝4、溝16)が検出された。溝3・4は、江戸時代の遺構である。

溝3 (6～11図、PL1-5・6-6)

〔位置〕トレンチ2～5の9I9・10・14・15・24、10I4・18・22、11J10・15グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北東～南西方向に長軸をとり、幅150cm、深さ20～55cmを呈する。トレンチ2では、'07近世道路方向にカーブして、調査区南西で溝3のプランを検出できなかった。

〔堆積土〕自然堆積を呈する。

〔新旧関係〕溝4より古く、空壕Cより新しい。

〔出土遺物〕白磁皿(D群)1点、染付皿(B1群)1点、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗(大1・2)1点、灰釉端反皿(大1)7点、越前播鉢(群不明)3点、鉄製品鎌2点・釘5点・鍋3点・不明1点、銅製品煙管1点・銭1点(寛永通寶3期)、土製品羽口1点、鍛冶関連遺物鉄滓10点・不明溶解物4点、石製品砥石1点、縄文土器2点、礫石器1点が出土している。

溝4 (6～11図、PL1-5・6-5)

〔位置〕トレンチ2～5の9H11、9I25、10I5・18・19・23・24、11I2・3グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北東～南西方向に長軸をとり、幅約1m、深さ50cmを測る。溝4は、トレンチ2から現在の通路である自然研究路とほぼ併行してトレンチ5まで延びていることが確認された。但し、トレンチ2では南側へ屈曲して昨年度検出された'07近世道路に延びることが確認された。

〔堆積土〕自然による混入と思われる5cm大ほどの礫が混入している。

〔新旧関係〕溝3、空壕Cより新しい。

〔出土遺物〕白磁皿(E群)1点、染付碗(B群)1点、染付皿(C群)2点、灰釉端反皿(大1)4点、越前播鉢(群不明)1点、近世磁器瓶1点、近世陶器鉢3点、鉄製品鍋1点・不明1点、銅製品の銭1点(寛永通寶3期)、鍛冶関連遺物の鉄滓1点、剥片石器2点が出土している。

溝16 (6図、PL1-4)

〔位置〕トレンチ2の11J9・14グリッドに位置する。トレンチ1の溝1及び溝2の延長部分とも考えられるが、確証を得ることはできなかった。

〔形態・規模〕平面形は、ほぼ東西方向に長軸と取り、

幅150cm、深さ30cmを測る。

〔堆積土〕覆土中位にKo-d火山灰が層状に堆積している。その上位には、礫が多く混入した人為的な堆積がみられた。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

トレンチ3 (7・8図、PL1-5～15、5-2～4、6-4～7-3、13-4～14-3)

〔位置〕トレンチは、第一平坦面北東側下の緩斜面の10J、11J、10I、11Iグリッドに設定した。

〔検出遺構〕勝山館跡の空壕(空壕C)・土塁の他、江戸時代の溝2条(溝3、溝4)、土壇3基(土壇3・5・16)が検出された。

土壇3 (8図、PL1-14・15)

〔位置〕トレンチ3の11I4グリッドの空壕Cの上面に位置し、空壕Cを壊して構築される土葬墓である。

〔形態・規模〕墓壇の平面形は、107cm×83cm、棺の北東を長軸70cm、短軸46cmである。人骨は、北東頭位の仰臥屈葬である。

〔堆積土〕周囲に掘上げ土と思われる堆積を確認した。

〔新旧関係〕空壕Cや土葬墓と思われる土壇16より新しい。

〔出土遺物〕青磁碗(類不明)1点、染付碗(C群)1点・皿2点(B1群)2点・(C群)2点、瀬戸・美濃灰釉丸皿(大2)1点・不明皿(大1・2)3点、鉄製品釘47点・鉤?1点・小柄1点・不明1点、銅製品銭5点(開元通寶1点、元祐通寶1点、咸平元寶1点、判読不明2点)、石製品砥石1点、自然遺物人骨、縄文土器27点、剥片石器3点が出土している。出土した遺物はいずれも混入したものと考えられ、副葬品と思われるものは確認されなかった。鉄釘は木質が付着し、棺に使用されたものである。

土壇5 (7図、PL1-12・13)

〔位置〕トレンチ3の11I9グリッドの空壕Cの覆土上位に位置する。土壇底面に寛永通寶が納められることから江戸時代の土葬墓と考えられる。

〔形態・規模〕下半身の骨の出土状況から北東頭位の仰臥屈葬と思われる。また、棺のプランは確認できなかったが、棺材と思われる木片が出土したため、遺体が棺に納められていたことが想定される。墓壇及び棺の形態・規模は不明である。

〔堆積土〕表土直下から出土し、確認することができなかった。

〔新旧関係〕空壕Cより新しい。

〔出土遺物〕銅製品銭12点(寛永通寶1期7点・2

期4点、判読不明1点)、自然遺物の人骨が出土している。人骨は、足部分のみの出土であった。銭は、六道銭と思われる6枚重ねのものが出土している。

土壌16 (7図、PL1-15)

〔位置〕トレンチ3の11I4グリッドに位置する。空壕Cの上面に位置し、空壕Cを壊して構築される土葬墓である。

〔形態・規模〕平面形は長軸約115cm、短軸が調査区外へ延びるため不明である。

〔堆積土〕黒色土が堆積している。

〔新旧関係〕土壌3より古く、空壕Cより新しい。

〔出土遺物〕染付皿(B1群)2点・(C群)1点瀬戸・美濃灰釉端反皿(大1)2点・丸皿(大2)1点、越前播鉢(群不明)1点、鉄製品釘10点・小札1点、銅製品八双金具1点・銭(元祐通寶1点、判読不明1点)、石製品硯1点、土製品錘1点、縄文土器1点、剥片石器2点、自然遺物2点が出土している。鉄釘は、木質が付着しているため棺に使用したものと考えられる。その他の遺物は、堆積土の中位～上位から出土するため、遺構に伴わないと考えられる。

炭範囲1 (7図、PL1-8)

〔位置〕トレンチ3の10I12グリッドの溝6の上位に位置する。

〔形態・規模〕平面形は幅250cm、短軸150cmの不整円形を呈し、深さ15cmを測る。

〔堆積土〕上面に20～30cmの礫がみられ、炭化物を多量に含む。

〔新旧関係〕溝6より新しい。

〔出土遺物〕鉄製品釘7点・刀子1点、鍛冶関連遺物鉄滓1点・不明溶解物41点、自然遺物不明骨2点・炭化材が出土している。鉄釘は、被熱を受けている。

空壕C (7図、PL1-7)

〔位置〕トレンチ3の10J24・25、11J4・5、11I1～4グリッドの第一平坦面直下に位置する。

〔形態・規模〕やや湾曲して北西～南東方向に長軸をとり、平面形は上面幅約5.5m、深さ約1mを測る。掘り方は、緩やかなV字形を呈する。

〔堆積土〕トレンチ北側では、褐色土などのやや明るめの堆積土で礫粒・玉砂利が多く含まれる。土と砂質土が互層に堆積しており、水の流路であったことが推測される。一方、南側では、黒色の腐植土層を呈し、そこから遺物が多く出土している。

〔新旧関係〕土壌3・5・16、溝3・4より古い。

〔出土遺物〕青磁碗(C2類)1点・(類不明)1

点・腰折皿1点・稜花皿2点、白磁皿D群1点・E群24点・坏1点、染付碗(C群)7点・皿(B1群)9・(C群)5点・(群不明)1点赤絵碗1点、朝鮮壺2点、越前甕3点・播鉢10点(IV群a3点・IV群b4点・群不明3点)、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗(大1・2)1点・(大3・4)2点、瀬戸・美濃灰釉丸碗(大1)1点・端反皿(大1)17点・丸皿(大2)1点・不明皿(大1・2)7点、志野皿(大4後)1点、骨角器中柄4点・不明3点、鍛冶関連遺物鉄滓23点、擦文土器甕3点、自然遺物不明骨・不明種子、縄文土器52点・剥片石器15点、礫石器2点、不明溶解物2点、石製品砥石3点・羽口5点、土製品羽口9点、鉄製品釘19点・楔1点・小札3点・締金具2点・茶釜1点・茶釜蓋1点・刀子2点・鍋14点・火箸6点、銅製品小柄1点・八双金具1点・不明1点・銭19点、土師器皿1点、が出土している。銭の線種は、元祐通寶1点、洪武通寶2点、無文銭8点、判読不明7点である。

土塁 (7図、PL1-7・8)

〔位置〕トレンチ3の10I16・24グリッドの空壕Cの東側に位置する。

〔形態・規模〕空壕Cに平行し、平面形は上場幅2.5m・底部幅10m、空壕Cの底面からの比高差約2m、溝6からの比高差約3mを測る。岩盤を削り出し、土塁状に仕上げている。

〔堆積土〕なし

〔新旧関係〕空壕C・溝6と同時期と推測される。

〔出土遺物〕なし

溝6 (7図、PL1-8・9)

〔位置〕トレンチ3の10I11・12・16グリッドに位置する。当初、空壕としていたが深さが1m未満と浅いことから、緩やかな斜面を削り出すことで、土塁状に見せるために掘削した溝とした。

〔形態・規模〕北西～南東方向に長軸をとり、幅420cm、深さ74cmを測り、V字形を呈する。

〔堆積土〕トレンチ北側部分の空壕Cと同じ堆積を呈する。上面に炭化物範囲が確認される。

〔新旧関係〕炭範囲1より古い。

〔出土遺物〕青磁盤1点、白磁端反皿(E群)2点、染付皿(B1群)1点・(C群)1点、瀬戸・美濃灰釉端反皿(大1)9点、鉄製品釘12点・鍋1点・刀子1点・小札2点、銅製品銭3点(判読不明)、鍛冶関連遺物鉄滓2点・不明溶解物41点、骨角器1点、自然遺物不明骨、縄文土器2点、剥片石器2

点が出土している。

トレンチ4 (9・10図、PL 2-1～4・5-5・6、7-4～8-1・14-4)

〔位置〕トレンチ4は、トレンチ3の北東側の緩斜面の9I23～25、10I4・5・10、10H1・6・7グリッドに設定した。

〔検出遺構〕溝3条(溝3、溝4、溝5)、土壌4基(土壌2・4・6・7)、礫範囲が検出された。

溝3・4は、江戸時代の溝である。

土壌2 (9図、PL 2-16)

〔位置〕トレンチ4の10H6グリッドに位置する。半截による調査を行った。遺構の性格は、土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形は長軸92cm、短軸63cmの不正楕円形を呈し、深さ39cmを測る。木質の付着した鉄釘が出土したため、棺の存在が想定されたが棺の規模を確認できなかった。

〔堆積土〕堆積土の質の違いから注記Noを数字とアルファベットに分けて表記した。セクションでは、数字部分が棺の範囲と推測されたが平面では確証を得られなかった。覆土上位にKo-d火山灰が堆積しており、土壌2はそれ以前の構築と考えられる。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕青磁皿(類不明)1点、染付皿(C群)1点、鉄製品釘3点、石製品不明1点、鍛冶関連遺物鉄滓1点、縄文土器1点、自然遺物人骨(歯)、炭化材1点が出土している。鉄釘には、棺材と思われる木片が付着している。

土壌4 (9・10図、PL 2-3)

〔位置〕トレンチ4の10H1グリッドに位置する。遺構の性格は不明である。

〔形態・規模〕平面形は、長軸69cm、短軸60cmの不整円形を呈し、深さ27cmを測る。

〔堆積土〕7層に分層され、黒色土を呈する。

〔新旧関係〕土壌7、溝5より新しい。

〔出土遺物〕白磁皿(E群)1点、越前播鉢(群不明)1点、唐津皿2点、自然遺物不明獣骨1点、剥片石器1点が出土している。

土壌6 (9図、PL 2-2)

〔位置〕トレンチ4の10H6グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は長軸73cm、短軸48cmの楕円形を呈し、深さ22cmを測る。

〔堆積土〕5層に分層され、礫粒が多く混入する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕自然遺物の不明骨が出土している。

土壌7 (9・10図、PL 2-4)

〔位置〕トレンチ4の10H1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は長軸145cm、短軸128cmの隅丸長方形を呈し、深さ69cmを測る。棺の規模は、長軸85cm、短軸46cmを測る。人骨の出土状況から北東頭位面東向きの側臥屈葬である。

〔堆積土〕9層に分層され、粘質の強い黒褐色土を呈する。覆土中位にKo-d火山灰が層状に堆積する。また、土壌7の周辺には礫範囲がみられた。これらの礫は、土壌7が岩盤を掘って構築されるため、土壌7の掘り上げ土と思われる。

〔新旧関係〕溝5・土壌4より古い。

〔出土遺物〕白磁坏(E群)1点、染付皿(C群)1点、鉄製品釘11点・縮金具2点・蝶番?2点、鍛冶関連遺物鉄滓(椀型滓)1点、石製品不明1点、不明土器1点、縄文土器1点、自然遺物人骨が出土している。

溝5 (9図、PL 7-6)

〔位置〕トレンチ4の10I4・5、10H6グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北西～南方向へ長軸をとり、幅91～158cm、深さ16.5～60cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色土を呈する。

〔新旧関係〕土壌7より新しく、土壌4より古い。

〔出土遺物〕染付碗(C群)3点・皿(B1群)1点、瀬戸・美濃灰釉端反皿(大1)1点・皿(大1・2)1点、鉄製品小柄1点・鍋2点・不明1点、縄文土器1点が出土している。

トレンチ5 (11図、PL 2-5～9、5-5・6、8-2～4、15-1・2)

〔位置〕トレンチ5は、トレンチ4北東側の9I9・10・13～15、9H6～8・11～13グリッドに設定した。

〔検出遺構〕竪穴建物跡1棟(竪穴110)、溝1条(溝3・4)、土壌1基(土壌10)、炭範囲2が検出された。溝3・4は江戸時代の遺構である。

自然研究路下では、セクションで旧道と思われる硬化面が確認された。また、トレンチ南東側の魚骨層がみられた斜面下では、平坦地が確認されている。

竪穴110 (11図、PL 2-9)

〔位置〕トレンチ5の9I8・13グリッドに位置する。調査は、平面形を確認して終了している。

〔形態・規模〕平面形は、調査区外に延びるため不明である。竪穴の南東側に黒色土が堆積した張出し

部分を確認した。そこから鍛冶関連遺物の鉄滓や不明溶解物が多く出土している。張出し部分は、竪穴の入口とも推測されたが、底面に凹凸が多くみられ一様でなかったため、竪穴に付属する遺構でないとは判断した。

〔堆積土〕黒褐色土を呈する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕白磁端反皿（E群）1点、不明溶解物3点が出土している。

土壌10（11図、PL 2-7）

〔位置〕トレンチ5の9H12・13グリッドに位置する。遺構の性格は、土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形の規模は調査区外へ延びるため不明だが、出土した人骨の頭位から東西に長軸をとる楕円形の墓壇が想定される。

〔堆積土〕盛土層が確認された。

〔新旧関係〕魚骨層を切って構築されるため、それより新しいと思われる。

〔出土遺物〕青磁皿（腰折皿）1点、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗（大1）1点・灰釉碗丸碗A（大1前）1点・皿（端反皿）1点、鉄製品釘2点、銅製品無文銭1点・輪銭2点・判読不明1点、石製品砥石1点、鍛冶関連遺物1点、自然遺物人骨、不明土器1点、縄文土器1点、剥片石器3点が出土している。人骨は、東頭位の仰臥伸展葬で頭部から胸部、右上腕骨付近まで確認された。砥石は青磁皿とした陶磁器の見込み部分に置かれた状態でみつまっている。

魚骨層（11図、PL 2-5・6）

〔位置〕トレンチ5の9H6・7・11～13グリッドの斜面したに位置する。調査は1m程の幅でトレンチを設定して行った。

〔形態・規模〕自然研究路とされる現代の通路の東側斜面一体に確認され、さらにトレンチ6で同様の堆積がみられたため、トレンチ6まで拡がると思われる。

〔堆積土〕赤褐色の焼土層、灰色の灰層が堆積し、厚い所で約80cm堆積し、それらに魚骨等の動物遺存体が多量に含まれる。

〔新旧関係〕土壌10より古い。

〔出土遺物〕動物依存体の他に陶磁器、鉄製品、骨角器などがみつまっている。陶磁器は、青磁碗（D2類）・古瀬戸仏花瓶・珠洲播鉢などがみられ、勝山館の中でもやや古い時期の製品が出土している。

炭範囲2（11図、PL 2-8）

〔位置〕トレンチ5の9I9・14グリッドに位置する。調査は半截を行い、平面形をKo-d火山灰下層で確認した。

〔形態・規模〕一辺約180cmの隅丸方形を呈し、深さ約15cmを測る。

〔堆積土〕黒色の炭化物層を呈する。

〔新旧関係〕溝3を構築する際の削平を受けているため、それより古い。

〔出土遺物〕不明骨等が出土している。

トレンチ6（12図、PL 2-10～13、8-5～7）

〔位置〕トレンチ6を平坦地端部の9H1・2グリッドに設定した。

〔検出遺構〕溝2条（溝12・13）、ローム範囲が検出された。

ローム範囲（12図、PL 2-10・11）

〔位置〕トレンチ6の9H1グリッドに位置する。

黄褐色土を主体とした範囲をローム範囲として表示した。

〔形態・規模〕検出した範囲で幅約200cm、厚さ約15cmを測る。

〔堆積土〕黄褐色の粘性の強い土である。下位に黒褐色土が堆積しており、そこから遺物が多くみられた。出土する遺物から黒色土は、トレンチ5の魚骨層と同様の堆積層と推測される。

〔新旧関係〕ローム範囲下の黒色土（魚骨層）より新しい。

〔出土遺物〕なし

溝12（12図、PL 8-6・7）

〔位置〕トレンチ6の9H1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕東～南西方向にややカーブして長軸をとり、幅17～35cm、深さ7.5～12.3cmを測る。

〔堆積土〕黒褐色土が主体として堆積している。

〔新旧関係〕ローム範囲より古い。

〔出土遺物〕なし

溝13（12図、PL 8-6・7）

〔位置〕トレンチ6の9H1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕溝12とほぼ平行に長軸をとり、幅21cm、深さ0.2～7.3cmと浅く、隣接する溝12とほぼ平行に走る。調査区の東側壁面でプランを確認できなかった。

〔堆積土〕黒褐色土が主体として堆積している。

〔新旧関係〕ローム範囲より古い。

〔出土遺物〕なし

トレンチ7（12図、PL 2-14～18、9-1～10-1）

〔位置〕トレンチ7をトレンチ6の北東側の8H17～19・21～24、9H1グリッドに設定した。

〔検出遺構〕土壙2基（土壙12・15）、溝5条（溝7・9・11・14・19）が検出された。溝9・11は江戸時代の遺構である。

溝7から東側に幅約2.5mほどの平坦地が確認された。その平坦地からは、焼土範囲や杭といった遺構や多くの出土遺物がみられた。また、平坦地部分で焼土や杭上面に礫粒と黒色土が混じり固く締まった土層が確認された。

斜面中位に黒色土範囲が検出されたが、掘り込みから中世より古いものと考えられる。

トレンチ南東側の斜面下では、帯郭と推測される平坦地が検出された。この平坦地はトレンチ5の魚骨層が検出された直下の平坦地が続くと思われる。

土壙12（12図、P L 3-17・8-6）

〔位置〕トレンチ7の8H17・22・23グリッドに位置する。調査は半截して行った。遺構の性格は不明である。

〔形態・規模〕平面形は長軸125cm、短軸114cmの不整円形を呈し、深さ18～30cmを測る。

〔堆積土〕9層に分層され、中位に黒色土層が堆積している。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕石製品砥石1点、縄文土器1点が出土している。

土壙15（12図、P L 2-18・8-5）

〔位置〕トレンチ7の8H22グリッドに位置する。調査は半截して行った。遺構の性格は不明である。

〔形態・規模〕平面形は長軸82cm、短軸64cmの楕円形を呈し、深さ11cmを測る。

〔堆積土〕上面に自然堆積と思われるKo-dブロックがしている。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕瀬戸・美濃灰釉皿（大1・2）1点、銅製品銭1点（洪武通寶）、自然遺物不明骨・炭化材、剥片石器1点が出土している。

溝7（12図、P L 2-15）

〔位置〕トレンチ7の8H21、9H1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は、北～南西方向に長軸をとり、南東側でやや南側に屈曲する。規模は、幅40～60cm、深さ16.3～18.6cmを測る。

〔堆積土〕黒褐色土を主体に堆積している。

〔新旧関係〕溝14より新しい。

〔出土遺物〕青磁碗F類1点、鉄製品釘1点、鍛冶関連遺物鉄滓1点、自然遺物不明骨1点、土製品羽口1点、不明溶解物3点が出土している。

溝9（12図、P L 2-14）

〔位置〕トレンチ7の8H21グリッドに位置する。

出土遺物から江戸時代に構築された溝跡と考えられる。同溝は、トレンチ8の溝17に接続するものと想定される。

〔形態・規模〕幅50～80cm、深さ8.8～20cmで北東方向に向って低くなる。

〔堆積土〕にぶい黄褐色土が堆積する。

〔新旧関係〕自然研究路を造る時のものであるか、北西側の斜面部分で削平を受けている。

〔出土遺物〕肥前系陶器碗1点が出土している。

溝14（12図、P L 9-2）

〔位置〕トレンチ7の8H21グリッドに位置する。

〔形態・規模〕幅20cm、深さ3.5～6cmと浅く、やや湾曲して南北方向へ延びる。

〔堆積土〕黒褐色土を含む。

〔新旧関係〕溝7より古い。〔出土遺物〕なし

トレンチ8（13・14図、P L 12-2）

〔位置〕トレンチ8を荒神堂周辺の8I15・20、8H11・12・16グリッドに設定した。

〔検出遺構〕江戸時代と推測される溝2条（溝11・17）を検出した。

溝11（13図、P L 12-2）

〔位置〕トレンチ8の8H11・12グリッドに位置する。調査は、幅約50cmのトレンチを入れて実施した。トレンチ7の溝11に接続すると思われ、トレンチ7のセクションで確認された掘り込みから江戸時代の溝と推測された。

〔形態・規模〕平面形は、長軸を北東～南西方向にとり、幅244cm、深さ40cmを測る。

〔堆積土〕礫や2～3cmの玉砂利が混入している。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕白磁皿（E群）1点、染付皿（E群）1点、鉄製品釘1点・鏝1点・鍋6点が出土している。

溝17（13図、P L 12-2）

〔位置〕トレンチ8の8I15・20、8H11グリッドに位置する。調査は、約50cm幅のトレンチを入れて実施した。トレンチ7の溝9と接続することが考えられる。

〔形態・規模〕平面形は、溝11にほぼ平行に長軸を

とり、幅220cm、深さ40cmを測る。

〔堆積土〕礫や2～3cmの玉砂利が混入している。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

トレンチ9 (13図、PL3-1、12-3～6)

〔位置〕トレンチ9を荒神堂跡西側の8I4・5・8～10・13、8H1・6グリッドに設定した。

〔検出遺構〕溝3条(溝8・15・18)を検出した。溝18は、時期不明とした。また、人為的に緩斜面を削って平坦地を造り出していることが確認された。

溝8 (13図、PL12-4・6、17-3)

〔位置〕8I8グリッドの現代の通路である自然研究路より北西に位置する。

〔形態・規模〕北東～南西方向に長軸をとり、幅120cm、深さ26.3～35.4cmを測る。

〔堆積土〕黒褐色土を呈し、20～30cm大の礫を含む。

〔新旧関係〕緩斜面を削平して造成した平坦地を壊して構築されるため、それより新しい。

〔出土遺物〕青磁碗類不明1点・稜花皿1、瀬戸・美濃灰釉皿(大1・2)1点、銅製品煙管3点、銭1点(天聖元寶)、鍛冶関連遺物1点が出土している。

溝15 (13図、PL3-1・12-6)

〔位置〕8I8グリッドの人為的に造成された斜面下に位置する。

〔形態・規模〕東西方向に長軸をとり、幅26cm、深さ18cmを測る。

〔堆積土〕2層に分層され、黒褐色土を主体とする。

〔新旧関係〕上位に黄褐色のロームを主体とした堆積層があり、その下位に位置している。

〔出土遺物〕なし

溝18 (13図、PL12-5・17-3)

〔位置〕トレンチ9の8I9グリッドの自然研究路下に位置する。掘り込みから江戸時代以降の溝と想定されたが、近代の可能性もあり時期不明とした。

〔形態・規模〕北東～南西方向に長軸をとり、幅170cm、深さ86cmを測る。

〔堆積土〕4層に分層される(注記No.1は、自然研究路の階段敷設前の旧表土層で、注記No.4は掘り過ぎ部分である)。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

トレンチ10 (13図、PL3-2、12-7・8、17-1)

〔位置〕トレンチ10を荒神堂跡が所在する平坦地東側の宮ノ沢へ至る斜面の7H24、8H4グリッドに設定した。

〔検出遺構〕中世の帯郭と思われる幅3.8mの平坦地と江戸時代とした土壇2基(土壇9・17)を検出した。帯郭とした平坦地は、トレンチ5・7の斜面下の平坦地に続くことが想定された。

土壇9 (13・15図、PL3-2)

〔位置〕荒神堂跡が所在する平坦面から東側の宮ノ沢の斜面で検出された。トレンチ10の7H24グリッドに位置する。遺構の性格は、出土遺物から土葬墓の可能性が想定された。

〔形態・規模〕平面形は、長軸調査区外へ延びるため不明だが、短軸82cmを呈し、深さ32cmを測る。

〔堆積土〕7層に分層され、黒褐色土を呈し玉砂利が多く混入する。

〔新旧関係〕帯郭と思われる平坦地上位の堆積層を壊して構築されるため、それより新しい。

〔出土遺物〕人骨と思われる骨が出土している。

土壇17 (13・15図、PL3-2)

〔位置〕荒神堂跡が所在する平坦地より宮ノ沢側の斜面のトレンチ10の7H24グリッドに位置する。調査は、平面形を確認して終了している。

土壇9と同時期と推測される。

〔形態・規模〕平面形は、一部調査区外へ延びるため不明である。

〔堆積土〕検出のみの調査のため不明である。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

荒神堂跡周辺 (13～17図、PL3-2、12-7・8、17-1)

〔位置〕荒神堂跡周辺の7H11・18・21～23、8H1～4・7～9・12・13グリッドに調査区を設定した。1辺約170cm四方の石積がみられる70㎡程の平坦地とその南側の80cmほど高い平坦地を荒神堂跡周辺とした。表土層除去後には、方形の石積の北西～南西にかけて10～20cmの礫の分布がみられた。

〔検出遺構〕史料一の荒神堂跡と推測される礎石列、史料二の天保11年(1840)の玉垣(柵1)と石積跡(土壇8)、天保以前の江戸時代の柵1条(柵2)、中世の土壇1基(土壇11)、炭化物範囲(炭範囲3)、江戸時代の土壇2基(土壇13・14)を検出した。また、荒神堂跡周辺の北東側で中世～幕末に盛土をして平坦地を造成していることが確認された。

土壇8 (13・17図、PL3-10～12)

〔位置〕荒神堂跡の方形に積まれた石積下の8H2グリッドに位置する。検出された規模から、史料三の天保11年(1840)に改修された荒神堂の石積基礎の

範囲と推測される。

〔形態・規模〕平面形は、直径約277cmの円形を呈し、深さ15～20cmを測る。土壇の底面は、ほぼ平坦である。土壇の壁面にみられる40～60cm大の大型の礫は、天保11年の改修時の石積が残存したものと考えられる。

〔堆積土〕黒褐色土を呈し、1～2cm大の玉砂利を多量に含む。

〔新旧関係〕柵2、Pit19・20より新しく、上面の方形の石積より古い。

〔出土遺物〕肥前系陶器碗（Ⅲ～Ⅳ期）2点、近世陶器3点、鉄製品銭（寛永通寶1点、箱館通寶2点）、銅製品銭3点（寛永通寶3期）が出土している。

柵1（13・17図、P L 3-10～12・10-4・5）

〔位置〕荒神堂の7H22・23、8H2・3グリッドに位置する。柵1は、礎石の柵で天保11年に積まれた石積範囲（土壇8）との位置関係から、土壇8に伴うと思われる。

〔形態・規模〕玉垣の礎石は、北側隅の礎石が欠損しているものの、1辺約360cmの正方形を呈する。北東面には、約120cmの幅で入り口が確認された。

柵1と土壇8の間には、約10cm大の円礫が敷かれている。

〔堆積土〕なし

〔新旧関係〕円礫の下から柵2が検出されるため、柵2より新しい。また、柵1は、調査前に確認された1辺約170cmの方形に積まれた石積の下層に位置するため、それより古い。

〔出土遺物〕なし

柵2（13・17図、P L 3-13・10-7・11-2・3・5）

〔位置〕荒神堂の7H22、8H2・3・7グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は、北東～南西方向に長軸をとり、北東面に幅約140cmの入口が確認された。長軸約360cm、短軸約270cmの長方形を呈し、溝幅約50cm、深さ約40cmを測る。覆土内に直径15～20cmの杭穴が30～40cm間隔で並んでおり、布掘りの柵と考えられる。

〔堆積土〕杭の部分に2～3cm大の玉砂利が多く混入している。堆積土は人為堆積を呈し、褐色土を主体として硬く締まっている。

〔新旧関係〕土壇8に壊されることや円礫の下位に位置するため、それより古い。

〔出土遺物〕肥前系陶器碗（Ⅲ期）2点が出土して

いる。

土壇11（13・15図、P L 3-6）

〔位置〕荒神堂跡周辺の7H23グリッドに位置する。礎石列に直交する礎石跡とも想定されたが、位置関係や堆積土が他の礎石跡と異なるため、土壇として扱った。

〔形態・規模〕平面形は長軸65cm、短軸57cmの楕円形を呈し、深さ15cmを測る。

〔堆積土〕3層に分層され、黒色土を主体に含む。

〔新旧関係〕炭範囲3より新しい。

〔出土遺物〕鉄製品釘5点、鍛冶関連遺物鉄滓2点が出土している。

土壇13（15図、P L 3-4）

〔位置〕荒神堂周辺南西側の約80cm高い平坦地の8H12・13グリッドに位置する。遺構の性格は、出土遺物から土葬墓と考えられる。

〔形態・規模〕平面形は調査区外へ延びるため不明であるが、隅丸長方形を呈し、長軸を北西方向にして構築される。

〔堆積土〕棺内に崩落した土と棺外の埋土に分けられ、前者にややロームブロックが多く混入している。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕鉄製品釘1点・鍋1点、銅製品銭2点（寛永通寶1期）が出土している。鉄釘には、棺材と思われる木片が付着している。

土壇14（15図、P L 3-4）

〔位置〕荒神堂跡周辺南西側の約80cm高い平坦地の8H12・13グリッドに位置する。

遺構の性格は、近接する土壇13と同じく土葬墓と思われたが、出土遺物が確認されなかったため不明である。

〔形態・規模〕長軸方向を南北方向にして構築さ

れ、平面形は長軸137cm、短軸106cmの隅丸長方形を呈し、深さ53cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色・褐色土を主体に含み、人為的な堆積を呈する。

〔新旧関係〕遺構の切り合いから溝10より古い。

〔出土遺物〕なし

Pit12・13（13・17図、P L 3-9・10-8）

〔位置〕柵1より約3m北側の階段手前に鳥居（門）跡と考えられる柱穴を2基確認した。

〔形態・規模〕柵1と軸を平行にし、約210cmの間隔で構築される。Pit12は長軸44cm、短軸約30を測る。Pit13は、長軸約54cm、短軸47cmを測り、

柱根が残存していた。

深さは、Pit12・13とも完掘していないため不明である。

〔堆積土〕 Pitの柱根部分が、空洞になっていた。

〔新旧関係〕 Pit13は盛土範囲より新しい。

〔出土遺物〕 Pit12では、掘方から瀬戸・美濃鉄釉腰折皿（後Ⅳ新）1点、柱痕から鉄釘12点が出土している。Pit13では、掘り方から鉄釘2点が出土している。何れの鉄釘も木質が付着している。

溝10（13・17図、PL11-8）

〔位置〕 荒神堂跡周辺の8H7・8・12グリッドに位置する。江戸時代と考えられた土壌14より新しく、江戸時代～近代の溝と想定され、時期不明とした。

〔形態・規模〕 北東～南西方向に長軸をとり、幅24cm、深さ21cmを測る。

〔堆積土〕 暗褐色土を呈し、2～3cmの玉砂利が混入する。

〔新旧関係〕 土壌14より新しい。

〔出土遺物〕 なし

炭範囲3（13・17図）

〔位置〕 荒神堂跡周辺の7H23グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は長軸100cm、短軸72cm、深さ20cmを測る。

〔堆積土〕 炭化物を多く含む。

〔新旧関係〕 ローム範囲より古い。

2. 出土遺物（18～23図、PL-4・18～21）

遺物は、総計2,407点で勝山館に併行するものの他に縄文・擦文・江戸時代のものが出土している。

各時期の遺物の内訳は、勝山館併行が1,788点（中世土器・陶磁器738点、鉄製品286点、銅製品113点、鍛冶関連遺物269点、石製品28点、土製品27点、骨角器27点、自然遺物300点）である。

その他、縄文時代が293点（縄文土器202点・石器91点）、擦文時代が6点（擦文土器6点）、江戸時代が320点（陶磁器139点、鉄製品104点、銅製品45点、自然遺物32）である。

以下、時期別に出土遺物の概要を述べる。

勝山館併行期

a. 土器・陶磁器（18～19図、図1・2、PL18・19）

土器・陶磁器は、破片数で738点、個体数で23.35個体が出土している。出土した陶磁器は、勝

〔出土遺物〕 鉄製品釘7点・小札1点・不明3点、鍛冶関連遺物鉄滓7点が出土している。

炭範囲4（13・17図）

〔位置〕 荒神堂跡周辺の7H22グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 幅120×45cmを測る。

〔堆積土〕 炭化物を多く含む。

〔新旧関係〕 なし 〔出土遺物〕 なし

礎石列（13・14・17図、PL3-13、22-4）

〔位置〕 荒神堂跡周辺の7H22・23、8H2・3グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 30～40cm大の上面が平らな石が南西～北東方向の軸で4個確認された。これらの石の間隔は約90cmを測り、周囲に直交もしくは平行に軸をとるPit14・16・18・20と表示した黒色土範囲が確認された。

これらは、直径40～60cm不整円形で深さ約5～10cmを呈し、石列と同じ約90cmの間隔で並ぶ。石列やPitの位置関係から2×3間の建物跡が想定された。さらに石列は建物の礎石であること、Pit14・16・18・20は礎石の痕跡と考えられ、柱間寸法約3尺、2×3間の礎石建物跡を想定した。

〔堆積土〕 黒褐色土を呈する。

〔新旧関係〕 Pit20は、土壌8より古い。

〔出土遺物〕 Pit14から寛永通寶鉄一文銭が1点出土している。

山館が機能していた15世紀中頃～16世紀末頃の年代観を示すものである。

遺物の集計は破片数について接合前の破片数で行い、個体数の算出については口縁部計測法で行った。なお、口縁部計測法は宇野隆夫氏の方法を参考としている（宇野1981・1992）。

貿易陶磁は、青磁、白磁、染付、赤絵、朝鮮で構成され、破片数で全体の43.7%を占める。

国産陶磁は、瀬戸・美濃、珠洲、越前、志野、唐津で構成され、破片数で54.1%を占める。

貿易陶磁と国産陶磁の比率は、破片数で国産陶磁が卓越する様相を呈すが、個体数では貿易陶磁が国産陶磁より高い数値を示している。

土師器は、手づくねかわらけの破片がみつまっている。

青磁（18図-1～10、PL18-1～10）

碗（B4・C2・D2・E・F類）・皿・盤が出

土している。

碗B 4類は、外面に山形の線描連弁文を施すものが出土している。碗C 3類は、乳白色を呈し、焼成が軟質で貫入が多くみられ、外面口縁部に波状の文様を施されていた。碗D 2類は、釉が厚く施され口縁部が玉縁状に肥厚している。碗F類は、人形手と呼ばれるタイプで、口縁部内外面に雷文帯がみられる製品が出土している。

皿は、腰折皿と稜花皿が出土しており、稜花皿が圧倒的に多い。

盤は、内外面の胴部にソギを施すものや口縁部に劃線を施すものがみられた。

白磁 (18図-11~14, PL18-11~14)

器種は、皿と坏が出土している。皿は、D群の丸皿とE群の端反皿・反皿・丸皿が出土している。D群の丸皿は、外面の高台が露胎し、平高台のものと同切高台のものが出土している。また、見込に擦痕があるものもみられた (18図11)。

E群の端反皿では、高台裏に染付が施されるものが確認された (18図-14)。

染付 (18図-15~27, PL18-15・16)

器種は、碗・皿・坏が出土している。

碗は、端反碗のB群、蓮子碗のC群、饅頭心のE群が出土し、破片数でC群が全体の7割以上を占めている。

碗B群は、口縁部が外反し、外面胴部に人馬や昆虫を施すものがみついている。

碗C群は、外面に芭蕉葉文・列点文・アラベスク等や見込に蓮花等を施しているものがみられた。

碗E群は、口縁部に圈線を施すものが出土している。

皿は、端反皿B 1群、碁笥底皿C群、丸皿E群が出土している。皿B 1群は、外面胴部に牡丹唐草を施すものがみられた。見込は玉取獅子や十字花文を施すものが確認された。

皿C群では、外面の胴部に芭蕉葉文、梵字状の文様や無文のものがみついている。見込には寿文、魚藻文を施すものがみられた。

E群は、内面口縁部に四方櫛が施されるものが確認されている。

また、群不明とした中には底部から口縁部にかけて外反し、外面が青磁釉・内面に染付を施すものがみられた。

赤絵 (18図-28)

唐草文様を施した端反碗が出土している。

朝鮮 (PL18-17)

外面に砂粒が付着した壺と思われる破片が出土している。

瀬戸・美濃鉄釉 (19図-1~4, PL18-19~22)

古瀬戸段階の腰折皿、大窯段階の天目茶碗と稜皿が出土している。

天目茶碗は、大窯第1段階のものを中心に大窯第4段階の製品までが出土している。19図-1は、見込に茶筌と思われる擦痕が確認された。

瀬戸・美濃灰釉 (19図-5~14, PL18-23~32)

器種は、碗・皿・瓶・香炉が出土している。

丸碗は、外面に線描蓮弁文を施すタイプとそうでない2つが出土している。

皿は、大窯第1段階~4段階の製品がみられた。出土した器種は、端反皿が大半を占め、その他反り皿、丸皿、折縁皿などがみついている。

珠洲 (19図-20・21, PL19-1・2)

口縁部に櫛目波状文を施し、吉岡編年V~VI期相当のものが2点出土している。

越前 (19図-22~26, PL19-3~7)

器種は、甕・播鉢が出土している。甕は、大甕の破片と思われる。

播鉢は、口縁部が内傾するIV群相当のものが大半を占めている。

志野 (19図-15, PL18-33)

口縁部が強く外反する端反皿が確認されている。

唐津 (19図-16・17, PL15-18・34)

細片のため詳細は不明であるが、口縁部が外反し、やや口径が大きい皿と思われる。

b. 鉄製品 (20図~21図-11, PL19-12~53)

鏝・釘・楔・小札・小柄・鍋・鎌等が出土している。鍋は、吊耳や注口が付くもの、その他に丸型の湯口も出土している。

c. 銅製品 (21図-12~19, PL20-1~8)

器種は、煙管・鑲・八双金物・銭他が出土している。

銭の銭種は、開元通寶4点、乾元重寶1点、至道元寶1点、咸平元寶1点、天禧通寶2点、天聖元寶5点、皇宋通寶3点、嘉祐通寶2点、治平元寶1点、熙寧元寶3点、元豊通寶1点、元祐通寶7点、元符通寶1点、洪武通寶7点、永樂通寶2点、無文銭14点、輪銭2点、判読不明43点が出土している。

d. 鍛冶関連遺物 (PL21-1~15)

羽口・鉄滓・不明溶解物・鍛造剥片が出土している。羽口は、先端部にガラス質の溶解物が付着し、石製

と土製のものがみられた。

鉄滓の総重量は9110.1gで、半球状の椀形のものなどが多数みられた。不明溶解物の総重量は、1035.1gである。

e. 石製品 (23図-12~18、P L 21-25~30)

砥石・硯が出土している。砥石は、中砥・仕上げ砥の2種類がみられた。

f. 土製品 (23図-11~12、P L 21-16~18)

円柱形をした土錘が出土している。法量は、長さは約5cm、外径約3.5cm、内径約1.5cmのものが確認された。

g. 骨角器 (23図-5~10、P L 21-19~24)

中柄もしくは鎌と思われるものや器種不明のものが出土している。

h. 自然遺物

人骨及び魚骨・獣骨や貝の細片、炭化物などが出土している。人骨は、墓から出土したものである。魚骨等の動物遺存体は、ほとんどがトレンチ5の魚骨層とした東側斜面からみつかったものである。

人骨・動物遺存体は、現在鑑定及び分析を依頼している。その結果については次年度の報告書に掲載する予定である。

縄文時代

a. 石器 (12図-8・9、P L 17-21~29)

石鎌、磨製石斧などが出土している。

b. 縄文土器 (12図-10~20、P L 17-30~36)

前期後半~後期前葉の遺物が出土している。時期別の遺物では、前期の円筒下層c~d相当が多く出土している。

擦文時代

a. 擦文土器

甕と思われる細片が6点出土している。

江戸時代

a. 土器・陶磁器 (19図-27~28、P L 20~8・9)

16世紀後半~幕末頃の年代観を示す肥前系陶磁器Ⅲ期~Ⅴ期の製品などが出土している。

b. 鉄製品 (21図-1~7・23図-3・4、P L 19-43~49、20-47・48)

釘・銭が確認された。

銭の銭種は、寛永通寶の鉄一文銭5点、箱館通寶9点が出土している。

c. 銅製品 (19図-25~20図-2・6・7・9・23~23図-2、P L 20-12~22・26・27・29・43~46)

銭が出土している。

銭の銭種は、寛永通寶(1期13点・2期4点・3期28点)が確認された。

表1 トレンチ1 南北セクション東壁土層観察表(A~A'')

	I-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根多量	
	II-1	10YR4/4	褐色		シルト やや密 ややハード		
	III-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	炭粒微量	
	III-2	7.5YR4/4	褐色		シルト やや密 ややソフト		
	III-3	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト		草根
	III-4	7.5YR3/4	暗褐色	礫	シルト やや密 ややソフト		
	V-1	7.5YR3/4	暗褐色	礫	シルト やや密 ややソフト		
溝2	1	10YR4/4	褐色		シルト 密 ややソフト	炭粒微量	
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト 密 ややソフト		
	3	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト		
溝1	1	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ソフト	草根	
	2	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ソフト		

表2 トレンチ1 南北セクション東壁土層観察表(B~B'')

	I-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根
	III-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	炭粒微量
	III-2	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ソフト	炭粒 焼土粒

	III-3	7.5YR4/4	褐色		シルト 密 ややハード		
	III-4	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	炭粒微量	
	III-5	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	炭粒	
	III-6	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6 褐色土粒状に混入	シルト やや密 ややソフト		
	III-7	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト		
	III-8	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややハード	炭粒微量	
	III-9	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややハード		
	V-1	7.5YR4/4	褐色	小礫 玉砂利	粘質土 密 ハード		
Pit31	1	10YR3/4	暗褐色	7.5YR4/4 褐色土粒状に混入	シルト やや密 ややハード	炭粒微量	
竪穴 109	1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利	シルト やや密 ややソフト		
	2	7.5YR3/4 ・2/3	暗褐・ 極暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒 焼土粒	
	3	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒 焼土粒多量	
	4	7.5YR4/4	褐色		粘質土 やや密 ややハード	炭粒	
	5	10YR4/4・ 7.5YR4/4	褐色		シルト・粘質土混合 やや密 ややハード	炭粒微量	
	6	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	1cm大炭	
	7	10YR3/4	暗褐色		10YR4/4 褐色粘質土粒状に混入	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	8	7.5YR4/4	褐色			シルト やや密 ややハード	

	9	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	10	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	炭粒微量
	11	7.5YR4/4	褐色		粘質土 密 ややハード	炭粒微量
	12	7.5YR4/4	褐色	礫粒少量	粘質土 やや密 ややハード	
	13	7.5YR4/4	褐色		粘質土 やや密 ややハード	
	14	7.5YR4/4	褐色	7.5YR5/8 明褐色粘質土少量	粘質土 密 ハード	
	15	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土 密 ハード	炭粒微量
	16	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ややハード	炭粒微量
	17	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ハード	炭粒微量
	18	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土 密 ハード	炭粒微量
	19	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ハード	
Pit10	あ	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ややハード	炭粒微量
溝1	1	7.5YR4/4	褐色		シルト やや密 ややハード	炭粒微量
	2	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	全面炭粒混入
	3	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
道路面	A	7.5YR4/6	褐色	ローム 礫	密 極ハード	

	15	10YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト		
土壁?	A	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫(大)混入	シルト やや粗 ややソフト		
溝6 (上面)	a	10YR2/2	黒褐色	砂 礫 基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト		
	b	10YR2/3	黒褐色	全面砂・礫・基盤礫粒 混入 5cm大基盤礫	シルト やや密 ややソフト		
	c	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト		
	(下面)	1	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや密 ややソフト	
		2	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや粗 ややソフト	
		3	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや粗 ややソフト	
		4	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒 砂 礫	砂質土 やや密 ややソフト	
		5	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫 礫粒	砂質土 やや粗 ややソフト	
		6	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫	砂質土 粗 ややソフト	
		7	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒	砂質土 やや粗 ややソフト	
	8	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫	砂質土 やや粗 ややソフト		
	9	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫 礫粒	砂質土 やや密 ややソフト		
	10	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	砂質土 やや密 ややソフト		

表3 トレンチ3 東西セクション北壁土層観察表(A~A')

	I -1	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒	シルト やや粗 ややソフト	草根
	II -1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	II -2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	炭粒少量
	II -3	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	II -4	10YR3/4	暗褐色	砂 礫	シルト やや密 ややソフト	
	II -5	10YR2/3	黒褐色	砂 礫 基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
	II -6	10YR3/3	暗褐色	砂 礫 基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
	II -7	10YR3/4	暗褐色	砂 礫 基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
空壕C (上面)	a	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	b	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	c	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒 砂 礫少量	シルト やや密 ややソフト	
	d	10YR3/3	暗褐色	基盤礫 砂 礫	シルト やや密 ややソフト	
	e	10YR3/3	暗褐色	砂 礫	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
(下面)	1	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫	シルト やや密 ややソフト	
	4	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	5	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや粗 ややハード	
	6	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや粗 ややハード	
	7	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや粗 ややソフト	
	8	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや粗 ややソフト	
	9	7.5YR4/6	褐色	全面基盤礫	粘質土 やや粗 ややソフト	
	10	7.5YR4/3	褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	11	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫	粘質土 やや粗 ややソフト	
	12	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫	粘質土 やや密 ややソフト	
	13	7.5YR4/4	褐色	全面5~10cm大 基盤礫混入	粘質土 やや密 ややソフト	
	14	10YR4/3	にぶい黄 褐色	全面基盤礫	粘質土 やや密 ややソフト	

表4 トレンチ3 南北セクション西壁土層観察表(B~B')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根
	I a-2	10YR3/3	暗褐色	玉砂利 基盤礫粒微量	粘質土 やや粗 ややソフト	草根
	I b-1	7.5YR3/3	暗褐色	全面基盤礫・礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	I b-2	10YR3/3	暗褐色	礫 基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	II -1	10YR3/4	暗褐色	砂 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	II -2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	II -3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	木根
	III -1	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒少量含む	粘質土 やや密 ややソフト	
	III -2	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒少量含む	粘質土 やや密 ややソフト	
空壕C (上面)	a	10YR3/4	暗褐色	基盤礫	シルト やや密 ややソフト	
	b	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒少量含む 砂微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	c	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	d	7.5YR3/4	暗褐色	砂 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒
	e	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒 砂微量	シルト やや密 ややソフト	
	f	10YR1.7/1 ・2/3	黒・黒褐 色	黒色土層 砂	シルト やや密 ややソフト	炭粒
	g	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	h	10YR4/4	褐色	砂 基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒
	i	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	j	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫微量 基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	k	7.5YR4/4	褐色	砂 基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒
	l	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒少量含む 砂微量	粘質土 密 ややソフト	
	m	10YR3/4	暗褐色	砂微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	n	10YR4/4	褐色	砂 基盤礫粒微量	粘質土 密 ややソフト	炭粒
o	10YR4/3	にぶい黄 褐色	全面基盤礫粒少量含む 砂	粘質土 密 ややソフト	炭粒微量	
p	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒少量含む 砂	粘質土 密 ややソフト	炭粒微量	
q	10YR2/3・ 7.5YR4/4	黒褐・褐 色	基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒	
r	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒含む	粘質土	炭粒	

	s	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	t	10YR4/4	褐色	礫 基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	u	10YR3/4	暗褐色	砂 基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	v	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	w					
	x					
	y	10YR2/2	黒褐色	基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒
	z	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量 礫微量	シルト やや密 ややソフト	
	a 1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	b 1	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫含む	粘質土 やや密 ややソフト	
	c 1					
	d 1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	e 1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	f 1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	g 1	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	h 1	7.5YR4/4	褐色	基盤礫 礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
(下面)	1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	2	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	3	10YR4/4	褐色	全面基盤礫混入 3 cm大基盤礫	粘質土 やや密 ややソフト	
	4	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土・砂質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	5	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫混入	粘質土 やや密 ややソフト	
	6	7.5YR4/4	褐色	基盤礫 礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	7	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	8	7.5YR4/4	褐色	砂 基盤礫少量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒
	9	7.5YR4/4	褐色	基盤礫 礫粒 砂微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	10	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	11	7.5YR4/4	褐色	砂 基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	12	7.5YR4/3	褐色	基盤礫 礫粒 砂	粘質土 やや密 ややソフト	
	13	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫 礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	14	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒 砂	粘質土 やや密 ややソフト	
	15	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫混入	粘質土 やや粗 ややソフト	
	16	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒(15より 細かい粒)混入	粘質土 やや密 ややソフト	
	17	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
溝 4	1	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒・10 cm大礫 少量	シルト やや密 ややソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	砂 基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	4	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	5	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
あ	10YR5/4	にぶい黄 褐色	1～3 cm大礫粒中量 10 cm大礫×1	シルト ややハード		
い	10YR5/4	にぶい黄 褐色	1～3 cm大礫粒中量	シルト ややハード		
う	10YR5/3	にぶい黄 褐色	1～3 cm大礫粒中量	シルト ややハード		
え	10YR5/3	にぶい黄 褐色	3 cm大礫粒多量	シルト ややハード		
お	10YR5/4	にぶい黄 褐色	3 cm大礫粒多量	シルト ややハード		
か	10YR5/4	にぶい黄 褐色	3 cm大礫粒中量	シルト ややソフト		
き	10YR5/4	にぶい黄 褐色	3 cm大礫粒少量	シルト ややハード		

近世溝 堀上土	α	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫・礫粒含む	粘質土 やや密 ややソフト	
溝 3	1	10YR3/4	暗褐色	礫少量	シルト やや粗 ソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色	砂微量	シルト やや密 ソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	砂微量 礫	シルト やや密 ややソフト	
	4	10YR3/4	暗褐色	砂 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒

表5 トレンチ3 東西セクション南壁土層観察表(C～C'')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根 木根
	II -1	10YR3/4	暗褐色	砂 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	木根
	II -2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	II -3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	II -4	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	II -5	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	VI -1	7.5YR4/3	褐色	全面基盤礫含む	粘質土 やや粗 ややソフト	
空壕C (上面)	a	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	b	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	c	10YR1.7/1 ・2/3	黒・黒褐 色	黒色土層 砂	シルト やや密 ややソフト	炭粒
	d	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	炭粒
	e	10YR3/3	暗褐色	砂 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	f	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒
	g	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	h	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	i	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫微量 基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	j	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	k	10YR2/3・ 7.5YR4/4	黒褐・褐 色	黒色土層 基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒
	l	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒 基盤礫	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
	m	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	粘質土 密 ややソフト	炭粒微量
	n	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
(下面)	1	7.5YR3/4	暗褐色	全面砂・基盤礫粒・ 5～10 cm大基盤礫混入	粘質土 やや粗 ややソフト	
	2	10YR4/4	褐色	全面基盤礫混入 3 cm大基盤礫少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	3	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫混入 3 cm大基盤礫少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	4	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫・礫粒含む	粘質土 やや粗 ややソフト	
	5	7.5YR4/3	褐色	全面基盤礫・礫粒混入	粘質土 やや密 ややソフト	
	6	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや粗 ややソフト	
	7	7.5YR3/3	暗褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや粗 ややソフト	
	8	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや粗 ややソフト	
	9	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや粗 ややソフト	炭粒微量
	10	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫・礫粒	粘質土 やや粗 ややソフト	
	11	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質 砂質 やや密 ややソフト	炭粒微量
	12	7.5YR3/4	暗褐色	全面基盤礫・礫粒混入	粘質土 やや密 ややソフト	
	13	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫・礫粒混入	粘質土 やや密 ややソフト	
	14	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫混入 下部基盤礫少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	15	7.5YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量

表6 トレンチ3 東西セクション南壁土層観察表(D~D'')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根
	III -2	10YR4/4	褐色	全面基盤礫粒少量混入	粘質土 やや密 ややソフト	
近世溝 掘上土	あ	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒含む	シルト やや密 ややソフト	木根
	い	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	う	10YR2/3	黒褐色	玉砂利 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	え	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	お	10YR2/3	黒褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ややソフト	
	か	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	き	10YR2/3	黒褐色	基盤礫 Ko-d 微量	シルト やや密 ややソフト	
土壌16	A	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒
	B	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	木根
	C	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ソフト	
	D	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	E	10YR2/2	黒褐色	Ko-d 微量	シルト やや密 ややソフト	
空壕C (上面)	a	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	草根
	b	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	c	10YR2/2	黒褐色	Ko-d 微量	シルト やや密 ややソフト	
	d	10YR3/4	暗褐色	Ko-d 微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒
	e	10YR2/2	黒褐色	5YR3/6 暗赤褐色土・ Ko-d 微量	シルト やや密 ソフト	
	f	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色シルト主体 5YR3/6 暗赤褐色土(5:5)	シルト やや密 ソフト	
	g	10YR2/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ソフト	
	h	10YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 粗 ややソフト	
	i	10YR2/3	黒褐色	10YR3/4 暗褐色土・ 基盤礫粒一部混入	シルト やや密 ややソフト	
	j	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	k	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	炭粒微量
	l	10YR2/3	黒褐色	Ko-d 微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	m	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	炭粒微量 木根
	n	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	木根
	o	10YR3/2	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	p	10YR2/2	黒褐色	下部 5YR4/8 赤褐色土粒少量混入	シルト やや密 ソフト	
	q	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	草根
	r	10YR2/1	黒色		シルト やや密 ソフト	
	s	10YR2/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ソフト	草根
	t	10YR2/1	黒色	7.5YR4/6 褐色粘質土一部混入	シルト やや密 ややソフト	下部炭粒混入
u	10YR2/1	黒色		シルト やや密 ソフト	炭粒微量	
v	10YR3/4	暗褐色	全面基盤礫粒混入	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量	
w	10YR2/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ソフト	炭粒	
x	10YR2/2	黒褐色	5YR3/6 暗赤褐色土 Ko-d 微量	シルト やや密 ソフト	炭粒少量	
y	10YR2/3	黒褐色	7.5YR4/6 褐色土粒少量	シルト やや密 ソフト	炭粒微量	
(下面)	1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒 下部 10YR2/3 黒褐色土帯状に入る	粘質土 砂質 やや密 ソフト	
	2	10YR4/4	褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	3	10YR4/4	褐色	基盤礫 礫粒少量	粘質土 やや密 ソフト	
	4	10YR4/4	褐色	上・下部分基盤礫粒少量 基盤礫微量	粘質土 やや密 ソフト	炭粒

	5	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	粘質 砂質 やや密 ややソフト	
	6	10YR4/3	にぶい黄 褐色	全面基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	7	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや密 ややソフト	炭粒微量
	8	10YR5/6	黄褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや密 ややソフト	炭粒微量
	9	7.5YR3/3	暗褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや粗 ややソフト	
	10	10YR4/4	褐色	基盤礫	粘質土 やや密 ややソフト	
	11	7.5YR4/6	褐色		粘質 砂質 やや密 ややソフト	
	12	7.5YR4/4	褐色	全面基盤礫 礫粒	粘質 砂質 やや粗 ややソフト	
	13	7.5YR3/3	暗褐色	全面基盤礫粒	粘質 砂質 やや粗 ややソフト	

表7 トレンチ3 南北セクション東壁土層観察表(E~E'')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	草根
	I b-1	7.5YR3/3	暗褐色	基盤礫粒	粘質土 やや密 ややソフト	
	I b-2	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	粘質土 密 ややソフト	
溝3	1	10YR3/4	暗褐色	礫	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	3	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	シルト 密 ややソフト	
	4	10YR3/4	暗褐色	礫 基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	5	10YR4/4	褐色	礫	シルト やや密 ややソフト	
	6	7.5YR4/4	褐色	基盤礫	シルト やや密 ややソフト	
溝4	1	10YR2/3	黒褐色	礫 基盤礫粒少量	シルト 密 ややソフト	炭粒
	2	10YR3/4	暗褐色	礫 基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	4	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト 砂質 やや密 ややソフト	
	5	10YR3/3	暗褐色	基盤礫	シルト 密 ややソフト	炭粒微量
	6	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	7	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	8	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ソフト	
	9	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ソフト	
	10	10YR3/4	暗褐色	基盤礫	シルト やや密 ややソフト	
	11	10YR3/3	暗褐色	基盤礫微量	シルト やや密 ややソフト	
	12	10YR3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
	13	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	
近世溝 掘上土	あ	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒
	い	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量 礫粒少量	粘質 砂質 やや密 ややソフト	
	う	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒	粘質 砂質 やや密 ややソフト	
空壕C (上面)	a	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ソフト	炭粒少量 炭粒微量
	b	10YR2/3	黒褐色	基盤礫微量	粘質土 やや密 ややソフト	
	c	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
	d	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト やや密 ソフト	
	e	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ソフト	
	f	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	

表8 トレンチ3 南北セクション西壁土層観察表(F~F'')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色	細砂利(2~5mm大)少量	シルト やや粗ソフト	
	II a-1	7.5YR3/3	暗褐色	細砂利(5mm大)中量	粘質土 やや粗ややソフト	
	II a-2	10YR3/4	暗褐色	1cm大砂利少量	粘質土 やや粗ややハード	
	II a-3	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫多量	粘質土 やや粗ややハード	
	II a-4	10YR5/4	にぶい黄褐色	細砂利(2~5mm大)中量	粘質土 密ハード	
	II a-5	10YR4/3	にぶい黄褐色	細砂利(2~5mm大)中量	粘質土 やや密ハード	
	II b-1	10YR4/4	褐色	細砂利(2~5mm大)中量	粘質土 やや粗ハード	
	VI -1	10YR4/3	にぶい黄褐色	5~10cm大基盤礫主体	粘質土 やや粗ハード	
溝4	1	5YR3/2	暗赤褐色	3cm大基盤礫中量	粘質土 やや粗ややハード	石1個
	2	10YR3/3	暗褐色	3cm大基盤礫中量	粘質土 粗ややハード	
	3	10YR3/3	暗褐色	1~3cm大基盤礫多量	粘質土 粗ハード	
	4	7.5YR3/4	暗褐色		粘質土 やや粗ややソフト	
	5	10YR3/3	暗褐色		粘質土 やや粗ソフト	
	6	10YR3/4	暗褐色		粘質土 やや粗ややソフト	
溝3	1	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	粘質土 やや密ハード	根多量
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫少量	粘質土 やや粗ややソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫少量	粘質土 やや密ややハード	
	4	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	粘質土 やや密ハード	
	5	10YR3/3	暗褐色	基盤礫少量	粘質土 やや粗ややソフト	
	6	10YR3/3	暗褐色	基盤礫少量	粘質土 やや密ややソフト	
	7	10YR5/4	にぶい黄褐色	基盤礫少量	粘質土 やや粗ハード	

表9 トレンチ4 南北セクション東壁土層観察表(A~A''')

	I -1	10YR3/3	暗褐色	2~3mm大細砂利中量	やや粗ややハード	草根多量
	II -1	7.5YR2/3	極暗褐色		粘質土 やや密ソフト	炭粒微量
	II -2	7.5YR3/3	暗褐色		粘質土 やや密ややソフト	5mm大細骨2・3個
	II -3	7.5YR3/2	黒褐色		粘質土 やや粗ややソフト粘質性強い	
	II -4	10YR2/3	黒褐色	1cm大Ko-dブロック1個	粘質土 やや粗ややソフト	
	II -5	10YR3/3	暗褐色	15cm大礫1個	シルト やや密ややハード	
	II -6	10YR3/2	黒褐色		シルトややソフト	
	III a-1	7.5YR3/2	黒褐色	0.5~3cm大礫中量	粘質土 やや密ソフト	炭粒
	III a-2	10YR3/3	暗褐色	礫粒多量	シルトややソフト	
	III a-3	7.5YR3/2	黒褐色	1~5cm大礫中量(B~B' III a-1と同じ)	粘質土 粗ソフト	
	III a-4	10YR3/3	暗褐色	細砂利中量	粘質土 やや粗ややソフト	
	III a-5	10YR3/3	暗褐色	2~5cm大礫少量	粘質土 ややソフト	
	III a-6	7.5YR4/3・10YR3/4	褐・暗褐色	基盤礫・5~15cm大礫多量(B~B' III a-2と同じ)	粘質土 粗ソフト	
	III b-1	10YR5/4・4/3	にぶい黄褐色	細砂利多量(B~B' III b-1と同じ)	粘質土 粗ソフト	
	III b-2	10YR4/4	褐色	礫粒少量	粘質土 ハード	
	III b-3	10YR5/4	にぶい黄褐色	黒褐色土少量	粘質土 ハード	
	III c-1	10YR3/2	黒褐色		シルトややハード	炭粒少量
	III c-2	2.5Y4/4	オリーブ褐色		砂質土 ソフト	炭粒少量
	III c-3	10YR4/3・3/2	にぶい黄褐・黒褐色	(B~B' III c-1と同じ)	粘質土 粗ややソフト	上部厚1cm大炭層有り
	VI -1	10YR4/3	にぶい黄褐色	5~20cm大基盤礫多量(B~B' VI -1と同じ)	粘質土 やや粗ややソフト	
溝3	1	10YR3/2	黒褐色	2~5mm大砂利少量	シルト やや粗ややソフト	

	2	10YR3/4	暗褐色	約10cm大礫1個	シルト 粗ソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色		粘質土 やや粗ソフト	
	4	10YR3/3	暗褐色	3~10cm大礫5・6個	粘質土 やや粗ややソフト	
	5	10YR3/2	黒褐色		粘質土 やや粗ややハード	
	6	10YR3/3	暗褐色		粘質土 やや粗ややハード	
	7	10YR3/4	暗褐色	1~10cm大礫少量	粘質土 やや粗ハード	
	8	10YR3/4	暗褐色		粘質土 やや密ややソフト	
	9	10YR4/3	にぶい黄褐色	1~2mm大細礫中量	粘質土 やや密ややソフト	
	10	10YR4/4	褐色	底部厚1cm程砂質土混入	粘質土 密ややソフト	
溝4	1	10YR2/3	黒褐色	10cm大円礫1個	シルト ハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色		砂質土 ややソフト	
Pit33	あ	10YR2/3	黒褐色	細砂利中量	粘質土 やや粗ややソフト	
	い	10YR3/2	黒褐色	1~5cm大礫少量	粘質土 やや粗ややソフト	
土壌7	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	1~5cm大礫多量	シルト やや粗ハード	炭粒微量 人骨1×5cm大1個 炭粒微量 5YR5/6明赤褐色粘土粒微量
	2	10YR4/4	褐色	Ko-d少量	シルト やや密ややハード	
	3	10YR2/2	黒褐色		粘質土 やや粗ややソフト	
	4	10YR3/2	黒褐色		粘質土 粗ソフト	
	5	10YR2/2	黒褐色		粘質土 粗ソフト	
	6	10YR3/2	黒褐色	5~15cm大礫多量	粘質土 極粗ややソフト	
	7	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗ソフト	
	8	10YR3/3	暗褐色		粘質土 粗ソフト	
	9	10YR2/2	黒褐色		粘質土 粗ソフト	

表10 トレンチ4 溝5・礫範囲土層観察表(B~B')

	III a-1	7.5YR3/2	黒褐色	1~3cm大礫中量(A~A' III a-3と同じ)	粘質土 粗ソフト	
	III a-2	7.5YR4/3・10YR3/4	褐・暗褐色	基盤礫・5~15cm大礫多量(A~A' III a-6と同じ)	粘質土 粗ソフト	
	III a-3	10YR2/1	黒色		粘質土 粗極ソフト	
	III b-1	10YR5/4・4/3	にぶい黄褐色	細砂利多量(A~A' III b-1と同じ)	粘質土 粗ソフト	
	III c-1	10YR4/3・3/2	にぶい黄褐・黒褐色	(A~A' III c-3と同じ)	粘質土 粗ややソフト	上部厚1cm大炭層有り
	III c-2	10YR4/3	にぶい黄褐色		粘質土 粗ソフト	
	VI -1	10YR4/3	にぶい黄褐色	5~20cm大基盤礫多量(A~A' VI -1と同じ)	粘質土 やや粗ややソフト	
溝5	1	10YR2/2	黒褐色		粘質土 粗ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色		粘質土 粗ややソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色		粘質土 粗ややハード	
	4	10YR3/4	暗褐色		粘質土 やや粗ややハード	
	5	10YR3/3	暗褐色	細粒基盤礫多量	粘質土 粗ややソフト粘質性強い	

表11 トレンチ5 南北セクション西壁土層観察表(A~A''')

	I -1	10YR2/3	黒褐色		シルト 極粗	草根多量
	II -1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗ややソフト	
	II -2					
	II -3	10YR4/6	褐色	5cm大礫1個	粘質土 やや密ハード	
	II -4	10YR3/3	暗褐色		粘質土 粗ハード	
	II -5	10YR3/2	黒褐色	基盤礫少量	シルト 粗ややハード	炭粒微量
	II -6	10YR3/3	暗褐色	玉砂利微量	シルト 粗ややソフト	
	II -7	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗極ソフト	粘土粒微量

	II - 8	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	5YR4/8 赤褐色 焼土粒少量
	II - 9	10YR3/2	黒褐色	1 ~ 5 cm 大玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	II - 10	10YR3/3	暗褐色	7.5YR5/6 明褐色ローム粒少量	シルト やや粗 ややハード	炭粒微量
	II - 11	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ややハード	炭粒・焼土粒 少量
魚骨層	III a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	
	III a-2	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	焼土粒少量 0.5 ~ 1 cm 大 炭 3 個
	III a-3	10YR2/2	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	
	III a-4	10YR2/2	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	骨片微量
	III a-5	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	2 ~ 5 mm 大 焼土粒少量
	III a-6	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	中段 2.5YR4/8 赤褐色焼土粒 下部炭粒
	III a-7	7.5YR2/2	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	骨片少量
	III a-8	10YR2/2	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	5YR4/8 赤褐色 焼土粒中量
	III a-9	10YR2/2	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	
	III a-10	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	5YR5/8 明赤褐色 焼土粒少量 炭粒 骨片微量
	III a-11	10YR2/2	黒褐色	Ko-d 微量	シルト 粗 ソフト	
	III a-12	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 粗 ややソフト	炭粒 骨片微量
	III a-13	7.5YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	5YR4/8 赤褐色 焼土粒多量 骨片微量
	III a-14	7.5YR2/2	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	0.5 ~ 1 cm 大 焼土粒 7 個
	III a-15	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	1 cm 大炭 2 個 骨片微量
	III a-16	7.5YR3/2	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	炭粒 骨片微量
	III a-17	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
III b-1	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 極粗 ソフト	7.5 YR4/6 褐色 焼土粒中量 2 cm 大炭 1 個	
III b-2	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト やや粗 ソフト	2.5YR4/6 赤褐色焼土粒 2/3 以上含む	
III b-3	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量	
III b-4	7.5YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	全面 2.5YR4/6 赤褐色焼土粒 混入 炭粒微 量 骨片少量	
III b-5	7.5YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	骨片 炭粒 焼土粒少量	
III b-6	2.5YR4/6	赤褐色		シルト 極粗 ソフト	焼土層 中段 骨片・ 灰少量層状に 混入	
III b-7	7.5YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト		
III b-8	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	炭粉中量	
III b-9	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	炭粉多量 7.5 YR4/6 褐色 焼土粒中量	
III b-10	10YR2/1	黒色		シルト やや粗 ややソフト	人骨 1 個	
III b-11	10YR2/2	黒褐色	玉砂利	シルト 粗 ややソフト	1・2 cm 大 焼土粒少量 炭粒微量	
III b-12	10YR1.7/1	黒色		シルト 粗 ややソフト	炭粒中量	
III b-13	10YR2/3	黒褐色	1 ~ 3 cm 大基盤礫多量	シルト 粗 ややソフト		
III b-14	10YR2/2	黒褐色	1 cm 大 10YR4/4 褐色ソ フトロームブロック 1 個	粘質土 粗 ややソフト		
III b-15	10YR2/3	黒褐色	10YR4/4 褐色粘質土 ブロック中量	シルト 粗 ややソフト		
III c-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ソフト	下部炭層	
III c-2	10YR3/2	黒褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土少量(層状)	粘質土 やや密 ややハード		
III c-3	10YR3/2	黒褐色		粘質土 やや密 ハード		
III c-4	7.5YR5/4	にぶい褐色		粘質土 やや密 ややハード		
III c-5	7.5YR1.7/1	黒色		粘質土	下部層状に炭粒	

	III c-6	10YR5/6	黄褐色		粘質土 やや密 ややハード	
	III c-7	10YR5/4	にぶい黄褐色		粘質土 やや粗 ややソフト	
	III c-8	10YR2/2	黒褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	III c-9	10YR2/3	黒褐色		粘質土 粗 ソフト	炭粒 骨片微量
	III c-10	10YR2/2	黒褐色		粘質土 粗 ややソフト	炭粒 骨片微量
	III d-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫微量	粘質土 やや密 ハード	
	III d-2	10YR4/4	褐色		粘質土 粗 ハード	
	III d-3	10YR5/4	にぶい黄褐色		粘質土 粗 ややソフト	
	III d-4	10YR5/3	にぶい黄褐色		粘質土 粗 ややソフト	
	III d-5	10YR4/3	にぶい黄褐色		粘質土 やや粗 ややソフト	
	III d-6	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫多量	粘質土 粗 ハード	
	III d-7	10YR2/3	黒褐色	2 cm 大基盤礫少量	粘質土 やや密 ややソフト	
	III d-8	10YR2/3	黒褐色		粘質土 やや密 ソフト	
	IV a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	炭粒微量
	V a-1	10YR4/6	褐色		粘質土 粗 ややハード	炭粒微量
	V b-1	10YR4/4	褐色	ソフトローム 2 ~ 5 cm 大礫少量	密 ややハード	
	VI -1	10YR5/4	にぶい褐色	全面基盤礫中量混入	やや密 ハード	
	盛土 A	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ややハード	1 cm 大焼土粒 微量
土壌10	1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややハード	
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	3	7.5YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ハード	
	4	10YR1.7/1	黒色		シルト やや密 ややソフト	炭粒 焼土粒微量
道路?	a	10YR3/4	暗褐色	基盤礫多量	粘質土 粗 ハード	
	b	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ハード	
溝 4	1	10YR3/3	暗褐色	2 ~ 5 cm 大基盤礫少量	粘質土 粗 ソフト	
	2	10YR4/4	褐色		粘質土 粗 ハード	
溝 3	1	10YR3/3	暗褐色	5 ~ 10 cm 大礫少量	粘質土 粗 ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色		粘質土 粗 ソフト	炭粒微量
	3	10YR3/4	暗褐色	2 cm 大玉砂利 1 個	粘質土 やや粗 ややソフト	
	4	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	5	2.5Y4/6	オリーブ褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	6	10YR4/4	褐色	1 cm 大基盤礫中量	粘質土 粗 ややハード	
	7	10YR4/4	褐色	5 cm 大基盤礫中量	粘質土 粗 ややハード	

表12 トレンチ 5 炭範囲土層観察表 (B ~ B')

	III -1	10YR4/4	褐色	下部基盤礫混入	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	III -2	7.5YR4/4	褐色		粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
炭範囲 2	1	10YR1.7/1	黒色		シルト やや密 ソフト	炭粒少量
	2	10YR2/2	黒褐色	基盤礫微量	シルト やや密 ソフト	
	3	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ソフト	炭粒少量
	4	10YR2/1	黒色		シルト やや密 ソフト	
	5	10YR1.7/1	黒色		シルト やや密 ソフト	全面炭粒混入

表13 トレンチ 6 南北セクション東壁土層観察表 (A ~ A')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	木根多量
	I b-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	
	II -1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利微量	粘質土 密 ハード	炭粒
ローム 範囲	III a-1	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ややハード	
	III a-2	10YR5/6	黄褐色	ソフトローム		

	III a-3	10YR3/3	暗褐色	1 cm大ソフトロームブロック中量	粘質土 やや粗 ややソフト		
魚骨層	III b-1	10YR3/2	黒褐色	基盤礫微量	粘質土 やや粗 ややソフト	中央部に骨片 極微量	
	III b-2	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ハード		
	III b-3	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ハード	1.5 cm大炭混 入	
	III b-4	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ハード		
	III b-5	10YR2/1	黒色		シルト やや密 ややハード		
	III b-6	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややハード		
	III b-7	10YR2/1	黒色		シルト 粗 ソフト		
	III b-8	10YR2/3	黒褐色		粘質土 やや粗 ややソフト		
	III c-1	10YR3/2	黒褐色		5 cm大基盤礫 1 個	シルト 密 ハード	炭粒微量
	III c-2	10YR3/3	暗褐色			粘質土 密 ハード	
III c-3	10YR3/4	暗褐色	粘質土 密 ハード				
III c-4	10YR4/6	褐色	シルト 粗 ハード				
III c-5	10YR4/4	褐色	シルト 粗 ハード				
III c-6	10YR4/4	褐色	シルト 粗 ソフト				
	VI -1	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	シルト やや粗 ハード		
小P	1	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ややソフト		
溝12	あ	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ソフト	骨粉微量	

	III c-12	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	III c-13	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ソフト	炭粒微量
	III c-14	10YR2/3	黒褐色	下部 Ko-d 微量混入	シルト やや粗 ややソフト	
	III c-15	10YR3/3	暗褐色	5 cm大基盤礫 2 個	シルト やや粗 ややソフト	
	III c-16	10YR3/4	暗褐色	右半分 0.5 ~ 2 cm大 玉砂利少量混入	シルト 粗 ややソフト	
	III c-17	10YR3/3	暗褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ハード	炭粒微量
	III c-18	10YR3/3	暗褐色	下部基盤礫層有り	シルト 粗 ソフト	
	III c-19	10YR2/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ソフト	
	III c-20	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	炭粒微量
	III c-21	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
	III c-22	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III c-23	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	
	III c-24	10YR3/3	暗褐色	8 cm大礫 1 個 3 ~ 5 cm大玉石 2 個	シルト やや粗 ハード	
	III c-25	10YR4/3	にぶい黄 褐色	1 cm大玉砂利 2 個	粘質土 やや密 ハード	
	III c-26	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	炭粒微量
	III c-27	10YR2/3	黒褐色	左側 2 cm幅で玉砂利・ 粘質土混入	シルト 粗 ややソフト	
	V a-1	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	
	V b-1	10YR4/6	褐色		シルト 密 ハード	
	VI -1	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ややソフト	
溝9	1	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	2	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややハード	
	3	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	シルト やや粗 ハード	
溝7	1	10YR2/3	黒褐色	基盤礫少量	粘質土 やや粗 ハード	中央に炭層 有り
	2	10YR2/2	黒褐色		粘質土 やや粗 ややソフト	
	3	10YR3/3	暗褐色	下部厚 2 cm 基盤礫有 り	粘質土 やや粗 ハード	
溝11	A	10YR3/4	暗褐色	上下部基盤礫中量 上から 6 ~ 17 cm間砂少量	シルト 粗 ハード	
焼土2	あ	7.5YR4/6	褐色		シルト 粗 ソフト	
Pit34	1	10YR4/4	褐色		粘質土 やや粗 ソフト	
小P	1	10YR2/3	黒褐色		粘質土 粗 ややソフト	上から 4 cmの所 5 mm大炭 1 個

表14 トレンチ7 南北セクション東壁土層観察表(A~A'')

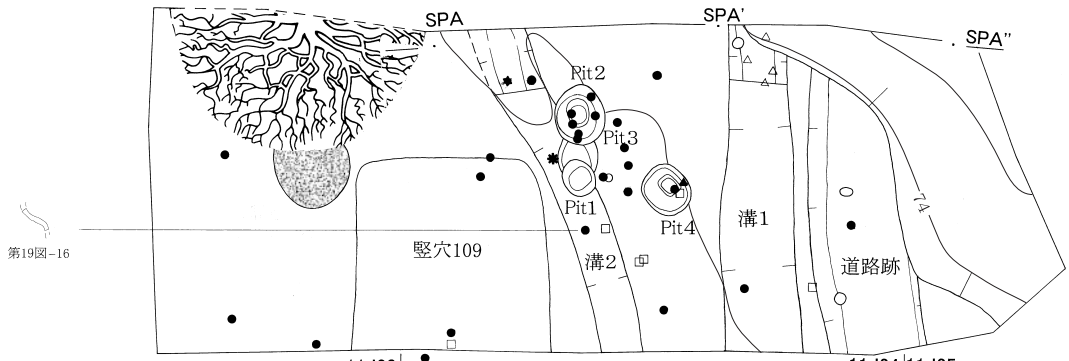
	I a-1	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	草根多量
	I b-1	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト 粗 ややソフト	草根多量
II	II -1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	草根多量
	II -2	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややハード	
	II -3	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	
	II -4	10YR3/3	暗褐色		シルト 極粗 ハード	
	II -5	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややハード	
	II -6	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	II -7	10YR3/2	黒褐色		(B~B' II -1 と同じ)	
III a	III a-1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	炭粒微量
	III a-2	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ソフト	
III b	III b-1	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	炭粒少量
	III b-2	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	
	III b-3	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III b-4	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	
	III b-5	10YR3/4	暗褐色		粘質土 やや粗 ハード	
	III b-6	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	
	III c	III c-1	10YR2/3	黒褐色	右下部ソフトロームブ ロック	
III c-2		7.5YR3/2	黒褐色		シルト やや密 ややハード	
III c-3		10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややハード	
III c-4		10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
III c-5		10YR2/3	黒褐色	5 mm大玉砂利 2 個	シルト やや粗 ソフト	
III c-6		7.5YR3/2	黒褐色	Ko-d 微量	シルト やや粗 ソフト	
III c-7		10YR3/3	暗褐色	Ko-d 微量	シルト やや粗 ややソフト	
III c-8		10YR3/4	暗褐色	1 cm大玉砂利 1 個	シルト やや粗 ややハード	
III c-9		10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
III c-10		10YR4/4	褐色	1.5 cm大玉砂利 1 個	シルト やや粗 ややハード	
III c-11		10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	

表15 トレンチ7 東西セクション南壁土層観察表(B~B')

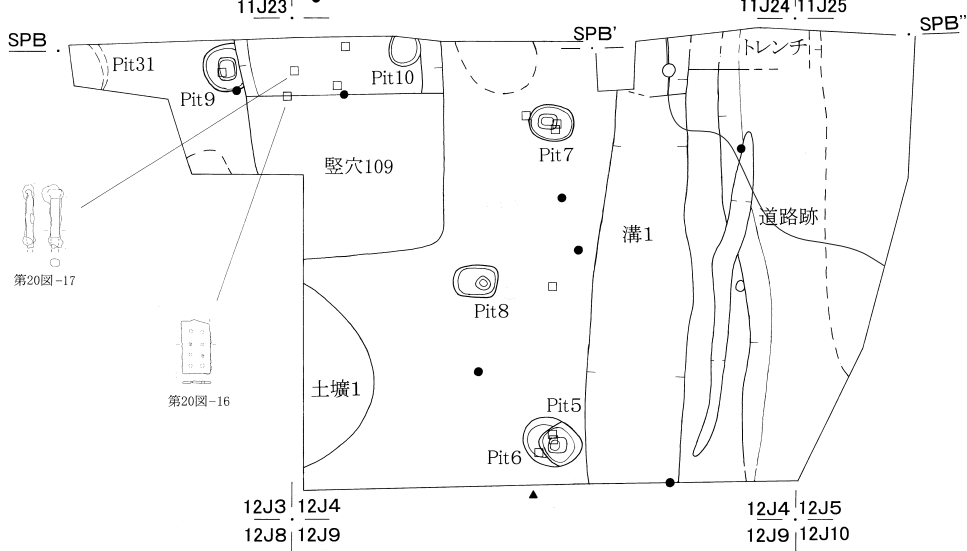
	I a-1	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	草根多量
	II -1	10YR3/2	黒褐色	(A~A' II -7 と同じ)	シルト 粗 ややハード	草根多量
	II -2	10YR2/3	黒褐色	10 cm大礫少量	シルト 粗 ややソフト	草根多量
	II -3	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややハード	草根多量 炭粒微量
III a	III a-1	10YR3/3	暗褐色	5 ~ 10 cm大基盤礫 少量	シルト やや粗 ややハード	炭粒微量
	III a-2	10YR3/3	暗褐色	2・3 mm大玉砂利微量	シルト やや粗 ソフト	
	III a-3	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III a-4	10YR2/3	黒褐色	基盤礫微量	シルト やや粗 ややソフト	
	III a-5	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III a-6	10YR2/3	黒褐色	基盤礫 玉砂利微量	シルト 粗 ややソフト	
III b	III b-1	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	炭粒微量
	III b-2	10YR2/3	黒褐色	5 cm大基盤礫 玉砂利微量	シルト やや粗 ソフト	
III c	III c-1	7.5YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	炭粒微量
	III c-2	7.5YR3/2	黒褐色		シルト やや密 ややハード	
	III c-3	10YR2/3	黒褐色	0.5 ~ 1.5 cm大玉砂利 少量	シルト やや粗 ややソフト	
	III c-4	10YR3/3	暗褐色	2 mm大玉砂利微量	シルト やや密 ややハード	

11J18 | 11J19
11J23 | 11J24

11J20
11J25

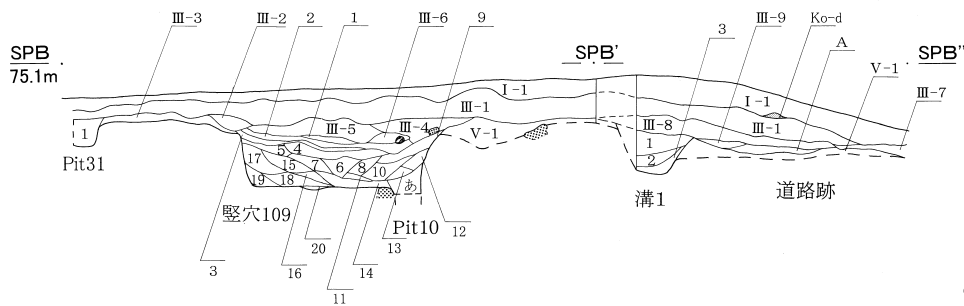
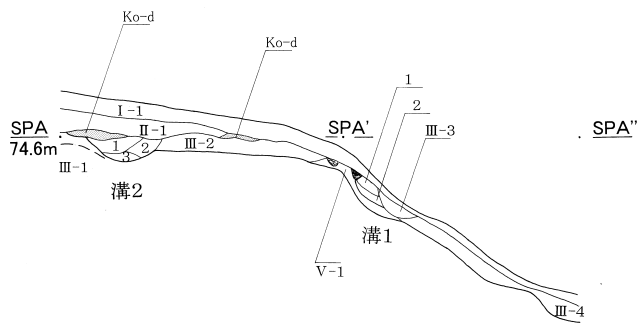


第19図-16



第20図-17

第20図-16



- Ko-d
- 焼土範囲
- 石
- 木の根
- 陶磁器
- 石器
- 不明溶解物
- 鉄
- 石
- 骨角器



第5図 トレンチ1 遺構平面図他

折込 第7図

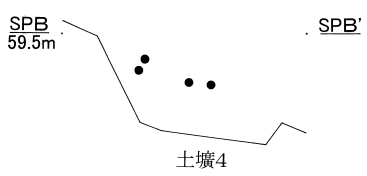
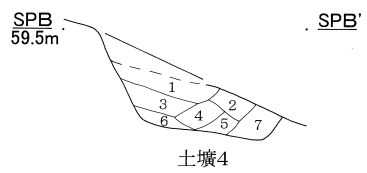
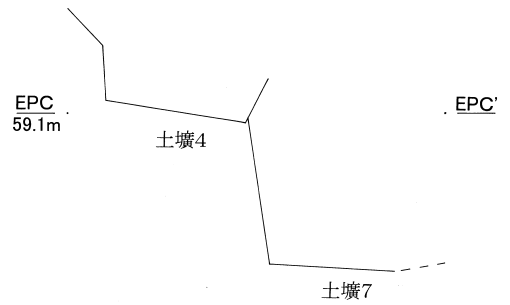
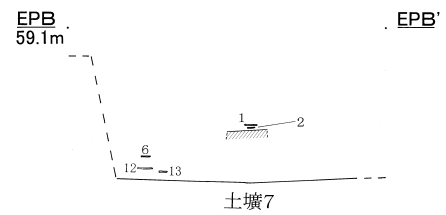
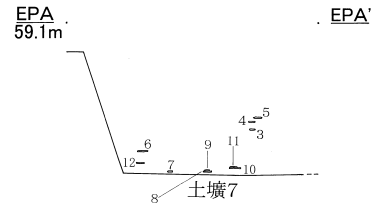
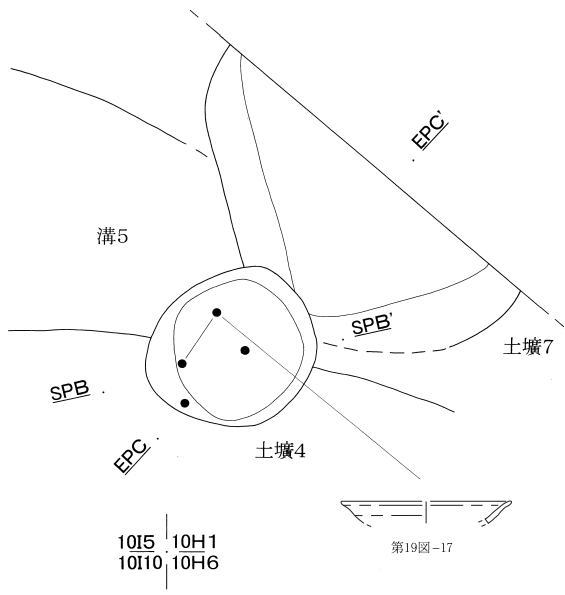
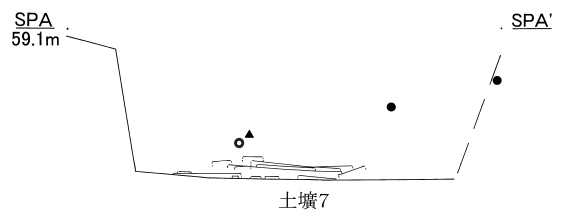
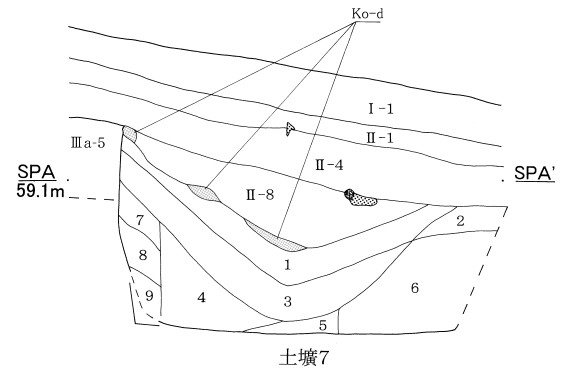
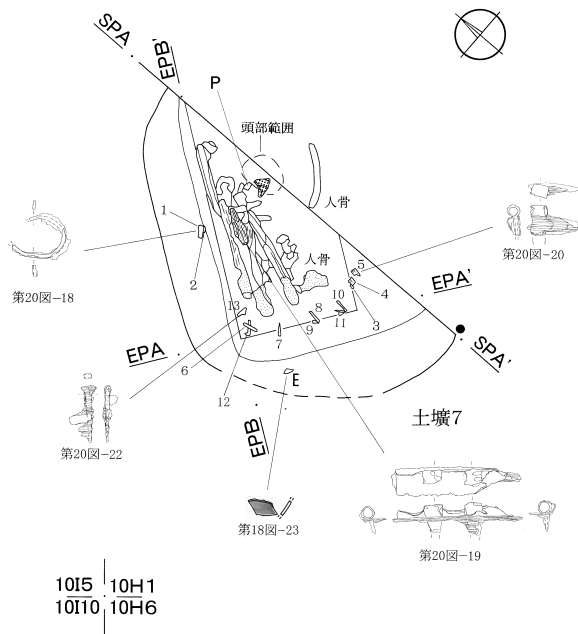
折込うら (白)

折込 第8図

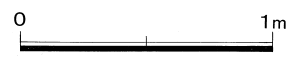
折込うら (白)

折込 第9図

折込うら (白)



- | | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |



第10図 トレンチ4 土壌4・7 遺構平面図他

	III c-5	10YR3/3	暗褐色	基盤礫多量	シルト	
	IV -1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	V a-1	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	
	VI -1	7.5YR3/4	暗褐色	基盤礫多量	粘質土 粗 ややハード	
	VI -2	7.5YR4/4	褐色	基盤礫多量	粘質土 粗 ソフト	
道路	1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利・基盤礫少量	粘質土 粗 ハード	
	2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利・基盤礫少量	粘質土 粗 ややソフト	

表16 トレンチ 8 東西セクション北壁土層観察表 (A~A'')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色	5mm大基盤礫	シルト 極粗 ソフト	草根多量
	I b-1	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 密 ソフト	草根少量
	II -1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
	II -2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	
	II a-1	7.5YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト やや密 ソフト	
	II b-1	7.5YR2/3	極暗褐色	玉砂利少量 Ko-d 極微量	粘質土 密 ややソフト	
	II b-2	7.5YR4/4	褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ややソフト	
	II b-3	10YR3/4	暗褐色	1cm大玉砂利少量	粘質土 やや密 ソフト	
	II b-4	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	II b-5	10YR3/4	暗褐色	2cm大玉砂利少量	シルト 粗 ソフト	
	V b-1	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	粘質土 やや粗 ハード	草根多量
	V b-2	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	V b-3	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ハード	
	V b-4	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	粘質土 粗 ややソフト	
溝17	1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色	基盤礫少量 玉砂利微量	粘質土 粗 ハード	
	3	10YR3/4	暗褐色	20cm大礫 1個	粘質土 やや粗 ややソフト	
	4	10YR4/4	褐色	2cm大玉砂利 1個	粘質土 粗 ややソフト	
	5	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	粘質土 やや粗 ややソフト	
	6	10YR4/4	褐色	2mm大玉砂利中量	粘質土 やや粗 ややソフト 粘質性強い	
	7	10YR3/4	暗褐色	下部砂質土若干混入	粘質土 やや粗 ハード	
	8	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	粘質土 粗 ソフト	
溝11	あ	10YR4/4	褐色	基盤礫粒 玉砂利少量	シルト 粗 ハード	
	い	10YR3/4	暗褐色	4~30cm大礫多量 玉砂利少量	シルト 極粗 ややソフト	
	う	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ハード	
	え	10YR3/4	暗褐色	玉砂利中量	粘質土 粗 ややハード	
	お	10YR3/3	暗褐色	1~3cm大玉砂利少量	シルト 粗 ハード	
	か	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利中量	砂質土 粗 ややソフト	
小P	あ	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
溝10	1	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト やや密 極ソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 極ソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ややハード	
	4	7.5YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	粘質土 やや密 ややソフト	

表17 トレンチ 9・10・荒神堂東西セクション北壁土層観察表 (B~B''')

	I a-1	10YR3/2・3/3	黒褐・暗褐色		シルト ややソフト	草根多量
	I b-1	10YR3/2・3/3	黒褐・暗褐色		シルト ややソフト	草根多量
	II -1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ソフト	
	II -2	10YR4/3	にぶい黄褐色	5cm大ロームブロック×1	シルト ややハード	
	II -3	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややハード	
	II -4	10YR4/3	にぶい黄褐色	2~3cm大玉砂利中量	シルト ハード	

	II -5	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト ややハード
	II -6	10YR6/6	明黄褐色	2~3cm大玉砂利微量		シルト ややハード
	II -7	10YR4/2	灰黄褐色			シルト ややハード
	II -8	10YR6/6	明黄褐色	2~3cm大玉砂利少量		シルト ややハード
	II -9	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト ソフト
	II -10	10YR4/3	にぶい黄褐色	2~3cm大玉砂利微量		シルト ソフト
	II -11	10YR2/3	黒褐色			シルト ややソフト
	II -12	10YR3/4	暗褐色			シルト ややソフト
	II -13	10YR3/3	暗褐色			シルト ややソフト
	II -14	10YR3/4	暗褐色			シルト ややソフト
	II -15	10YR2/2	黒褐色			シルト ソフト
	II -16	10YR3/3	暗褐色	5cm大礫中量		シルト ややハード
	II -17	10YR3/3	暗褐色			シルト ハード
	II -18	10YR3/3	暗褐色			シルト ややハード
	II -19	10YR3/4	暗褐色	0.5~1cm大玉砂利微量		シルト ややハード
	II -20	10YR3/3	暗褐色			シルト ややソフト
	II -21	10YR3/3	暗褐色			シルト ややハード
	II -22	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト ややソフト
	II -23	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト ややハード
	II -24	10YR3/4	暗褐色			シルト ハード
	II -25	10YR4/4	褐色	2~3cm大玉砂利少量		シルト ハード
	II -26	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量		シルト ハード
	II -27	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量		シルト ハード
	II -28	10YR4/4	褐色	2~3cm大玉砂利少量		シルト ややソフト 炭粒微量
	III -1	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト ややソフト
	III -2	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト ややソフト
	III -3	10YR3/2	黒褐色			シルト ややハード
	V a-1	10YR4/6	褐色	ソフトローム		ややソフト
	V b-1	10YR3/2・5/4	黒褐・にぶい黄褐色	ハードローム		ハード
	VI -1	2.5YR5/6	明赤褐色			粘土 ハード
小P	1	10YR3/4	暗褐色			シルト ややソフト
	2	10YR4/4	褐色			シルト ややソフト
溝2	1	10YR5/6	黄褐色	礫粒少量		粘質土 ややハード
	2	10YR4/4	褐色	礫粒少量		粘質土 ややソフト
	3	10YR4/4	褐色	0.5~1cm大玉砂利微量		シルト ややハード
	4	10YR4/4	褐色			シルト ややハード
土壌 8	1	10YR3/3	暗褐色	2~5cm大玉砂利多量		シルト ややハード
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色			シルト ややソフト
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	2~3cm大玉砂利多量		シルト ややソフト
溝18	1	10YR2/2	黒褐色			シルト ややソフト
	2	10YR2/2	黒褐色	2~3cm大礫少量		シルト ややソフト
	3	10YR2/2	黒褐色	5~6cm大礫少量		シルト ややソフト
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量		粘質土 ややハード
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色	5~10cm大礫少量		シルト ややハード
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量		シルト ややソフト
VI	10YR4/2	灰黄褐色	VI層ブロック少量			粘質 ハード
溝 8	1	10YR3/1	黒褐色			シルト ややハード
	2	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト
	3	10YR3/3	暗褐色			シルト ややソフト
	4	5YR6/4	にぶい橙色			粘土 ハード

表18 荒神堂南北セクション西壁土層観察表 (D~D''')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
	I b-1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利多量	シルト 極粗 ソフト	
	I b-2	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	II a-1	7.5YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ややソフト	
	II a-2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	粘質土 やや粗 ソフト	
	II a-3	10YR4/6	褐色	玉砂利少量	粘質土 やや粗 ハード	
	II a-4	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	シルト やや密 ややソフト	

折込 第11図

折込うら (白)

折込 第12図

折込うら (白)

折込 第13図

折込うら (白)

折込 第14図
表あり (データ : 第14図折込表)

折込うら (白)

	II a-5	10YR4/4	褐色		粘質土 やや粗ソフト	
	II b-1	7.5YR2/3	極暗褐色	玉砂利少量	粘質土 密 ややソフト	
	II b-2	10YR3/4	暗褐色		シルト ソフト	
	II b-3	10YR3/4	暗褐色	2～3 cm大玉砂利中量	シルト ややソフト	
	II b-4	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	II b-5	10YR3/4	暗褐色	2～3 cm大玉砂利少量	シルト ソフト	
	II b-6	10YR3/4	暗褐色		シルト ソフト	
	II b-7	10YR3/2	黒褐色	2～3 cm大玉砂利少量	シルト ややハード	
	II b-8	10YR4/4	褐色		粘質土 ややハード	
	III b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ソフト	炭粒微量
	III b-2	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	III b-3	10YR3/4	暗褐色	1 cm大玉砂利少量	粘質土 やや密ソフト	
	III b-4	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
焼土?	III c-1	7.5YR4/6	褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ソフト	
	IV a-1	10YR2/1	黒色		シルト ややハード	
	V a-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	右側に玉砂利多量混入	粗 ややソフト	
	V a-2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
	V a-3	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ソフト	
	V a-4	10YR4/4	褐色	玉砂利中量	粘質土 やや密 ややハード	
	V b-1	10YR5/4	にぶい黄褐色	玉砂利微量	粘質土 やや密 ハード	
溝10	1	10YR3/2	黒褐色		シルト ソフト	
	2	10YR4/6	褐色		シルト ややハード	
柵2	1	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ハード	炭粒微量
	2	10YR4/6	褐色	玉砂利・基盤礫少量	粘質土 やや粗 ややハード	
	3	10YR4/6	褐色	2～3 mm大玉砂利少量	粘質土 やや粗 ややソフト	
	4	10YR4/4	褐色	基盤礫中量	粘質土 やや粗 ややハード	
土壌8	1	10YR3/4	暗褐色	2～3 cm大玉砂利多量	シルト ややハード	
	2	10YR3/4	暗褐色	2～3 cm大玉砂利中量	シルト ややハード	
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色		粘質土 ハード	
	4	10YR3/4	暗褐色		シルト ややハード	
	5	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
小P	1	10YR4/4	褐色		密 ややハード	

表19 土壌2土層観察表

土壌2 槽内	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ko-d ブロック多量	シルト ややソフト	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	3	10YR4/4	褐色		シルト ややハード	
	4	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややハード	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややハード	
槽外	a	10YR3/3	暗褐色	礫粒微量	シルト ややソフト	
	b	10YR3/2	黒褐色	礫粒微量	シルト ややソフト	
	c	10YR2/2	黒褐色	礫粒微量	シルト ややソフト	
	d	10YR2/2	黒褐色	礫粒微量	シルト ソフト	

表20 土壌4土層観察表

土壌4	1	10YR2/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ソフト	炭粒少量
	2	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ソフト	炭粒少量
	3	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	4	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	シルト ソフト	炭粒少量
	5	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	6	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	7	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ソフト	炭粒少量

表21 土壌6土層観察表

土壌6	1	10YR2/2	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	2	10YR2/2	黒褐色	基盤礫粒微量	シルト ややソフト	
	3	10YR5/6	黄褐色		粘質土 ややハード	
	4	10YR2/2	黒褐色	6 cm大礫×1	シルト ソフト	
	5	10YR3/2	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト ややソフト	炭粒少量

表22 土壌9土層観察表

土壌9	1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	粘質土 やや粗 ややハード	
	2	10YR3/2	黒褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	3	10YR2/3	黒褐色		粘質土 やや密 ややハード	骨粉微量

	4	10YR5/6	黄褐色	玉砂利少量 荒砂多量	粘質土 やや密 ハード	
	5	10YR4/4	褐色	砂利・荒砂多量	粘質土 極粗 ややハード	
	6	10YR3/3	暗褐色		粘質土 粗 ややソフト	
	7	10YR5/4	にぶい黄褐色	玉砂利少量 砂利・荒砂中量	粘質土 粗 ハード	

表23 土壌12土層観察表

	III -1	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	V a-1	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	
土壌12	1	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 粗 ややソフト	5 mm大炭粒微量
	2	10YR1.7/1	黒色		粘質土 やや粗 ややハード	炭粒微量
	3	10YR2/2	黒褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	4	10YR3/4	暗褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	5	10YR1.7/1	黒色	下部基盤礫少量層状堆積	粘質土 やや密 ややソフト	
	6	10YR3/3	暗褐色		粘質土 粗 ややソフト	炭粒微量
	7	7.5YR3/4	暗褐色	5 cm大基盤礫微量	粘質土 粗 ややソフト	
	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	2 cm大基盤礫	粘質土 やや粗 ハード	
	9	7.5YR4/4	褐色	玉砂利微量 基盤礫多量	粘質土 密 ハード	

表24 土壌13土層観察表

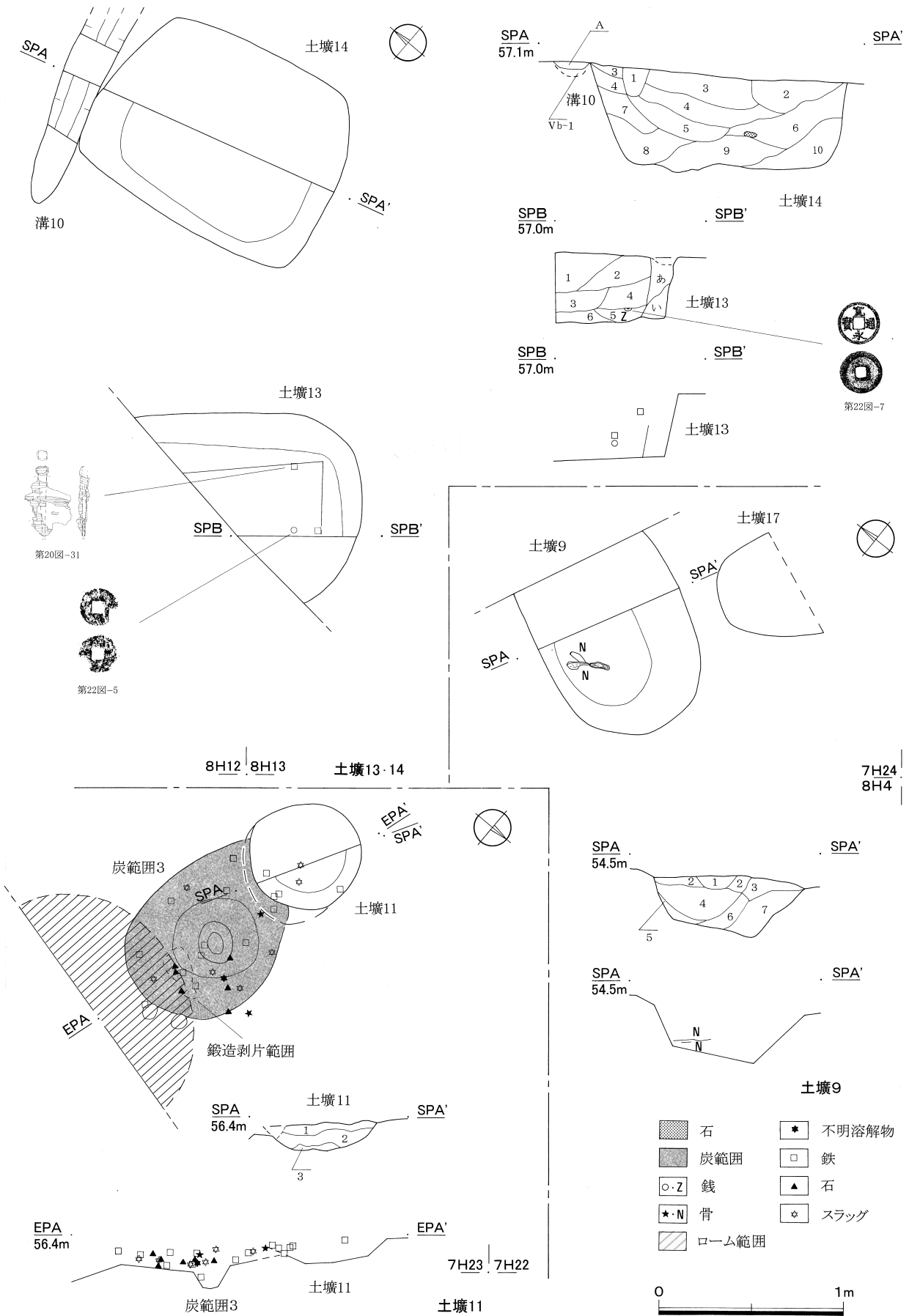
土壌13 槽内	1	10YR4/4	褐色	5 cm大礫 2個 玉砂利少量	シルト やや粗 ややハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	5 cm大礫 2個 玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	
	3	10Y R 4/4	褐色	10 cm大礫 1個 玉砂利微量	シルト 粗 ややソフト	
	4	10YR4/4	褐色	基盤礫 玉砂利微量	シルト 粗 ややソフト	
	5	10YR5/4	にぶい黄褐色	上部5～10 cm大基盤礫 2個	シルト 極粗 ややソフト	
	6	10YR4/4	褐色	5 mm大基盤礫・玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	
槽外	あ	10YR3/4	暗褐色	3 cm大基盤礫・玉砂利 1個	シルト 粗 ややソフト	
	い	10YR4/4	褐色		シルト 粗 ソフト	

表25 土壌14土層観察表

	V b-1	10YR4/4	褐色	1～1.5 cm大玉砂利少量	シルト やや粗 ややハード	
溝10	A	10YR2/3	黒褐色	基盤礫微量	シルト 粗 ややソフト	
土壌14	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫 玉砂利少量	シルト 粗 ややハード	
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややハード	
	3	10YR4/4	褐色	5 mm大玉砂利微量	シルト 粗 ソフト	
	4	10YR3/4	暗褐色	0.5～1 cm大玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	5	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	粘質土 粗 ややソフト	
	6	10YR4/4	褐色	5 cm大玉石 1個 1～2 cm大玉砂利少量	粘質土 粗 ややハード	
	7	10YR4/4	褐色	0.5～1 cm大玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	2～3 cm大玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	9	10YR4/4	褐色	基盤礫少量 玉砂利微量	粘質土 粗 ハード	
	10	10YR3/3	暗褐色	基盤礫中量	粘質土 粗 ソフト	

表26 土壌15土層観察表

	V a-1	10YR4/4	褐色	ソフトローム	ややハード	
土壌15	1	10YR2/2	黒褐色	Ko-d ブロック中量	シルト ややハード	
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	3	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	4	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	5	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	



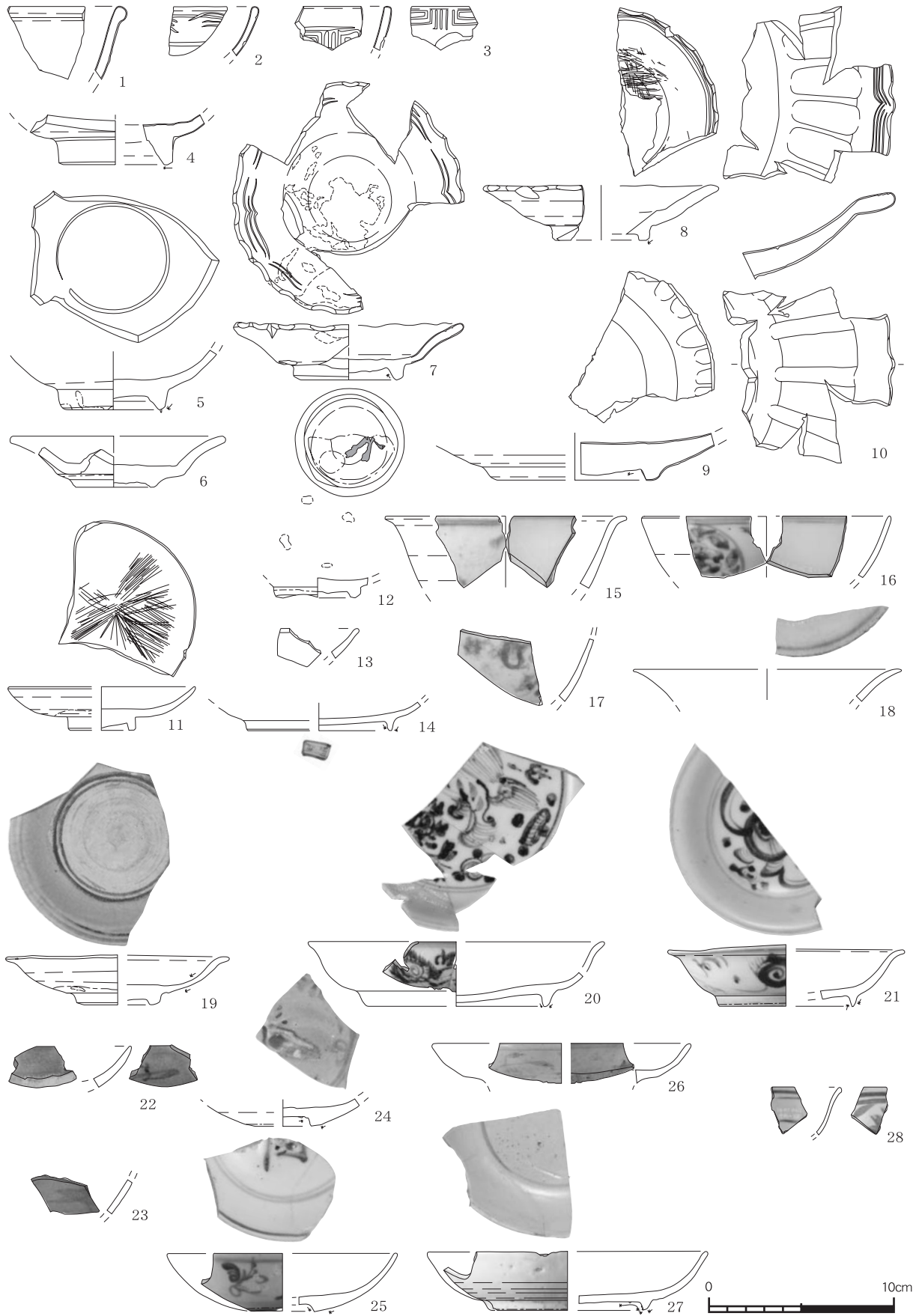
第15図 土壌9・11・13・14・17 溝10 炭範囲3 遺構平面図他



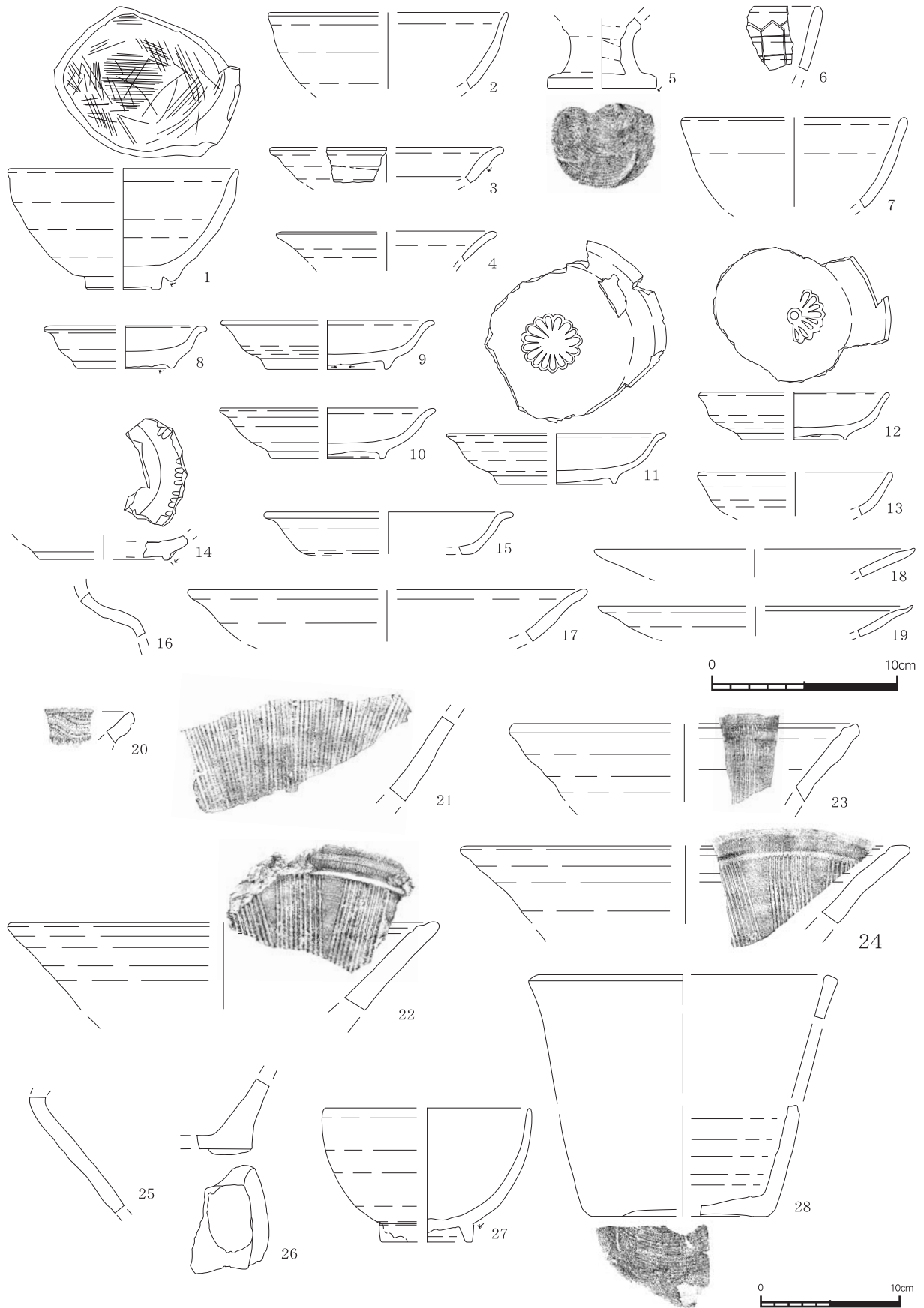
第16図 荒神堂跡(表土除去後) 礎分布状況



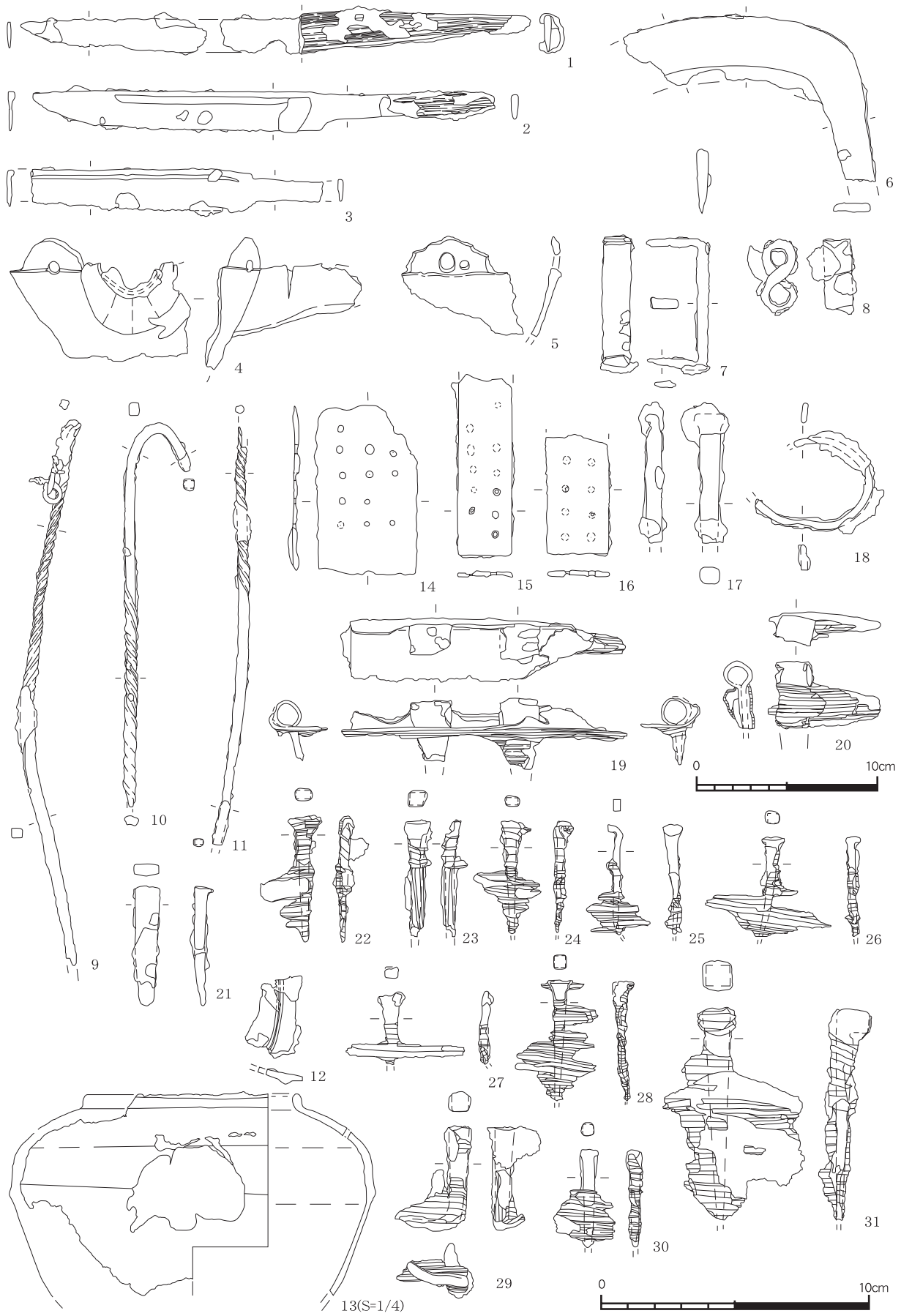
第17図 荒神堂跡 遺構平面図他



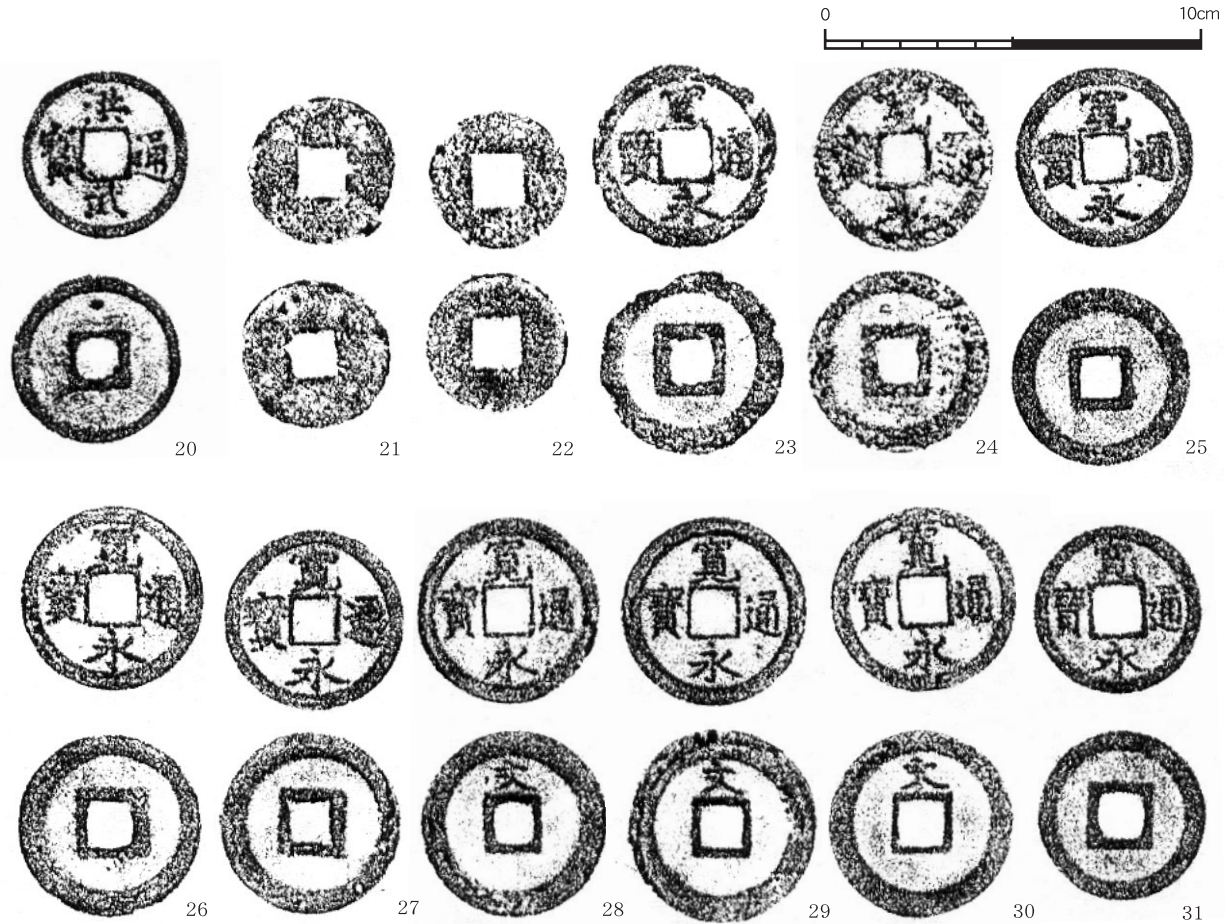
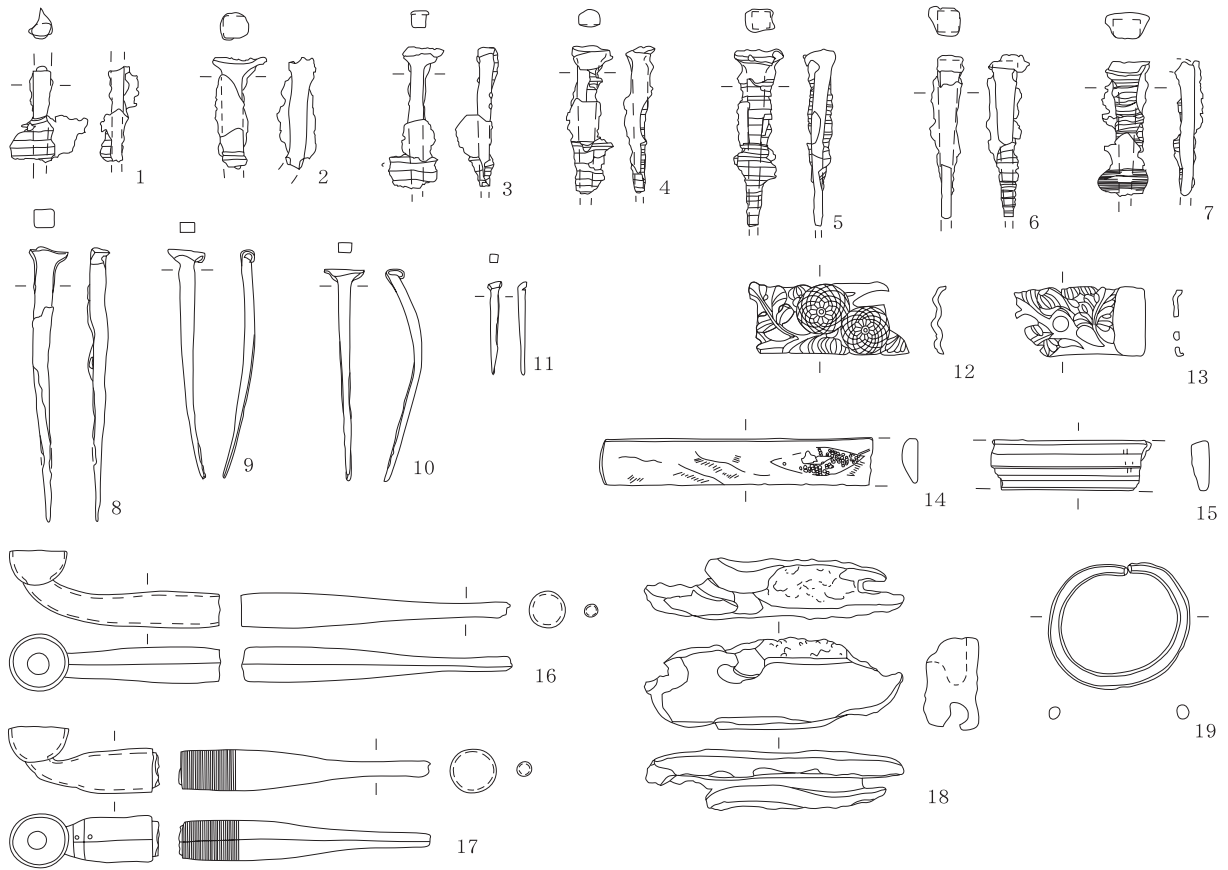
第18図 出土遺物 (青磁、白磁、染付、赤絵)



第19図 出土遺物 (瀬戸・美濃、鉄釉、灰釉、志野、唐津、かわらけ、珠洲、越前、近世陶器)

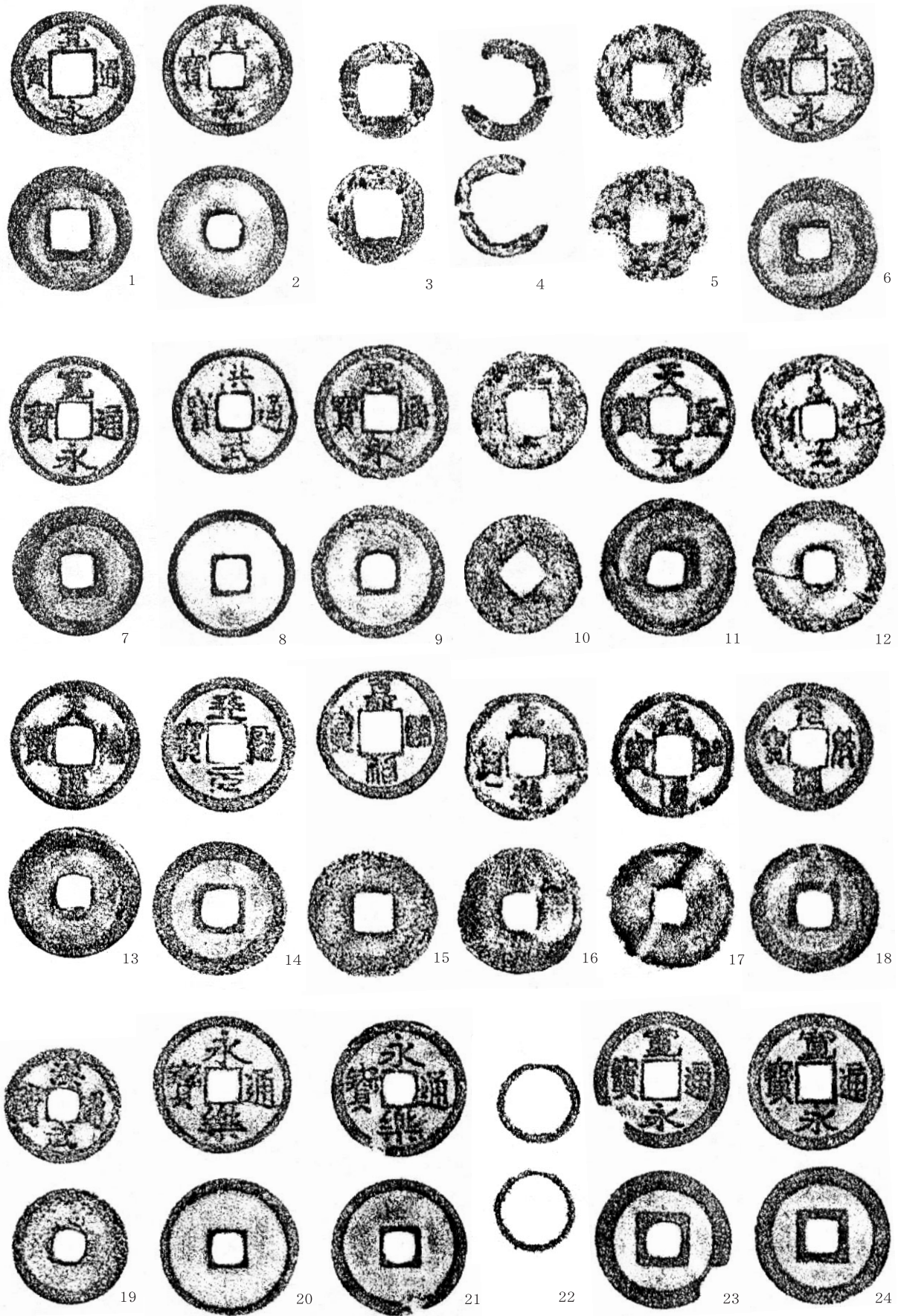


第20図 出土遺物 (鉄製品)



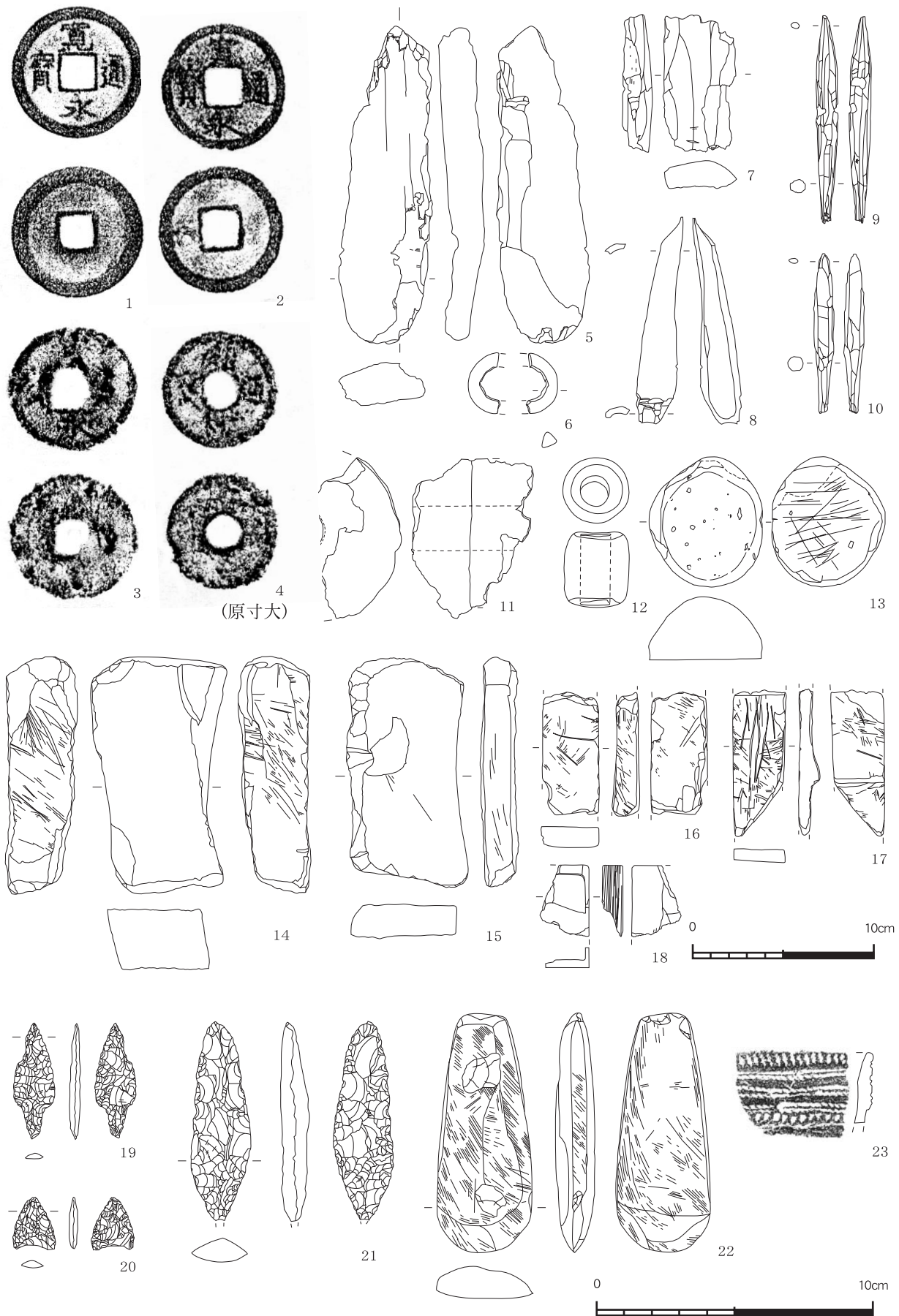
第21図 出土遺物 (鉄製品、銅製品、錢貨)

(原寸大)



(原寸大)

第22圖 出土遺物 (錢貨)



第23図 出土遺物 (錢貨、骨角器、土製品、石製品、縄文土器・石器)

表33 勝山館跡 出土遺物観察表

図版No.	PL No.	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理 No.
18 図-1	PL18-1	9H12		Ⅲ	青磁	碗	直口碗 口縁部玉縁 龍泉窯系 D2 類 2次被熱	08K39H12 Ⅲ E-29
18 図-2	PL18-2	10I23		表採	青磁	碗	直口碗 龍泉窯系 C2 類 外面-口縁部略雷文帯	08K310I23 表採 E-2
18 図-3	PL18-3	8H21	溝7	覆土	青磁	碗	直口碗 龍泉窯系 F類 外面-口縁部雷文帯 内面-胴部雷文帯	08K38H21 溝7 E-1
18 図-4	PL18-4	11I9	空壕C	覆土	青磁	碗	類不明 底径 5.6 cm	08K311I9 空壕 CE-77
18 図-5	PL18-5			表採	青磁	碗	類不明 見込圏線一条 底径 4.8 cm	08K3 トレンチ4 表採 E-153
18 図-6	PL18-6	9H12	土壇10	覆土	青磁	皿	腰折皿 口径 11.2 × 器高 2.7 × 底径 4.1 cm	接合No. 3692
18 図-7	PL18-7	8H17・22		Ⅲ	青磁	皿	稜花皿 内面-口縁部劃花文 高台裏墨書? 口径 11.8 × 器高 2.9 ~ 3.05 × 底径 5.1 cm	接合No. 3645
18 図-8	PL18-8	9H12		I	青磁	皿	稜花皿 見込擦痕有り 口径 11.8 × 器高 2.95 × 底径 4.7 cm	08K39H12 I E-6
18 図-9	PL18-9	10I12	溝6	覆土	青磁	盤	内面-胴部ソギ 底径 8.2 cm	08K310I12 溝6 E-14
18 図-10	PL18-10	8H22		表採	青磁	盤	稜花盤 外面-胴部ソギ 内面-口縁部劃花文、胴部ソギ	接合No. 1180
18 図-11	PL18-12	11I9	空壕C	覆土	白磁	皿	丸皿 D群 見込擦痕有り 平高台 口径 9.9 × 器高 2.3 × 底径 3.6 cm	08K311I9 空壕 CE-98
18 図-12	PL18-11	9I15	溝3	覆土	白磁	皿	丸皿 D群 切高台	08K39I15 溝3 E-3
18 図-13	PL18-14	11I4		Ⅱ	白磁	皿	丸皿 E群 口縁部鉄釉 貫入多数	08K311I4 Ⅱ E-1
18 図-14		11I9	空壕C	覆土	白磁	皿	端反皿 E群 高台裏福 底径 7.6 cm	08K311I9 空壕 CE-84
	PL18-13	9H12		Ⅲ	白磁	皿	端反皿 E群 口径 11.8 × 器高 2.7 × 底径 6.4 cm 高台裏「福」? 砂付着	08K39H12 Ⅲ E-28
18 図-15				表採	染付	碗	端反碗 B群 外面-口縁部圏線2条、胴部○文 内面-口縁部圏線2条 口径 12.7 cm	08K3 トレンチ1 表採 E-57
18 図-16		10H6		Ⅲ	染付	碗	E群? 外面-口縁部圏線2条、胴部草花文 内面-口縁部圏線2条 口径 13.0 cm	08K310H6 Ⅲ E-5
18 図-17		9H11		Ⅲ	染付	碗	C・E群? 外面-胴部アラバスク	08K39H11 Ⅲ E-5
18 図-18	PL18-16	9H12		Ⅲ	青磁染付	皿	反皿 内面-口縁部圏線1条 口径 14.0 cm	08K39H12 Ⅲ E-22
18 図-19	PL18-15	11I9	空壕C	覆土	染付	皿	端反皿群不明 外面-腰部以下露胎、内面-口縁部圏線2条、 見込露胎圏線2条 口径 11.7 × 器高 2.5 ~ 2.65 × 底径 3.4 cm	08K311I9 空壕 CE-2
18 図-20		11I3		Ⅲ	染付	皿	B1群 外面-口縁部圏線2条、胴部牡丹唐草、腰部圏線2条 内面-口縁部圏線2条、見込玉取獅子 口径 15.6 × 器高 3.45 × 底径 9.4 cm	接合No. 2679
18 図-21		11I3	空壕C	覆土	染付	皿	B1群 外面-口縁部圏線1条、胴部牡丹唐草、腰部圏線2条 内面-口縁部圏線1条、見込玉取獅子 口径 12.5 ~ 13.0 × 器高 3.05 × 底径 7.1 cm	08K311I3 空壕 CE-4
18 図-22		10H6	土壇2	覆土	染付	皿	C群 外面-圏線1条、胴部梵字? 内面-圏線1条、見込圏線1条	08K310H6 土壇2 E-1
18 図-23		10H1	土壇7	覆土	染付	皿	C群 外面-胴部○文	08K310H1 土壇7 E-4
18 図-24		11J9		Ⅲ	染付	皿	C群 見込魚藻文、高台基筒底 底径 3.0 cm	08K311J9 Ⅲ E-4
18 図-25				表採	染付	皿	C群 外面-口縁部圏線1条、胴部○文、腰部圏線2条 内面- 口縁部圏線1条、見込「寿」、高台基筒底 口径 12.0 × 器高 3.1 × 底径 3.4 cm	08K3 表採 E-26
18 図-26		9H22		表採	染付	皿	E群 外面-口縁部圏線1条、胴部草花文 内面-口縁部圏線 1条、胴部草花文 口径 13.5 cm	08K39H22 表採 E-84
18 図-27		11J23		I	染付	皿	E群 外面-口縁部圏線1条 内面-口縁部圏線1条、見込 圏線1条 口径 14.8 × 器高 3.15 × 底径 8.0 cm	08K311J23 I E-4
18 図-28		9H22		表採	赤絵	碗	端反碗 外面-口縁部圏線2条、胴部牡丹唐草 内面-口縁 部圏線2条、胴部牡丹唐草	08K39H22 表採 E-83
	PL18-17	11I2		Ⅲ	朝鮮	壺	外面砂粒付着	08K311I2 Ⅲ E-1
19 図-1	PL18-19	9H7		Ⅲ	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯第1段階 口径12.0 × 器高6.4 × 底径3.6 cm	08K39H7 Ⅲ E-12
19 図-2	PL18-20	9H12		Ⅲ	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯第1段階 口径 12.5 cm	08K39H12 Ⅲ E-21
19 図-3	PL18-21	7H22		Ⅲ	鉄釉	皿	腰折皿 後IV新段階 口径 12.1 cm	08K37H22 Ⅲ E-1
19 図-4	PL18-22	10J25		Ⅲ	鉄釉	皿	反皿 大窯第1 ~ 2段階 口径 11.2 cm	08K310J25 Ⅲ E-1
19 図-5	PL18-23	9H12		Ⅲ	灰釉	瓶	仏花瓶 古瀬戸後期 2次被熱 底径 5.7 cm	08K39H12 Ⅲ E-31
19 図-6	PL18-24	9H13		Ⅲ	灰釉	碗	丸碗A 大窯第1段階前半 外面-胴部剣先蓮弁文	08K39H13 Ⅲ E-6
19 図-7	PL18-25	7H23		Ⅲ	灰釉	碗	丸碗A 大窯第1段階 口径 11.6 cm	接合No. 3674
19 図-8	PL18-27	11I3	溝4	覆土	灰釉	皿	端反皿 大窯第1段階 口径8.1 × 器高2.25 × 底径5.0 cm	接合No. 3666
19 図-9	PL18-29	8H22		Ⅲ	灰釉	皿	端反皿 大窯第1段階 口径11.1 × 器高2.6 × 底径6.3 cm	08K38H22 Ⅲ E-31
19 図-10	PL18-28	9H12		Ⅲ	灰釉	皿	端反皿 大窯第1段階 口径10.9 × 器高2.7 × 底径6.0 cm	接合No. 3661
19 図-11	PL18-26	9I24	溝3	覆土	灰釉	皿	端反皿 大窯第1段階 見込菊花 口径 11.4 × 器高 2.7 × 底径 6.3 cm	接合No. 3660
19 図-12	PL18-30	11J5	空壕C	覆土	灰釉	皿	端反皿 大窯第1段階 見込菊花、高台裏輪ドチ 口径 10.0 × 器高 2.5 × 底径 5.5 cm	接合No. 3662
19 図-13	PL18-31	11I9	空壕C	覆土	灰釉	皿	丸皿 大窯第2段階 口径 10.2 cm	08K311I9 空壕 CE-51
19 図-14	PL18-32	7H18		Ⅲ	灰釉	皿	折縁皿 大窯第4段階前半 内面-胴部ソギ 底径6.7 cm	接合No. 3672
19 図-15	PL18-33	10J24 10J21		I・Ⅲ	志野	皿	端反皿 大窯第4段階後半 口径 13.0 cm	接合No. 3667
19 図-16	PL18-18	11J24		Ⅲ	唐津	瓶	2次被熱	接合No. 3700
19 図-17	PL18-34	10H1	土壇4	覆土	唐津	皿	反皿 第1段階 口径 21.0 cm	接合No. 3669
19 図-18	PL19-11	9H2		Ⅲ	かわらけ	皿	てづくね成形 口径 17.0 cm	08K39H2 Ⅲかわらけ-2
19 図-19	PL19-10	9H12		Ⅲ	かわらけ	皿	てづくね成形 口径 16.8 cm	08K39H12 Ⅲかわらけ-2
19 図-20	PL19-1	8H22		Ⅲ	珠洲	播鉢	Ⅵ期 内面-口縁部櫛目波状文	08K38H22 Ⅲ E-9
19 図-21	PL19-2	9H12		Ⅲ	珠洲	播鉢	V~Ⅵ期 内面-胴部全面に卸目	08K39H12 Ⅲ E-39
19 図-22	PL19-5	10H6		I	越前	播鉢	Ⅳ群 a 卸目 10条 口径 30.0 cm	08K310H6 I E-4
19 図-23	PL19-3	10J25		I	越前	播鉢	Ⅳ群 a 口径 24.3 cm	08K310J25 I E-2
19 図-24	PL19-4	9H12		Ⅲ	越前	播鉢	Ⅳ群 b 卸目 10条 口径 30.8 cm	08K39H12 Ⅲ E-40
19 図-25	PL19-6	11I9	空壕C	覆土	越前	甕	大甕	接合No. 1435
19 図-26	PL19-7			表採	越前	甕	大甕 底部胎土目	08K3 トレンチ表採 E-27

図版No.	PL No.	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理 No.
19 図-27	PL19-8	8H2	欄2	覆土	肥前系陶器	碗	Ⅲ期 口径10.8×器高7.1×底径4.8 cm	接合No.3690
19 図-28	PL19-9	11I2・3	溝4	覆土・I	不明陶器	鉢	口径20.6×器高17.0×底径12.0 cm	接合No.3681・3682
20 図-1	PL19-12	11I4	空壕C	覆土	鉄製品	刀子	長さ(26.43)×幅1.74×厚さ0.37 cm 重量37.9 g	08K31114 空壕CM-21・22
20 図-2	PL19-13	10I12	溝6	炭化物範囲	鉄製品	刀子	長さ24.5×幅2.1×厚さ0.25 cm 重量40.5 g	08K310112 溝6 炭化物範囲 M-21
20 図-3	PL19-14	8H8		Ⅱ	鉄製品	刀子	長さ(15.65)×幅2.2×厚さ0.26 cm 重量25.2 g	08K38H8 Ⅱ M-1～3
20 図-4	PL19-15	9H2		Ⅲ	鉄製品	鉄鍋	片口・吊耳 長さ5.34×幅9.1×厚さ0.31 cm 重量93.1 g	08K39H2 Ⅲ M-5
20 図-5	PL19-16	11I4	空壕C	覆土	鉄製品	鉄鍋	吊耳 長さ3.91×幅5.72×厚さ0.46 cm 重量44.6 g	08K31114 空壕CM-23
20 図-6	PL19-17	11I2	溝3	覆土	鉄製品	鎌	長さ12.6×幅1.98×厚さ0.66 cm 重量92.7 g	08K31112 溝3M-6
20 図-7	PL19-27	9H12		Ⅲ	鉄製品	鏝	長さ7.0×幅1.52×厚さ0.65 cm 重量41.4 g	08K39H12 Ⅲ M-9
20 図-8	PL19-28	7H23		Ⅲ	鉄製品	不明	長さ3.71×幅2.02×厚さ1.44 cm 重量25.6 g	08K37H23 Ⅲ M-4
20 図-9	PL19-20	11I3	空壕C	覆土	鉄製品	火箸	長さ29.4×幅0.62×厚さ0.6 cm 重量41.7 g	08K31113 空壕CM-4
20 図-10	PL19-21	11I4	空壕C	覆土	鉄製品	火箸	長さ23.5×幅0.67×厚さ0.58 cm 重量41.6 g	08K31114 空壕CM-11
20 図-11	PL19-22	11I3	空壕C	覆土	鉄製品	火箸	長さ22.65×幅0.62×厚さ0.6 cm 重量30.6 g	08K31113 空壕CM-5
20 図-12	PL19-18	11I3	空壕C	覆土	鉄製品	茶釜蓋	口径15.3 cm 重量35.9 g	08K31113 空壕CM-7
20 図-13	PL19-19	11I3	空壕C	覆土	鉄製品	茶釜	口径15.3×胴部径18.7 cm 重量381.3 g	08K31113 空壕CM-1
20 図-14	PL19-23	8H23		Ⅲ	鉄製品	小札	長さ6.04×幅3.56×厚さ0.22 cm 重量14.6 g	08K38H23 Ⅲ M-1
20 図-15	PL19-25	11I4	空壕C	覆土	鉄製品	小札	長さ6.59×幅2.01×厚さ0.32 cm 重量8.7 g	08K31114 空壕CM-14
20 図-16	PL19-24	12J3	堅穴109	覆土	鉄製品	小札	長さ4.3×幅2.34×厚さ0.27 cm 重量7.2 g	08K312J3 堅穴109M-4
20 図-17	PL19-26	12J4	堅穴109	覆土	鉄製品	和釘	長さ5.06×幅0.84×厚さ0.67 cm 重量7.7 g	08K312J4 堅穴109M-1
20 図-18	PL19-29	10H1	土壇7	覆土	鉄製品	縮金具	棺材付着 長さ3.28×幅1.02×厚さ0.23 cm 重量8.9 g	08K310H1 土壇7M-1・2
20 図-19	PL19-20	10H1	土壇7	覆土	鉄製品	蝶番?	棺材付着 長さ12.4×幅2.2×厚さ(0.36～2.52) cm 重量10.6 g	08K310H1 土壇7W-1
20 図-20	PL19-31	10H1	土壇7	覆土	鉄製品	蝶番?	棺材付着 長さ4.02×幅2.45×厚さ0.94 cm 重量4.2 g	08K310H1 土壇7M-5
20 図-21	PL19-32	9H13		Ⅲ	鉄製品	和釘	平釘 長さ6.44×幅1.25×厚さ0.64 cm 重量20.9 g	08K39H13 Ⅲ M-6
20 図-22	PL19-33	10H1	土壇7	覆土	鉄製品	和釘	長さ4.52×幅0.72×厚さ0.47 cm 重量2.6 g	08K310H1 土壇7M-13
20 図-23	PL19-34	11I4	土壇3	棺内覆土	鉄製品	和釘	長さ4.16×幅0.58×厚さ0.48 cm 重量3.2 g	08K31114 土壇3M-32
20 図-24	PL19-35	11I4	土壇3	棺内覆土	鉄製品	和釘	長さ4.08×幅0.49×厚さ0.4 cm 重量2.3 g	08K31114 土壇3M-34
20 図-25	PL19-36	11I4	土壇3	棺内覆土	鉄製品	和釘	長さ3.96×幅0.44×厚さ0.32 cm 重量1.8 g	08K31114 土壇3M-33
20 図-26	PL19-37	11I4	土壇3	棺内覆土	鉄製品	和釘	長さ3.62×幅0.52×厚さ0.43 cm 重量2.3 g	08K31114 土壇3M-40
20 図-27	PL19-38	11I4	土壇3	棺内覆土	鉄製品	和釘	長さ2.46×幅0.54×厚さ0.32 cm 重量1.5 g	08K31114 土壇3M-37
20 図-28	PL19-39	11I4	土壇3	棺内覆土	鉄製品	和釘	長さ4.28×幅0.53×厚さ0.42 cm 重量2.0 g	08K31114 土壇3M-46
20 図-29	PL19-40	10H6	土壇2	覆土	鉄製品	和釘	長さ3.79×幅0.92×厚さ0.79 cm 重量6.7 g	08K310H6 土壇2M-3
20 図-30	PL19-41	10H6	土壇2	覆土	鉄製品	和釘	長さ3.5×幅0.57×厚さ0.52 cm 重量2.1 g	08K310H6 土壇2M-2
20 図-31	PL19-42	8H13	土壇13	覆土	鉄製品	和釘	棺材付着 長さ7.57×幅(1.03)×厚さ(1.18) cm 重量20.9 g	08K38H13 土壇13M-2
21 図-1	PL19-43	7H22	Pit12	柱痕	鉄製品	和釘	長さ2.52×幅0.6×厚さ0.81 cm 重量1.4 g	08K37H22Pit12M-1
21 図-2	PL19-44	7H22	Pit12	柱痕	鉄製品	和釘	長さ2.81×幅0.77×厚さ0.63 cm 重量2.0 g	08K37H22Pit12M-10
21 図-3	PL19-45	7H22	Pit12	柱痕	鉄製品	和釘	長さ3.72×幅0.44×厚さ0.48 cm 重量2.1 g	08K37H22Pit12M-11
21 図-4	PL19-46	7H22	Pit12	柱痕	鉄製品	和釘	長さ3.83×幅0.56×厚さ0.49 cm 重量2.1 g	08K37H22Pit12M-12
21 図-5	PL19-17	7H22	Pit12	柱痕	鉄製品	和釘	長さ4.62×幅0.83×厚さ0.62 cm 重量2.5 g	08K37H22Pit12M-2
21 図-6	PL19-48	7H21	Pit13	掘方	鉄製品	和釘	長さ3.01×幅0.7×厚さ0.73 cm 重量2.5 g	08K37H21Pit13M-1
21 図-7	PL19-49	7H21	Pit13	掘方	鉄製品	和釘	長さ3.01×幅1.06×厚さ0.65 cm 重量2.5 g	08K37H21Pit13M-2
21 図-8	PL19-50	10I12	溝6	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.24×幅0.54×厚さ0.51 cm 重量5.5 g 2次被熱	08K310112 溝6M-2
21 図-9	PL19-51	10I12	溝6	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.04×幅0.41×厚さ0.31 cm 重量3.0 g 2次被熱	08K310112 溝6M-6
21 図-10	PL19-52	10I12	溝6	覆土	鉄製品	和釘	長さ5.64×幅0.39×厚さ0.31 cm 重量2.9 g 2次被熱	08K310112 溝6M-5
21 図-11	PL19-53	10I12	溝6	覆土	鉄製品	和釘	長さ2.47×幅0.22×厚さ0.2 cm 重量0.5 g 2次被熱	08K310112 溝6M-9
21 図-12	PL20-4	11I4	空壕C	覆土	銅製品	八双金具	唐草文 21 図-13 と同一個体? 長さ(4.2)×幅1.85×厚さ(0.2) cm 重量5.1 g	08K31114 空壕CCu-2
21 図-13	PL20-5	11I4	土壇16	覆土	銅製品	八双金具	唐草文 21 図-12 と同一個体? 長さ(3.5)×幅1.85×厚さ(0.2) cm 重量4.4 g	08K31114 土壇16Cu-1
21 図-14	PL20-3	8H22		Ⅲ	銅製品	小柄	長さ7.2×幅1.2×厚さ0.4 cm 重量7.9 g	08K38H22 Ⅲ Cu-1
21 図-15	PL20-2	11I4	空壕C	覆土	銅製品	小柄	長さ4.2×幅1.3×厚さ0.45 cm 重量5.4 g	08K31114 空壕CCu-1
21 図-16	PL20-6	8I8	溝8	覆土	銅製品	煙管	煙出-長さ5.5×煙出し径1.35×径0.9 cm 重量7.5 g 吸口-長さ7.2×径(0.35～0.95) cm 重量5.0 g	08K38I8 溝8Cu-3 08K38I8 溝8Cu-2
21 図-17	PL20-7	8I8	溝8	覆土	銅製品	煙管	煙出-長さ3.8×煙出し径1.6×径1.2 cm 重量6.1 g 吸口-長さ6.6×径(0.4～1.1) cm 重量5.3 g	08K3 トレンチ9 表採 Cu-1 08K38I8 溝8Cu-1
21 図-18	PL20-8	11J5	空壕C	覆土	銅製品	不明	鉄錆付着 長さ6.7×幅2.4×厚さ1.3 cm 重量68.1 g	08K311J5 空壕CCu-3
21 図-19	PL20-1	9H1		Ⅲ	銅製品	鏢	長さ3.7×幅0.4×厚さ0.3 cm 重量7.6 g	08K39H1 Ⅲ Cu-1
21 図-20	PL20-9	11I4	空壕C	覆土	銅製品	銭	洪武通寶(背星) 銭径22.6(22.6)×内径19.1(19.0) mm 量目2.8 g	08K31114 空壕CZ-4
21 図-21	PL20-10	11I4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径20.0(20.1) mm 量目1.2 g	08K31114 空壕CZ-15
21 図-22	PL20-11	11I4	空壕C	覆土	銅製品	銭	無文銭 銭径18.8(19.0) mm 量目0.7 g	08K31114 空壕CZ-10
21 図-23	PL20-12	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径25.1(25.4)×内径19.6(19.5) mm 量目2.4 g	08K31119 土壇5Z-11
21 図-24	PL20-13	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径24.9(24.9)×内径19.7(20.2) mm 量目3.6 g	08K31119 土壇5Z-12
21 図-25	PL20-14	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径24.3(24.4)×内径19.8(19.8) mm 量目3.9 g	08K31119 土壇5Z-5
21 図-26	PL20-15	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径25.0(24.8)×内径19.9(20.1) mm 量目4.0 g	08K31119 土壇5Z-6
21 図-27	PL20-16	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径24.6(24.6)×内径19.9(19.8) mm 量目4.2 g	08K31119 土壇5Z-8
21 図-28	PL20-17	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶2期 銭径25.4(25.3)×内径20.2(20.2) mm 量目4.0 g	08K31119 土壇5Z-7
21 図-29	PL20-18	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶2期 銭径25.6(25.6)×内径20.0(19.9) mm 量目3.9 g	08K31119 土壇5Z-9
21 図-30	PL20-19	11I9	土壇5	覆土	銅製品	銭	寛永通寶2期 銭径25.2(25.1)×内径20.3(20.2) mm 量目2.9 g	08K31119 土壇5Z-10
21 図-31	PL20-20	8H2	土壇8	覆土	銅製品	銭	寛永通寶3期 銭径22.9(23.0)×内径18.4(18.6) mm 量目2.7 g	08K31119 土壇8Z-2
22 図-1	PL20-21	8H2	土壇8	覆土	銅製品	銭	寛永通寶3期 銭径22.5(22.7)×内径18.2(18.0) mm 量目1.9 g	08K31119 土壇8Z-3
22 図-2	PL20-22	8H2	土壇8	覆土	銅製品	銭	寛永通寶3期 銭径24.1(24.1)×内径19.3(19.1) mm 量目2.6 g	08K31119 土壇8Z-5

図版No.	PL No.	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理 No.
22 図-3	PL20-23	9H13	土壇 10	覆土	銅製品	銭	無文銭 錢径 17.5(18.0)mm 量目 0.5 g	08K39H13 土壇 10Z-4
22 図-4	PL20-24	9H13	土壇 10	覆土	銅製品	銭	輪銭 錢径 19.6mm 量目 0.3 g	08K39H13 土壇 10Z-2
22 図-5	PL20-25	9H13	土壇 10	覆土	銅製品	銭	判読不明 錢径 24.2(24.1)×内径 19.4(19.4)mm 量目 3.4 g	08K39H13 土壇 10Z-1
22 図-6	PL20-26	8H13	土壇 13	覆土	銅製品	銭	寛永通寶 1期 錢径 21.0(21.3)mm 量目 1.5 g	08K38H13 土壇 13Z-1
22 図-7	PL20-27	8H13	土壇 13	覆土	銅製品	銭	寛永通寶 1期 錢径 23.7(23.5)×内径 19.7(19.6)mm 量目 2.5 g	08K38H13 土壇 13Z-2
22 図-8	PL20-28	8H22	土壇 15	覆土	銅製品	銭	洪武通寶 錢径 23.1(23.2)×内径 19.6(19.7)mm 量目 3.2 g	08K38H22 土壇 15Z-1
22 図-9	PL20-29	9I15	溝 3	覆土	銅製品	銭	寛永通寶 3期 錢径 24.8(24.7)×内径 19.6(19.6)mm 量目 2.8 g	08K39I15 溝 3Z-1
22 図-10	PL20-30	10I12	溝 6	覆土	銅製品	銭	判読不明 3枚重ね 錢径 21.5(21.6)mm 量目 5.0 g	08K310I12 溝 6Z-1
22 図-11	PL20-31	8I8	溝 8	覆土	銅製品	銭	天聖元寶(真書) 錢径 25.0(25.0)×内径 20.8(20.7)mm 量目 3.8 g	08K38I8 溝 8Z-1
22 図-12	PL20-32	8H8		II	銅製品	銭	至道元寶(草書) 錢径 24.7(25.0)×内径 18.0(17.6)mm 量目 2.8 g	08K38H8 II Z-2
22 図-13	PL20-33			表採	銅製品	銭	天禧通寶 錢径 23.8(23.8)×内径 19.0(19.2)mm 量目 3.2 g	08K3 表採 Z-7
22 図-14	PL20-34	8H22		II	銅製品	銭	天聖元寶(篆書) 錢径 24.7(24.7)×内径 19.5(19.6)mm 量目 3.0 g	08K38H22 II Z-1
22 図-15	PL20-35	7H24		表採	銅製品	銭	嘉祐通寶(篆書) 錢径 23.3(24.0)×内径 19.3(19.3)mm 量目 2.6 g	08K37H24 表採 Z-14
22 図-16	PL20-36	8H24		III	銅製品	銭	嘉祐通寶(真書) 錢径 23.1(22.4)×内径 19.5(19.5)mm 量目 1.9 g	08K38H24 III Z-1
22 図-17	PL20-37	9I13		表採	銅製品	銭	元祐通寶(行書) 錢径 22.6(22.8)×内径 19.0(18.6)mm 量目 2.0 g	08K39I13 表採 Z-4
22 図-18	PL20-38	8H7		I	銅製品	銭	元符通寶(篆書) 錢径 23.4(23.4)×内径 17.6(18.0)mm 量目 2.6 g	08K38H7 I Z-1
22 図-19	PL20-39	9H1		III	銅製品	銭	洪武通寶 錢径 21.1(21.3)×内径 16.7(17.2)mm 量目 2.1 g	08K39H1 III Z-2
22 図-20	PL20-40	9H12		III	銅製品	銭	永樂通寶 錢径 25.3(25.2)×内径 21.5(21.5)mm 量目 3.0 g	08K39H12 III Z-8
22 図-21	PL20-41	9H13		III	銅製品	銭	永樂通寶 錢径 24.9(25.0)×内径 20.6(20.6)mm 量目 3.4 g	08K39H13 III Z-2
22 図-22	PL20-42			表採	銅製品	銭	輪銭 錢径 14.5(14.7)mm 量目 0.2 g	08K3 トレンチ 7・8 表採 Z-9
22 図-23	PL20-43	8H2		表採	銅製品	銭	寛永通寶 1期 錢径 25.0(25.0)×内径 19.3(19.4)mm 量目 3.1 g	08K38H2 表採 Z-2
22 図-24	PL20-44	8H8		表採	銅製品	銭	寛永通寶 1期 錢径 25.1(24.9)×内径 19.7(19.7)mm 量目 4.0 g	08K38H8 表採 Z-17
23 図-1	PL20-45	8H3		II	銅製品	銭	寛永通寶 3期 錢径 24.1(24.0)×内径 19.6(19.5)mm 量目 2.7 g	08K38H3 II Z-1
23 図-2	PL20-46	8H7		II	銅製品	銭	寛永通寶 3期 錢径 23.2(23.2)×内径 19.3(19.3)mm 量目 2.3 g	08K38H7 II Z-1
23 図-3	PL20-47	8H2		I	鉄製品	銭	寛永通寶(一文銭) 錢径 22.9(23.4)mm 量目 2.7 g	08K38H2 I Z-2
23 図-4	PL20-48	8H1		III	鉄製品	銭	箱館通寶 錢径 21.9(21.7)×内径 17.2(17.2)mm 量目 2.6 g	08K38H1 III Z-1
	PL21-1	11I4	空壕 C	覆土	鍛冶関連遺物	鉄滓	椀型滓 長さ 10.34×幅 9.2×厚さ 3.75 cm 重量 345.1 g	08K31114 空壕 C スラッグ-25
	PL21-2	11I4	空壕 C	覆土	鍛冶関連遺物	鉄滓	椀型滓 長さ 9.35×幅 16.8×厚さ 4.22 cm 重量 384.3 g	08K31114 空壕 C スラッグ-17
	PL21-3	8I8	Pit15	掘方	鍛冶関連遺物	鉄滓	椀型滓 長さ 7.6×幅 12.4×厚さ 3.47 cm 重量 259.4 g	08K38I8Pit15 スラッグ-1
	PL21-4	11I2	溝 4	覆土	鍛冶関連遺物	鉄滓	椀型滓 長さ 7.93×幅 6.34×厚さ 4.46 cm 重量 206.6 g	08K311I2 溝 4 スラッグ-2
	PL21-5	7H17		III	鍛冶関連遺物	鉄滓	椀型滓 長さ 7.76×幅 8.89×厚さ 2.79 cm 重量 231.2 g	08K37H17 III スラッグ-1
	PL21-6	9I13		III	鍛冶関連遺物	不明溶解物	重量 15.5 g	08K39I13 III 不明溶解物-24
	PL21-7	9I8		III	鍛冶関連遺物	不明溶解物	重量 34.7 g	08K39I8 III 不明溶解物-26
	PL21-8	9I8		III	鍛冶関連遺物	不明溶解物	重量 22.1 g	08K39I8 III 不明溶解物-7
	PL21-9	7H23		炭範囲 3	鍛冶関連遺物	不明溶解物	重量 2.0 g	08K37H23 炭 3 不明溶解物-1
	PL21-10	11I4	土壇 3	覆土	鍛冶関連遺物	鍛造剥片	重量 0.8 g	08K31114 土壇 3M-55
	PL21-12	9I8		III	土製品	羽口	長さ (7.02)×幅 (6.96) 重量 108.5 g	08K39I8 III P-1
	PL21-13	11I3	空壕 C	覆土	石製品	羽口	長さ (7.85)×幅 (6.07) cm 重量 57.9 g	08K311I3 空壕 CP-2・3
	PL21-14	9H1		III	土製品	埴塼	長さ (2.55)×幅 (2.14)×厚さ (1.18) cm 重量 4.8 g	08K39H1 III P-1
	PL21-15	9H12		III	土製品	埴塼	長さ (3.18)×幅 (3.43)×厚さ (1.47) cm 重量 7.0 g	08K39H12 III P-24
	PL21-17	10I12		表採	土製品	土鏝	長さ (4.17)×幅 (3.66)×厚さ (1.03) cm 重量 42.2 g	08K310I12 表採土鏝-1
	PL21-18	8H22		III	土製品	玉	長さ (2.39)×幅 (2.51) cm 重量 13.1 g	08K38H22 III P-9
23 図-5	PL21-24	8H22		III	骨角器	不明	長さ 17.2×幅 4.8×厚さ 2.2 cm	08K38H22 III N-3
23 図-6	PL21-22	11I4	空壕 C	覆土	骨角器	不明	長さ 3.2×幅 0.7×厚さ 0.8 cm	08K311I4 空壕 CB-2・3
23 図-7	PL21-23			表採	骨角器	不明	長さ 7.4×幅 3.9×厚さ 1.4 cm	08K39H11・12 表採 B-3~5
23 図-8	PL21-19	9H12		III	骨角器	未製品	長さ 11.1×幅 2.1×厚さ 0.3 cm	08K39H12 III B-7
23 図-9	PL21-20	9H12		III	骨角器	中柄	長さ 11.1×幅 1.1×厚さ 0.7 cm	08K39H12 III B-3
23 図-10	PL21-21	9H2		III	骨角器	中柄	長さ 8.6×幅 1.1×厚さ 0.75 cm	08K39H2 III B-1
23 図-11	PL21-11	9I15	溝 3	覆土	土製品	羽口	長さ (6.3)×幅 (8.5) cm 重量 154.3 g	08K39I15 溝 3 羽口-1
23 図-12	PL21-16	11I4	土壇 16	覆土	土製品	土鏝	長さ 4.0×幅 3.5×厚さ 1.1 cm 重量 44.2 g	08K311I4 土壇 16 土鏝-1
23 図-13	PL21-27	9H12	土壇 10	覆土	石製品	砥石	中砥 長さ 7.0×幅 6.1×厚さ 3.4 cm 重量 163.8 g	08K39H12 土壇 10S-1
23 図-14	PL21-25	11I4	空壕 C	覆土	石製品	砥石	中砥 長さ 12.75×幅 7.1×厚さ 3.8 cm 重量 412.7 g	08K311I4 空壕 CS-2
23 図-15	PL21-26	11I3	空壕 C	覆土	石製品	砥石	中砥 長さ 11.8×幅 6.2×厚さ 1.9 cm 重量 242.1 g	08K311I3 空壕 CS-1
23 図-16	PL21-28	11I2		表採	石製品	砥石	仕上げ砥 長さ 6.5×幅 3.05×厚さ 1.5 cm 重量 44.9 g	08K311I2 表採 SJ-1
23 図-17	PL21-29	9H1		III	石製品	砥石	仕上げ砥 長さ 7.7×幅 2.8×厚さ 1.1 cm 重量 27.0 g	08K39H1 III S-1
23 図-18	PL21-30	8H2		I	石製品	硯	長さ 3.8×幅 2.65×厚さ 1.1 cm 重量 8.3 g	08K38H2 I S-1
23 図-19	PL21-31	11J24		I	石製品	石鏝	長さ 4.2×幅 1.5×厚さ 3.5 cm 重量 1.9 g	08K311J24 I SJ-1
23 図-20	PL21-32	10I21		III	石製品	石鏝	長さ 1.7×幅 1.55×厚さ 0.3 cm 重量 0.9 g	08K310I21 III SJ-1
23 図-21	PL21-33	10H21		表採	石製品	石槍?	長さ 7.2×幅 2.1×厚さ 1.0 cm 重量 14.7 g	08K310H21 表採 SJ-8
23 図-22	PL21-34	11I9	空壕 C	覆土	礫石器	磨製石斧	長さ 8.6×幅 3.45×厚さ 1.45 cm 重量 65.8 g	08K311I9 空壕 CSJ-8
23 図-23	PL21-35	10I21		III	縄文土器	深鉢	II 群 b 口径 30.0 cm	08K310I21 III P-1・2

表34 勝山館跡 出土遺物集計表

時期	種類	器種	破片数	時期	種類	器種	破片数	
勝山館跡併行期	陶磁器	舶載	323	勝山館跡併行期	石製品	砥石	14	
		国産	403			碗	2	
	土師器	皿(かわらけ)			12	羽口	7	
			小計		738	不明	5	
	鉄製品	小計	鏝		3	土製品	土錘	4
			鎌		3	玉	1	
			締金具		5	羽口	13	
			釘		126	不明	9	
			楔		1	小計	27	
			刀子		13	自然遺物	魚骨・獣骨他	300
			小札	16	合計	1788		
			小柄	6	縄文時代	縄文土器	Ⅱ b 群	66
			茶釜	2			Ⅲ a 群	31
			茶釜蓋	1			Ⅲ b 群	3
			鍋	65			Ⅳ群 a 類	4
			火箸	13			群不明	98
			蝶番	1		小計	202	
			釣針	1		石器	剥片石器	6
	錢	14	その他剥片類	75				
	不明	16	礫石器	10				
	小計	286	合計	293				
	銅製品	小計	煙管	5	時擦代文	擦文土器	6	
			小柄	3		江戸時代	陶磁器	139
			鏝	1	鉄製品		釘	90
			八双金具	2	錢		14	
			不明	2	小計		104	
			錢	100	銅製品	錢	45	
小計	113	自然遺物	人骨他	32				
鍛冶	小計	鉄滓	119	合計	320			
		不明溶解物	148	総計	2407			
骨角器	小計	中柄	3					
		中柄 or 鏝	16					
		不明	8					
		小計	27					

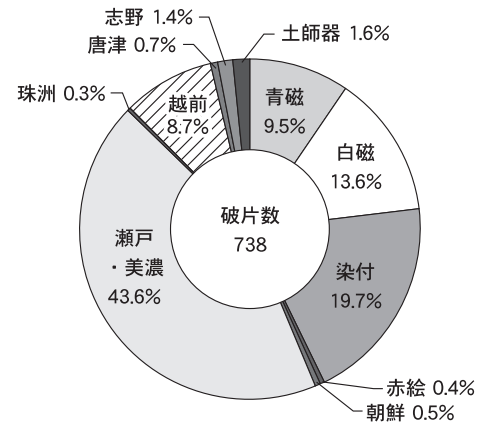


図1 中世土器・陶磁器 種類別組成比(破片数)

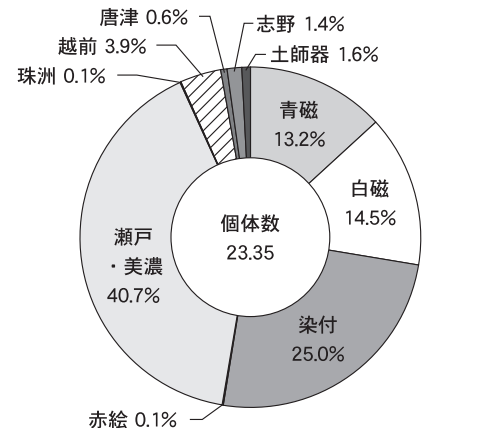


図2 中世土器・陶磁器 種類別組成比(個体数)

表35 中世土器・陶磁器 種類・器種別組成表(全体)

種類	器種	破片数	個体数
青磁	碗	31	0.52
	皿	37	2.57
	盤	2	0.00
小計		70 [9.5%]	3.09 [13.3%]
白磁	皿	95	3.17
	坏	5	0.22
小計		100 [13.6%]	3.39 [14.6%]
染付	碗	42	1.05
	皿	100	4.10
	坏	4	0.69
小計		146 [19.7%]	5.84 [24.4%]
赤絵	碗	3	0.02 [0.1%]
朝鮮	壺	4	0.00 [0.0%]
瀬戸・美濃鉄釉	碗(大窯)	16	0.71
	皿(宍窯)	2	0.08
	皿(大窯)	2	0.10
小計		20 [2.7%]	0.89 [3.8%]
瀬戸・美濃灰釉	碗(大窯)	38	0.58
	皿(大窯)	262	7.87
	瓶(宍窯)	1	0.00
	香炉	1	0.08
小計		302 [40.9%]	8.53 [36.9%]
珠洲	播鉢	2	0.03 [0.1%]
越前	甕	9	0.00
	播鉢	55	0.92
小計		64 [8.7%]	0.92 [4.0%]
唐津	皿	5	0.13 [0.6%]
志野	皿	10	0.33 [1.4%]
土師器	皿	12	0.18 [0.8%]
総計		738 [100%]	2335 [100%]

表36 青磁 器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数	個体数
青磁	碗	龍泉窯系 B4 類	9 [29.0%]	0.22 [42.3%]
		龍泉窯系 C3 類	2 [6.5%]	0.06 [11.6%]
		龍泉窯系 D2 類	1 [3.2%]	0.08 [15.4%]
		龍泉窯系 E 類	3 [9.7%]	0.10 [19.2%]
		龍泉窯系 F2 類	1 [3.2%]	0.06 [11.5%]
		龍泉窯系不明	15 [48.4%]	0.00 [0.0%]
	皿	腰折皿	4 [10.8%]	0.27 [10.5%]
		稜花皿	28 [75.7%]	2.17 [84.4%]
		丸皿	1 [2.7%]	0.13 [5.1%]
		不明	4 [10.8%]	0.00 [0.0%]
盤	龍泉窯系	2	0.00	
小計		70	3.09	

表37 白磁 器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数	個体数
白磁	皿	D 群	5 [5.3%]	0.44 [13.9%]
		E 群	90 [94.7%]	2.73 [86.1%]
	坏	E 群	5	0.22
小計		100	3.39	

表38 染付 器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数	個体数
染付	碗	B 群	6 [14.3%]	0.25 [23.8%]
		C 群	32 [76.2%]	0.66 [62.9%]
		E 群	1 [2.4%]	0.06 [5.7%]
		群不明	3 [7.1%]	0.08 [7.6%]
	皿	B1 群	50 [50.5%]	1.85 [45.1%]
		C 群	42 [42.4%]	1.45 [35.4%]
		E 群	6 [6.1%]	0.34 [8.3%]
		群不明	2 [1.0%]	0.46 [11.2%]
	坏		4	0.69
	小計		146	5.84

III. 絵図・文献史料から見た荒神堂跡

今回、荒神堂跡の発掘調査を実施するにあたり、絵図及び文献史料の情報を参考にして当時の荒神堂の復元に努めている。

ここでは、それら引用したものについて概要を述べる。

1. 絵図からみた荒神堂跡

絵図は、^{やまこ} 糸巻浪家の笹浪兵太郎が慶応2年(1866)に描いた上ノ国の絵図を昭和56年に工藤義二(故人)氏が模写したものを参考にした。今回の調査では、慶応2年の原本の所在が明らかでなかったため、模写したものを使用した。

その絵図では、上國寺脇を流れる寺ノ沢を挟んで若宮社の背後から館神八幡宮へ至る旧道の脇に「御墓」と描かれた箇所がみられる。その箇所は、現在荒神堂跡と伝えられる位置であり、それが荒神堂を描いたものと想定された。

その箇所を詳細にみると、鳥居と柵のような構造物が描かれている。

この絵図からは慶応2年、もしくはそれ以前に鳥居や柵といった構造物が伴う荒神堂の存在が想定された。

2. 文献史料から見た荒神堂跡

文献史料は、以下の5つのものを参考としている。

史料一 松前景広 正保3年(1646)『新羅之記録』

史料二 文政2～安政6年(1819～1859)『笹浪氏諸留』(昭和4年笹浪兵平写本)北海道大学附属図書館蔵

史料三 久末善右衛門 天保12年(1841)『当御上様 御通行之節手継扣』(万延元年笹浪兵太郎写本)

史料四 工藤英三郎 天保13年(1842)『御旧国上之國江代參被仰付候日記』北海道大学附属図書館蔵

史料五 松崎岩穂(1956)『上ノ国村史』

史料一は、天文17年(1548)、勝山館城代であった蠣崎基広が4世季廣に対する謀反の罪により殺され、その翌年に堂を建てたことが記録される。

このときに建てられた堂が、後世に荒神堂として伝わったと思われる。

史料二は、当時上ノ国で神主を務めていた小滝家が管理した神社の概要を記したものである。

そこには、荒神堂の柵の規模が幅1間3尺(約270cm)、奥行き2間(約360cm)で、鳥居の建立がないことが記録されている。

この史料には、柵が構築された具体的な年代が記録されていないため、次に紹介する史料三の天保11年の荒神堂との新旧関係を読み取ることができなかった。

史料三は、後に上ノ国の名主を務めた久末善右衛門が天保12年(1841)年に12代藩主昌広が上ノ国祖廟詣に来たときの様子やその前年の手続き及び準備などを記したものである。傍線1とした箇所は、松前内蔵広純が尾見兵七へ荒神堂の石積の指示を出した時の問答である。松前内蔵広純は、9代藩主道広の五男で当時家老職を務めていた人物である。一方の尾見兵七は、江差奉行の役人である。そこからは、荒神堂の石積を直径9尺、高さ5尺余りにしたことが読み取れる。

傍線2では、久末鉄五郎に玉垣の材料を買い出すことを指示している。久末鉄五郎は、この当時上ノ国の名主を務めた人物である。

傍線3からは、久末鉄五郎・吉見三之丞が夷王山や館神八幡宮周辺から石を集めたが、石が足りなかったので大崎から石を運んだこと、さらに山から馬60駄分の砂利?を運んだことなどが読み取れる。

この史料からは天保11年に直径9尺・高さ5尺余りの石積とその周囲に玉垣を構築したことが窺うことができる。

史料四は、毎年正月に行われた上ノ国三社代参の様子を記したものである。

館神八幡宮と夷王山神社の参拝を終え、下山する際に右側の「御先君様御廟」に尊拝したとある。

この「御先君様御廟」が荒神堂跡のことを指すと考えられる。また、史料三の中にも荒神堂のことを「御先君様之御墓」と表記している箇所がみられる。

史料五は、明治初年(1868)の松前藩士による発掘調査の後に、村人によって荒神堂が再建されたとある。

以上から荒神堂は、史料一の室町時代、史料二・三の江戸時代、史料五の明治以降といった計4つの存在が予想された。

史料一

松前景廣 正保三年(一六四六)

『新羅之記録』

上之國泊の館主嶋崎太郎基廣は良廣朝臣の舎弟二郎高廣の子なり。此人当国を取り持たんがため、季廣朝臣帰依の法師賢藏坊を憑みて祈祷せしむ。故に法師数年心を入れて祈ると雖も遂に成就せず。同十七年三月季廣朝臣上之國へ行く。法師同道し、山中に於て討たんと欲するに叶はずして上之國に至る。其後季廣朝臣天河の毘舎門に参詣す。彼の法師も亦同じく参り開帳して礼拝し奉る時、賢藏坊季廣朝臣に向ひ謝して曰く、我太郎基廣に頼まれ貴殿を討たんと欲し、数年祈ると雖も未だ討つことを得ずと。季廣朝臣此言を聞き、是毘舎門天王の示現と思ひ弥信仰し奉る。上之國より還りて後、長門藤六と云ふ者を差遣はす。藤六廣益持^持つて速かに太郎基廣の頸を討ち、持ち来る。是併せて將に毘舎門天王の擁護に依らんとす。同十八年新たに御堂を造営し冥慮を崇め奉るなり。

史料二

文政三年(一八二〇)～安政六年(一八五九)

『笹浪氏諸留』

昭和四年笹浪兵平写

同所鎮守

荒神社地柵間口柵間三尺奥行貳間、鳥居

建立無御座候、開基之年号・神職共二不相別

候、例祭正月廿六日奉幣右例祭仕候、宝篋・宝物・

縁記等無御座候

史料四

工藤英三郎 天保二三年(一八四二)

『御舊国上之国江御代参被仰付候日記』

一御代参相済、館神八幡宮^下山右方御先君様御廟

御座候三付、尊拜仕下山之事

史料五

松崎若穂 昭和三十二年(一九五〇)

『上ノ國村史』

明治初年、松前藩士によつて、石は除かれ発掘されたが、ただ錆びた折れ刀が出たのみであつた。

その後村人によつて再建された荒神堂も何か潰れて草に埋り、土地も民有に歸してしまつた。

史料三

久末嘉右衛門 天保十二年(一八四一)

置御上様御通行之節手継担

万延元年(一八六〇)笹浪兵太郎写

十一日明六半時

朝御前差上候後、御臺所御見分、石積上^ケ之御差図等尾見兵七様^上被^レ仰出^二候、其時被^レ申候^六、荒神様石積上^一様、^二差渡九尺、方面高^三六尺位^二可^レ然候様被^レ仰候、其時尾見様申上候^六、六尺位^三不^レ格好^三可^レ有御座候、願わくハ七尺位^三仕候度申上候^二處、内藏様仰^二イヤ、^一左様^三丈夫之利方あらず、崩もすまじきや、結局五尺有余六尺不足^三可^レ然被^レ仰候^六、尾見様只ハア、^一御答被^レ成候、其後何分御物語被^レ成、御下山^三御座候、勝山古城地等^三御見分被^レ遊、御城下^上御歸登被^レ成候、同十三日小黒嘉右衛門殿・下役江口重二郎殿向^二人来、今般拙者共出役致候^六、余之義^三もあらず、荒神様石積上之義^三付罷越たり、何れ当所役人中示談之上、格別費^三あらず、早急切成候様御奉行様^レ被^レ仰出^二候間、何分下役江口重二郎差置候間、利方宜様頼入候旨熟談致^六、^二猶荒神様玉垣之材木買出之儀、鉄五郎^三申付候、依^三と^一十四

丈五寸六本、老丈廿八本買出候^二處、江差大工頭倅藤右衛門^三木挽之細工三工大工四拾五工渡細工渡候、同十八日当所^三商売人中石数百八十一割合仕渡候、尤^三同十九日久末鉄五郎・吉見三之丞^三兩人出役致、醫王山腰前^レ八幡宮上下^レ大石凡八十程寄集候、其後^三銘々集^三相成、猶不足^三付ス子コリキ石^三図合^三式艘分積取、山々^レ馬^六拾駄^三も砂沙^三中^三詰込候、石切三人積上、手間賃金^三両請負、日あらず成就致^レ候

IV. 小括

今年度の調査で検出された旧道跡、荒神堂跡、空堀・土塁、魚骨層、土葬墓の遺構について概要を述べる。

旧道跡

勝山館の中央通路と勝山館廃絶後の江戸時代の参道・代参道路と思われる旧道跡が検出された。

勝山館の中央通路は、溝1が中央通路側溝となることを根拠として、主郭からほぼ直線的に第一平坦面を貫通することを想定した。しかし、中央通路は昨年度の報告でもあるように'07溝21に延びることも想定されている。

トレンチ3で検出された空壕Cは、今年度の調査でそれを渡る施設等を確認することができなかった。次年度にそれらを確認する予定のため、その結果を待って中央通路の延長部を考えたい。

勝山館廃絶後とした江戸時代の旧道跡は、トレンチ2～5で溝3・4、トレンチ7・8で溝11・溝17（溝9と同一）が検出された。溝3・4と溝11・17の繋がりについては、トレンチ5～7の間で確認することができなかった。

溝3・4は、トレンチ2で南側に位置する07年度調査で道路2とした旧道方向に曲がることが確認された。その溝3は、トレンチ2の西壁部分で江戸時代以降の削平により消滅している。

溝3・4の新旧関係は、溝4の土層堆積で溝3のセクションが確認できないため、溝4より溝3が古いことが窺われた。溝11・17の新旧関係については、不明である。

荒神堂跡

今年度の発掘調査では、4時期の荒神堂が想定され、古い時期から荒神堂Ⅰ期、荒神堂Ⅱ期、荒神堂Ⅲ期、荒神堂Ⅳ期と分類をしている。それら発掘調査で確認された各期に文献史料、絵図の情報を整合させ、荒神堂跡の変遷を考察した。

なお、荒神堂跡の発掘調査、文献史料、絵図の整合関係は、表39に示した。

(1) 荒神堂Ⅲ期－天保11年(1840)の荒神堂－

土壙8とした直径270～280cmの範囲やその周囲に1辺360cmの正方形に配石が確認された。これらは、その規模から史料三にみられる天保11年に構築

された石積の基礎部分の範囲と考えられた。また、その周囲の配石は玉垣（柵1）の礎石であることが考えられた。

石積基礎の範囲と考えられた土壙8からは、石積に使用した石がわずかに検出されるのみであった。

土壙8の出土遺物は寛永通寶などの他、箱館通寶（安政4年初鑄）といった石積が構築された天保11年より新しい時期のものがみられた。

土壙8では、史料三にみられる5尺余（約150cm）の高さに積まれた石がほとんどないことや天保11年より新しい年代の遺物が出土することを考えると、この石積は後世の攪乱によって壊されていることが想定された。

その攪乱については、土壙8から出土した箱館通寶の初鑄年である安政4年(1857)以降が考えられ、さらに史料五の明治元(1868)年松前藩士による発掘調査による可能性が考えられた。

このことから土壙8の埋土上位に積まれる正方形の石積は、少なくとも明治以降の石積であることが想定された（荒神堂Ⅳ期）。

柵1から北側に約3m離れた階段付近では、鳥居跡と考えられる柱跡が2基みつかった。この鳥居跡は、天保の頃の玉垣と軸方向が揃うことや慶応2年(1866)の上ノ国絵図に鳥居が描かれることから、天保11年～慶応2年いずれかの間に構築されたものと考えられた。

(2) 荒神堂Ⅱ期－1650年～天保11年以前－

天保11年の柵1の下位で、柵1と軸が異なる布掘りの柵2が検出された。柵2は北東面に入口を持ち、史料二と同様の幅約270cm・奥行き360cmの長方形をしているため、史料二に記述される柵であることが考えられた。また、柵2は遺構の切り合い関係から柵1より古く、天保11年の改修前の荒神堂であることが予想された。

柵2の出土遺物は、高台兜巾や見込饅頭心タイプ of 肥前系陶器の碗（Ⅲ期相当）が確認され、編年観から1650年～1690年代に作られた製品であることが想定された。布掘りで構築された柵2の上限年代は、少なくともこの碗の生産された時期を遡らないと思われた。

そのため、柵2の構築年代は1650年～天保10年

の間が考えられた。

(3) 荒神堂Ⅰ期－天文18年(1549)の荒神堂－

石積東側に建物の礎石と思われる約30～40cm大の石が約90cm(3尺)間隔で4個並んでいるのが確認された。さらに、この礎石列に平行もしくは直交する礎石の痕跡が約90cm(3尺)の間隔で検出され、現時点で柱間寸法約3尺、2×3間の礎石建物跡が考えられた。

礎石列やその痕跡は、荒神堂Ⅱ・Ⅲより下位で検出されたため、江戸時代の荒神堂より古いことが想定された。

91年度に実施された勝山館跡の発掘調査では、礎石建物跡が勝山館跡第二平坦面に位置する客殿より西側の17N19・20グリッドで検出されている。

この礎石建物跡は、径30～60cm前後の扁平な石を1.8×3.6mの長方形に配し、その合間に5～15cm前後の角礫を敷き詰めている。礎石と思われる配石は、柱間寸法約3尺、2×3間で確認されたが、当初は2×4間の建物跡であったことが推測されている。

荒神堂で想定された礎石建物跡は、荒神堂Ⅳ期とした石積下位で遺構確認を行っていないため、まだ規模について検討すべき部分も多い。

しかし、礎石の柱間寸法が約3尺を測るなど過年度に検出された勝山館跡の礎石建物跡と共通する部分もみられるため、勝山館に併行する時代に遡る建物跡ではないかと考えられた。

以上から、この礎石建物跡は史料一の天文18(1549)年に建てられた荒神堂の可能性が予想された。

空堀・土塁

トレンチ3で検出された空堀は、第一平坦面の斜面下から幅約5.5m、深さ1mの規模で、現在の通路にほぼ直交して見つかった。

さらに、空堀の東側では緩やかな斜面を削りだし(溝6)、高さ約2.5～3mの土塁に仕上げていることが確認された。

今回の調査では、勝山館跡の虎口の手前に空堀と土塁が発見され、館の入口を堅く守っていたことが明らかになった。

魚骨層

トレンチ5・6の自然研究路東側の斜面で、2次堆積の赤褐色を呈する焼土が混入し、動物遺存体やその他陶磁器・鉄製品などの遺物を多く含む魚骨層とした堆積層が確認された。

魚骨層から出土した陶磁器は、古瀬戸後期～大窯第1段階の瀬戸・美濃製品、珠洲挿鉢や青磁碗(B4類・D2類・E類)・腰折皿・稜花皿、白磁皿E群、染付碗C群・皿B1群・C群などである。

魚骨層が形成された年代は、出土した陶磁器に大窯3～4段階や志野・唐津、染付E群といった16世紀後半の年代観を示すものがみられないことから、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期頃と考えられた。

土葬墓

今年度の調査では、土葬墓が8基(土壙2・3・5・7・9・10・13・16)がみついている。それらのうち土壙13を除いた7基から人骨が出土している。墓が検出された位置は、すべて自然研究路より南東側であった。

各墓の時代は、勝山館併行の墓が土壙2・7・10、江戸時代の墓が土壙3・5・9・13と考えられる。

葬送が確認された墓では、土壙3・5が北東頭位の仰臥屈葬、土壙7が北東頭位の側臥屈葬、土壙10が東頭位の仰臥伸展葬であった。

表39 荒神堂跡の発掘調査・文献史料・絵図の整合関係

今回の調査で想定された荒神堂の構築年代	発掘調査	文献史料	絵図
天文18年(1549)	荒神堂Ⅰ期	史料一	
慶安3年～天保10年(1650～1839)	荒神堂Ⅱ期	史料二	
天保11年(1840)	荒神堂Ⅲ期	史料三	「上ノ国絵図」 慶応2年(1866)
		史料四	
明治元年(1868)以降	荒神堂Ⅳ期	史料五	

V. まとめ

勝山館跡の旧道跡は、昨年度同様課題が残った。課題については、次年度の調査に期待しつつ、過年度の調査の整理をして結論を出したい。

江戸時代の旧道跡と推された溝3・4は、'07溝1-2へ延びず、トレンチ2で屈曲して'07近世道路に延びることが確認された。'07溝1-2は、昨年度の報告で天保期やもう少し古いと考えられた溝である。おそらくトレンチ2～'07トレンチ5の通路部分は、江戸時代に現在のようなV字に切り開かれていない景観が想像され、それがゆえに'07近世道路へ行くルートが選択されたのではなかろうか。そのため、'07溝1-2は江戸時代でなく、近代以降の構築が想像されたところである。

荒神堂跡の調査では、4つの時期の荒神堂跡が想定された。しかし、各時期の建物や柵の構造については、考察することができなかった。次年度の課題としたい。

荒神堂Ⅰ期では、天文19年(1849)と推測される礎石建物跡が検出され、初期の荒神堂の存在をわずかながら確認することができた。

布掘りの柵2が検出された荒神堂Ⅱ期は、その柵内部の施設について手がかりを得ることができなかった。

荒神堂Ⅲ期では、石積の積み方に課題が残った。

史料三で「ス子コ」(大崎)や夷王山や館神八幡宮周辺から石を採集したことが記録されている。これらの石で石積を構築したと考えられるが、表土を除去した時に検出された荒神堂周辺の石を観察すると、荒神堂Ⅳ期とした比較的大型で扁平な50cm前後の石とその周囲の10～20cmの角礫といった2種類が確認された(第16図)。

これら2種類の石には、明瞭に加工した痕跡などはみられなかった。このことから、石の積み方は石に加工を施さない野面積みが考えられたが、詳細については後考したい。

なお、荒神堂をなぜ石積という手法で構築したのかという疑問が残った。

トレンチ5の魚骨層下で検出された土壌10は、東頭位の仰臥伸展葬であったため、アイヌ墓の可能性が想定された。

小括でも述べたが魚骨層の形成時期は、15世紀

第4四半期～16世紀第2四半期頃が考えられた。

土壌10は、その魚骨層を壊して構築されるため、16世紀後半頃の構築を想定した。トレンチ5の東側斜面では、魚骨層が堆積した時期、その後墓が構築された時期と16世紀中頃に土地利用の変化があったと思われる。

今年度の発掘調査で出土した遺物のうち、土葬墓の人骨と魚骨層の動物遺存体について鑑定や分析を行った。

人骨の鑑定は、札幌医科大学の松村博文先生、動物遺存体の分析は、国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生にそれぞれお願いをした。

それらの結果については、次年度の報告書に掲載予定である。両先生には、ご多忙の中にもかかわらず、無理なお願いを快諾して頂き深く感謝申し上げたい。

勝山館跡の直下では、旧笹浪家住宅が平成14年に保存修理され、一昨年に上ノ國八幡宮の改修が行われました。また、昨年には上ノ國八幡宮社務所国道側にエントランス小広場が整備され、上ノ國寺本堂の改修工事がスタートしております。

さらに、長年の懸案であった大型バスが駐車できる駐車場の建設も当地区で予定されることとなりました。

この数年の間に勝山館直下で整備が進み、景観も徐々に変化してきました。

また、整備が進むにつれて個々の文化財の位置付けが見直され、この地区の重要性も増しつつあるように感じられます。とりわけ、背後に位置する勝山館跡との関連性など、今後取り組まなければならない課題もおぼろげながらみえてきました。

これらは、諸先輩方が長年積み重ねてきた努力の賜物であり、それを痛感しつつ地域の方々と共にさらなる文化財の保存・活用に精進して行く所存であります。

最後に、調査に携わって頂いた方々に感謝すると共に不備な点につきましては、多くの皆様にご指導・ご鞭撻をお願いし、補うこととしたい。

写真図版



1. トレンチ1 遺構検出状況(南西から)



2. トレンチ1 竪穴109号 検出状況(南西から)



3. トレンチ2 完掘状況(北西から)



4. トレンチ2 溝16 セクション(北東から)



5. トレンチ3 溝3・4(近世) 完掘状況(北東から)



6. トレンチ3 空壕C 調査風景(南西から)



7. トレンチ3 空壕C 完掘状況(南から)



8. トレンチ3 上面炭1範囲(南から)



9. トレンチ3 土壘・溝6 完掘状況(東から)



10. トレンチ3 空壕C 検出状況(西から)



11. トレンチ3 火箸他遺物出土状況(東から)



12. トレンチ3 土壘5(近世)人骨検出状況(北から)



13. トレンチ3 土壘5(近世)人骨検出状況(東から)



14. トレンチ3 土壘3(近世)人骨検出状況(東から)



15. トレンチ3 土壘3・土壘16(近世)人骨検出状況(南から)



1. トレンチ4 土壌2 遺物出土状況(北から)



2. トレンチ4 土壌6 半截(東から)



3. トレンチ4 土壌4 検出状況(北東から)



4. トレンチ4 土壌7 人骨検出状況(南西から)



5. トレンチ5 焼土 検出状況(東から)



6. トレンチ5
海獣骨検出状況
(東から)



7. トレンチ5 土壌10 調査風景(南西から)



8. トレンチ5 炭範囲2 半截(北から)



9. トレンチ5 竪穴110号 検出状況(西から)



10. トレンチ6
検出状況(南から)



11. トレンチ6 ローム範囲 検出状況(南から)



12. トレンチ6 遺物出土状況(南西から)



13. トレンチ6 魚骨出土状況(南西から)



14. トレンチ7 溝9 検出状況(北東から)



15. トレンチ7
検出状況(北から)



16. トレンチ7 遺構検出状況(北から)



17. トレンチ7 土壌12 半截(北東から)



18. トレンチ7 土壌15 遺物出土状況(南から)



1. トレンチ9 溝15 完掘状況(東から)



2. トレンチ10 土壌9 人骨出土状況(南から)



3. 荒神堂跡 調査前(南から)



4. 荒神堂跡周辺 土壌13・14 半截(西から)



5. 荒神堂跡周辺 盛土 セクション(東から)



6. 荒神堂跡周辺 土壌11 検出状況(西から)



7. 荒神堂跡 柵2 検出状況(東から)



8. 荒神堂跡 柵2・石積範囲 セクション(北東から)



9. 荒神堂跡 鳥居(門)跡 検出状況(南から)



10. 荒神堂跡(天保11年) 柵1(礎石)・土壌8(石積範囲) 検出状況(北から)



11. 荒神堂跡(天保11年) 柵1(礎石)・土壌8(石積範囲) 検出状況(東から)



12. 荒神堂跡(天保11年) 柵1(礎石)・土壌8(石積範囲) 検出状況(北から)



13. 荒神堂跡(江戸期:天保11年以前) 柵2(布掘) 検出状況(北から)



1. 船載陶磁器 (青磁・白磁)



2. 船載陶磁器 (染付・赤絵)



3. 国産陶磁器 (瀬戸・美濃)



4. 国産陶磁器 (珠洲・越前・志野・唐津)



5. 鉄製品 (茶釜・刀子・鎌・鋸・鍋・小札・火箸・釘・締金具他)



6. 銅製品 (煙管・八双金具・小柄・鏝他)



9. 土・石製品 (砥石・羽口・土錘・埴塙他)



7. 銅銭 (北宋・明銭、無文銭・輪銭)



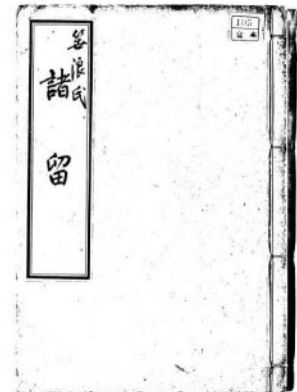
10. かわらけ (口口成形)



8. 銅銭・鉄銭 (寛永通寶・箱館通寶)



11. 骨角器 (中柄・未製品・不明製品)



12. 浪浪氏諸留 (北海道大学附属図書館提供)

日新強字
 荒神社地柵間以手官之尺自自行或方台店
 其之...
 小例...
 念之...
 同...
 同...



1. トレンチ1 (第1平坦面) 調査前風景(主郭より、南西から)



2. トレンチ2・3 調査前風景(西から)



3. トレンチ3 調査前風景(南東から)



4. トレンチ3 調査前風景(東から)



5. トレンチ4・5 調査前風景(東から)



6. トレンチ4・5 調査前風景(南側斜面、北から)



7. トレンチ6・7 荒神堂跡 調査前風景(南から)



8. 荒神堂跡 調査前風景(北東から)



1. トレンチ1 遺構検出状況(南西から)



2. トレンチ1 '07年度調査区 遺構検出状況(北西から)



3. トレンチ1 土壌1 検出状況(南から)



4. トレンチ2・3 遺構検出状況(南西から)



5. トレンチ2 溝4 (近世) 完掘 (北東から)



6. トレンチ3 溝3・4 (近世) 検出状況 (北東から)



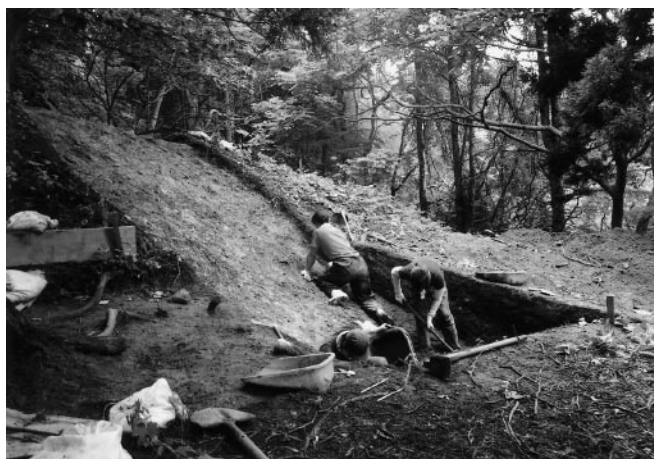
7. トレンチ3 空壕C 完掘(南から)



1. トレンチ3 土壌3・16 人骨出土状況(西から)



2. トレンチ3 溝6上面 炭範囲1(北西から)



3. トレンチ3 溝6 調査風景(南東から)



4. トレンチ4 溝3 セクション(南西から)



5. トレンチ4 完掘(南西から)



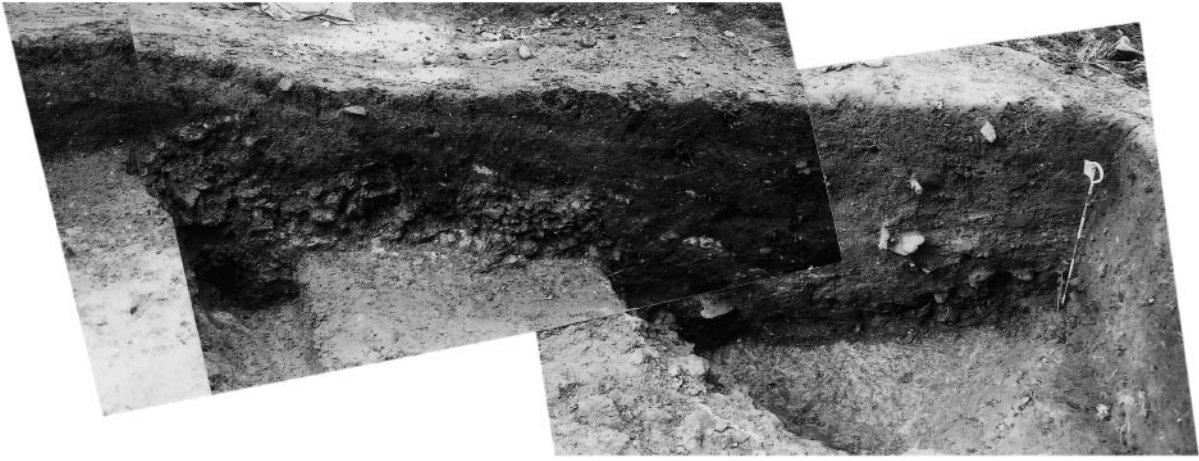
6. トレンチ4 溝5 完掘(西から)



7. トレンチ4 土壌4・7 検出状況(東から)



8. トレンチ4 土壌2 歯・染付出土状況(北から)



1. トレンチ4 セクション(南西から)



2. トレンチ5 溝3・炭範囲2 検出状況(北から)



3. トレンチ5 完掘(東から)



4. トレンチ5 土壌10 人骨出土状況(南東から)



5. トレンチ6 ローム範囲下黒色土層 遺物出土状況(南西から)



6. トレンチ6 遺構検出状況(南西から)



7. トレンチ6 完掘(南西から)



1. トレンチ7 遺物出土状況(西から)



2. トレンチ7 遺構検出状況(北から)



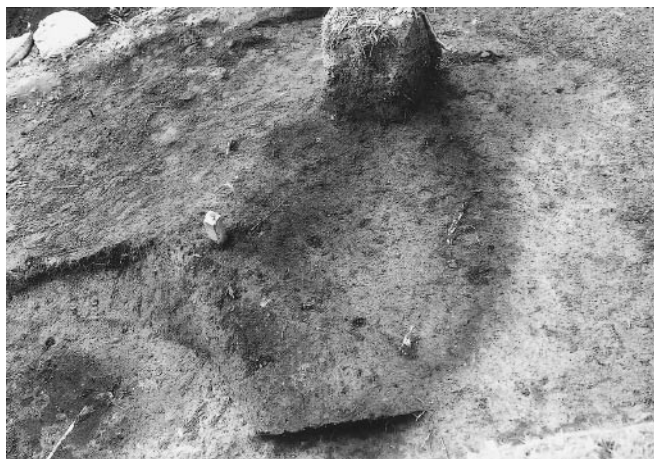
3. トレンチ7 遺構完掘(南西から)



4. トレンチ7 遺構完掘(西から)



5. トレンチ7 土壌15 検出状況(南東から)



6. トレンチ7 土壌12 検出状況(北東から)



7. トレンチ7 セクション(南西から)



1. トレンチ 7 完掘(北西から)



2. 荒神堂跡 石積検出状況(西から)



3. 荒神堂跡 石積検出状況(北から)



4. 荒神堂跡(天保11年改修) 柵1(礎石)・土壇8石積跡検出状況(東から)



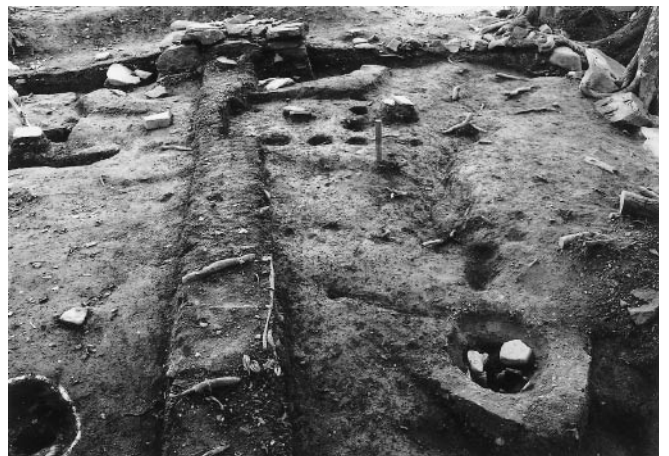
5. 荒神堂跡(天保11年改修) 柵1(礎石)・土壇8石積跡検出状況(南から)



6. 荒神堂跡 鳥居(門)跡検出状況(北東から)



7. 荒神堂跡 柵2(布掘) 検出状況(北から)



8. 荒神堂跡 盛土検出状況(北から)



1. 荒神堂跡 盛土検出状況(東から)



2. 荒神堂跡(天保以前) 柵2(布掘)セクション(北から)



3. 荒神堂跡 柵2セクション(北から)



4. 荒神堂跡 土壇11 セクション(北から)



5. 荒神堂跡 全景(東から)



6. 荒神堂跡(南西側平坦面) 完掘(南東から)



7. 荒神堂跡(南西側平坦面) 完掘(南東から)



8. 荒神堂跡 土壇14・溝10 セクション(南西から)



1. 荒神堂跡 土壇13 セクション(北から)



2. トレンチ8 溝11・17 検出状況(東から)



3. トレンチ9 溝18 検出状況(西から)



4. トレンチ9 溝8 検出状況(北から)



5. トレンチ9 溝18 検出状況(南西から)



6. トレンチ9 溝8・15 検出状況(北から)



7. トレンチ10 土壇9 検出状況(西から)



8. トレンチ10 土壇9 セクション(南から)



Pit 31 竪穴109号

1. トレンチ 1 (12J3・4) セクション (南西から)

溝1 道路跡



溝2

溝1

2. トレンチ 1 (11J24・25) セクション (南西から)



溝16

溝3

3. トレンチ 2 (11J9・10・15, 11J1) セクション (南西から)

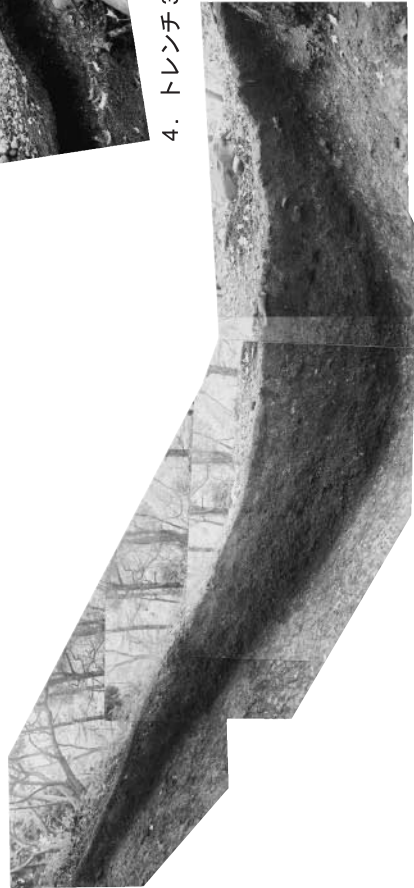
溝4



土塁

4. トレンチ 3 (10J20, 10J16・11・16) セクション (南東から)

溝6



空壕C

5. トレンチ 3 (10J20・24・25, 11J4) セクション (南東から)



土壌I6

1. トレンチ3 (10I25、11I4・5・9) セクション(北から)



溝4

溝3

2. トレンチ3 (10J25、10I21、11I1・2・7) セクション(東から)



溝4

溝3

3. トレンチ3 (10I18・23・24) セクション(東から)



溝3

溝4

4. トレンチ4 (9H20、9I24、10H1・6・7、10I5) セクション(西から)

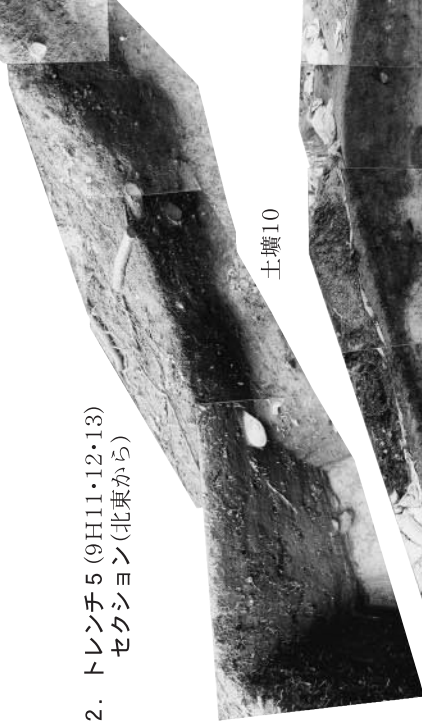
土壌7



溝4



溝3



土壙10



焼土・Pit34

溝7

溝9



1. トレンチ8 (8H7・11・12, 8H15) セクション(南西から)



↑
至宮ノ沢

溝10



2. 荒神堂跡 (8H7・8・13) セクション(東から)



3. 荒神堂跡 (7H22, 8H2) セクション(東から)



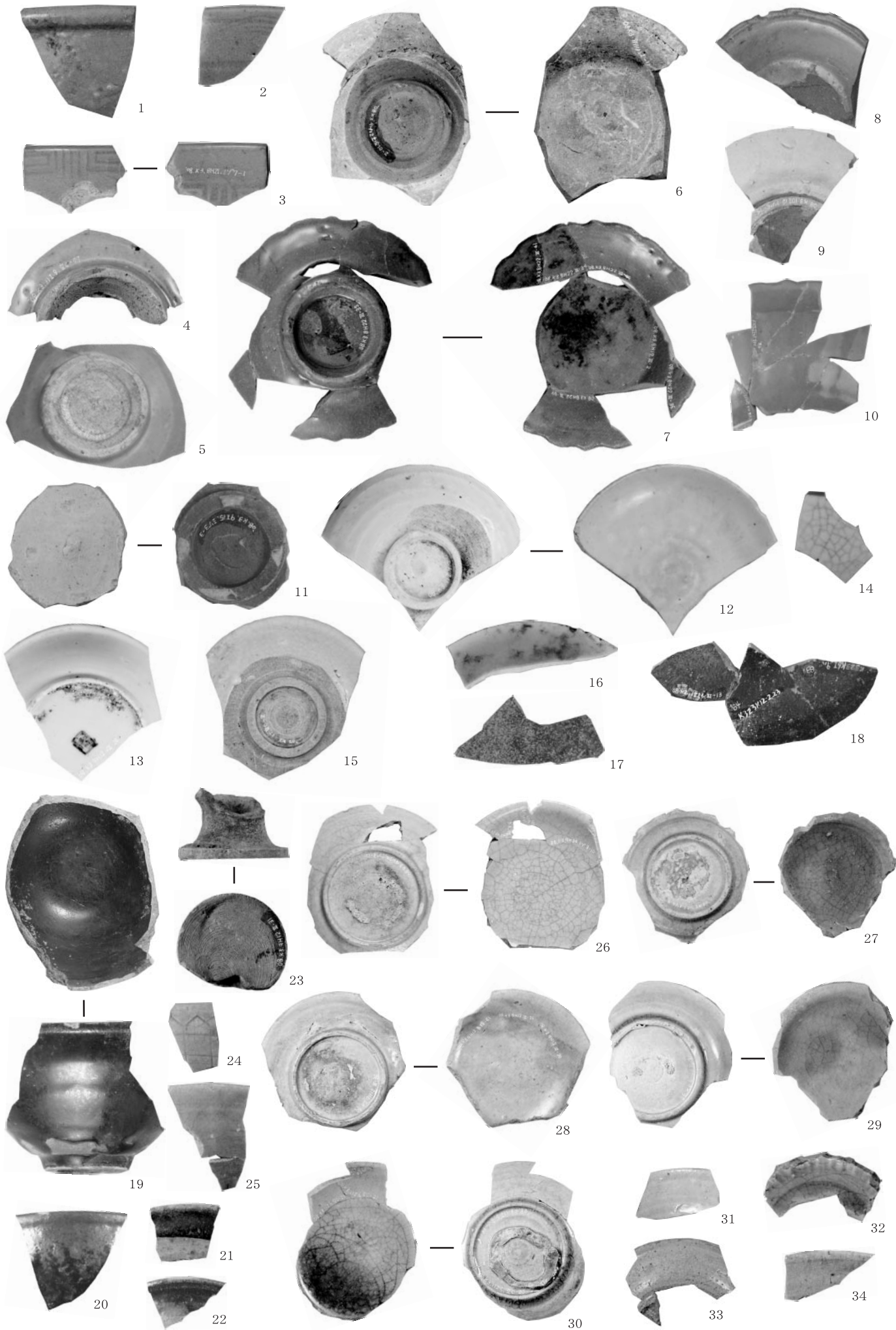
1. トレンチ10(7H24, 8H3・4)
セクション(北東から)

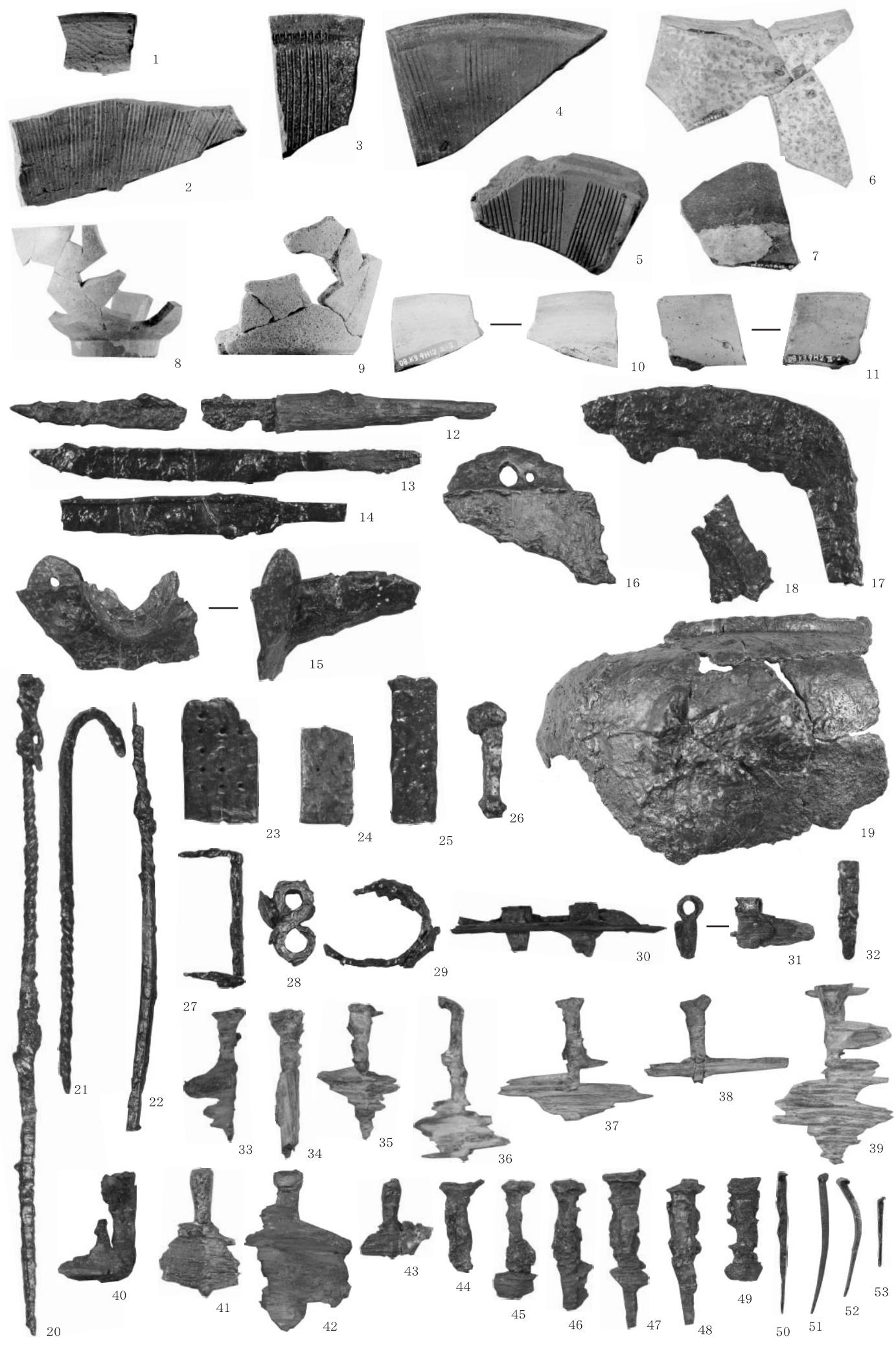


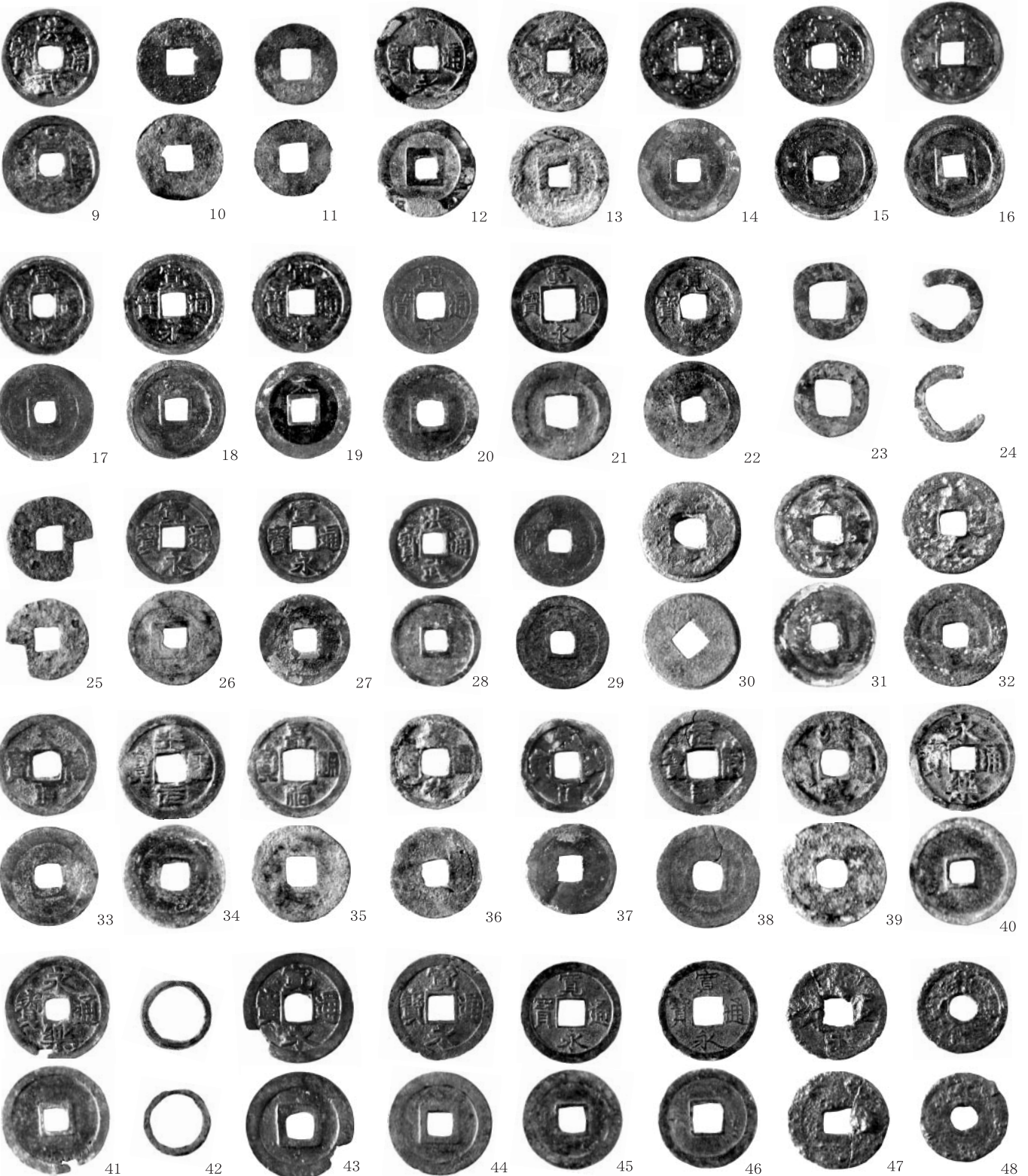
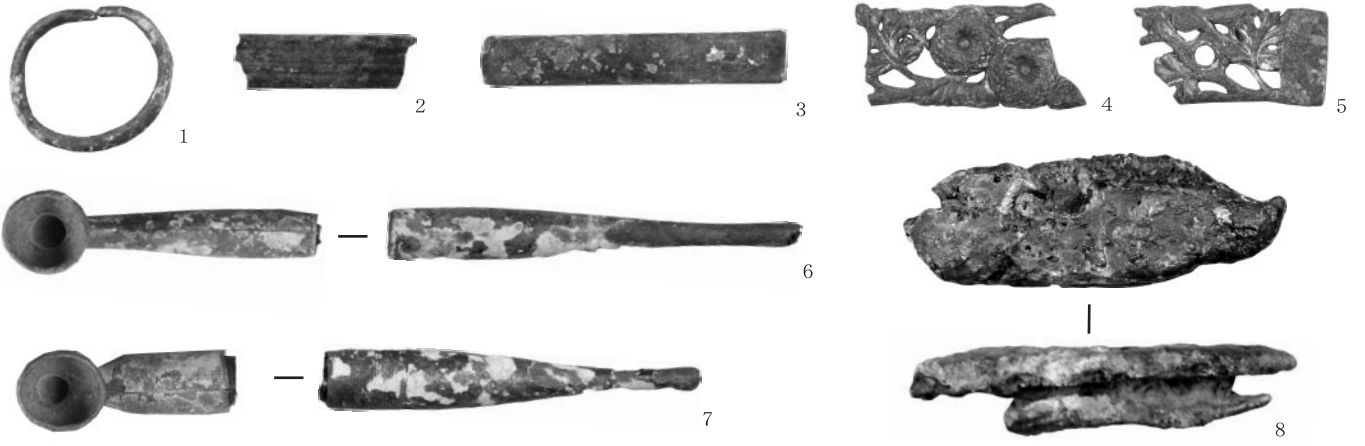
2. トレンチ9(8H6, 8I9・10) セクション(北東から)

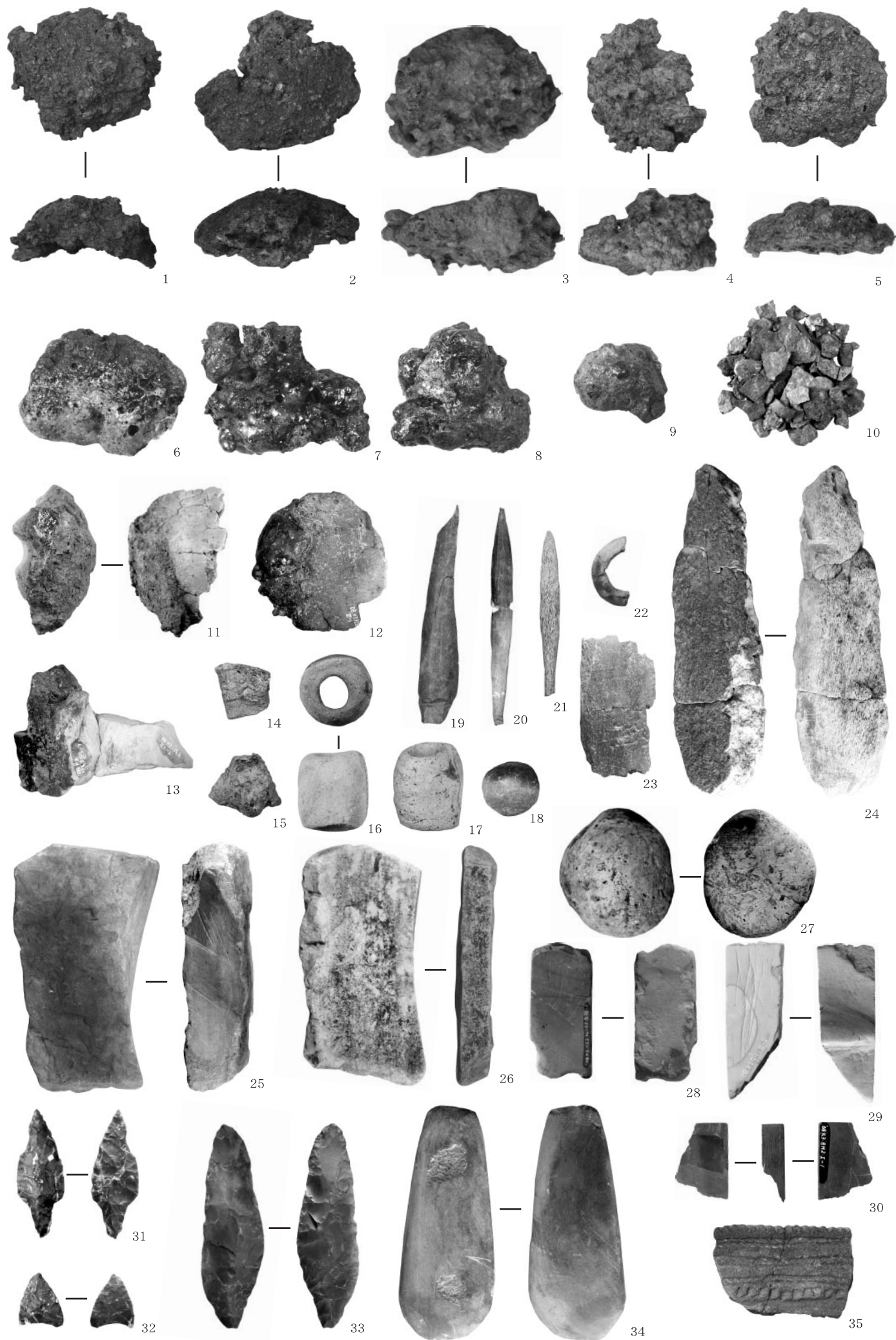


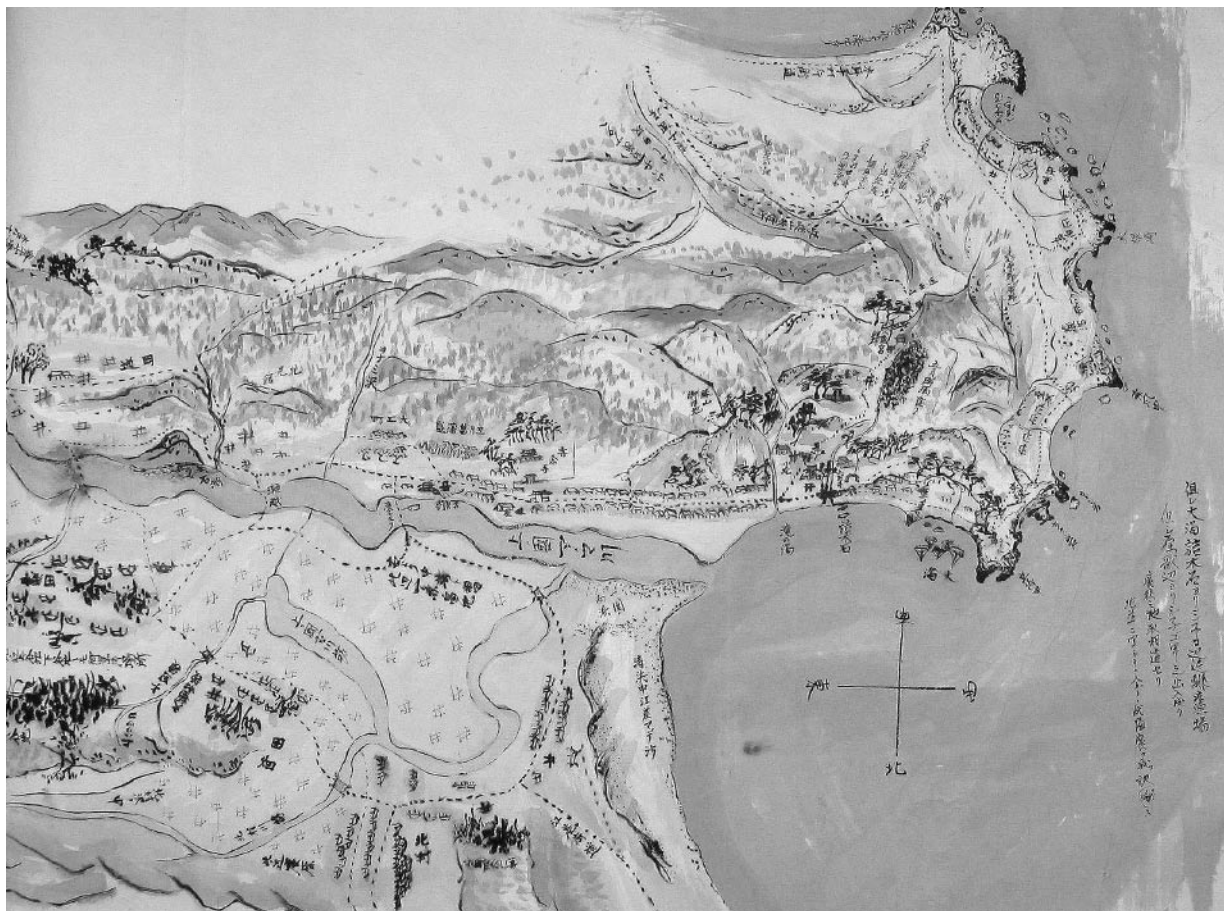
3. トレンチ9(8I8・9・13) セクション(北東から)











1. 上ノ国絵図 -慶応2年(1866)笹浪兵太郎筆、昭和56年工藤義二氏(故人)模写-



2. 上ノ国絵図 荒神堂跡周辺



3. 上ノ国絵図 荒神堂跡



4. 荒神堂跡 礎石列 (北東から)



5. 勝館跡第二平坦面 礎石建物跡 (91年検出、北東から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきかみのくにたてあと かつやまだてあととはくつちようさほうこくしょ							
書名	史跡上之国館跡Ⅱ							
副書名	平成20年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書							
巻次	2							
シリーズ名								
シリーズ								
編著者名	塚田直哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL. 0139-55-2230							
発行年月日	2009年3月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かつやまだてあと 勝山館跡	かみのくにちよう 上ノ国町 あざかつやま 字勝山 ばんちほか 399番地他	013625	C-02-3	41°8'00	140°6'00	平成20年5月7日 ～ 平成20年11月6日	600㎡	史跡等・登録記念物保存修理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
勝山館跡	城館	中世	道路跡2本、空壕・土塁、竪穴建物跡2棟、土壇17基、柵2条、溝19条、柱穴他	陶磁器（青磁、白磁、染付、赤絵、瀬戸・美濃、珠洲、越前、唐津、志野）、かわらけ、鉄製品（釘、鏝、鍋、小札、銭他）、銅製品（小柄、筭、銭他）、石製品（硯、砥石他）、土製品（土錘）、鍛冶関連遺物（羽口、鉄滓、不明溶解物） コンテナ8箱		第一平坦面及びその直下の遺構確認調査により検出された道路跡、竪穴建物跡、土壇などの遺構と出土遺物の報告及び荒神堂跡についての調査報告。		

史跡 上之国館跡Ⅱ

—平成20年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書—

発行：上ノ国町教育委員会
北海道松山郡上ノ国町字大留100

印刷：平成21年 3月19日

発行：平成21年 3月27日

印刷所：(有) 三和印刷
